

Notodoma fungorum Lewis, 1884

日本産ヒゲブトチビシデムシ類要説 (VIII)

保科英人

〒 910-8507 福井県福井市文京 3-9-1 福井大学教育学部

Notes on the Subfamily Coloninae of Japan (VIII)

Hideto HOSHINA

要説連載の前回(保科, 2018)から日本産ヒゲブトチビシデムシ亜科 *Colon* 属最大の亜属である *Myloechus* 亜属の *Colon itoi* 種群の解説に入った。保科(2018)では、同種群所属の4種のうち琉球産2種を紹介した。本稿(VIII)では残りの本土産2種を取り上げる。

Colon itoi 種群 (前回の続き)

Colon itoi 種群の形態的特徴の詳細については、保科(2018)を参照されたい。簡単に同種群の形態についておさらいしておく。前胸背板は性的二型を示さず雌雄でほぼ同型(図2, 3, 14, 15)。前脛節と後脛節は外部輪郭については明瞭な性的二型が出現しない(図4-7, 16-19)。前脛節の外側に多くの細い刺を持つ(図4, 5, 16, 17の上側の矢印)。雄交尾器は背中側と腹側両方に高密度の毛を持つ(図12, 28の矢印)。大抵のヒゲブトチビシデムシは腹側の毛は疎なので、この点は *Colon itoi* 種群

の大きな形態的特徴である。

さて、保科(2018)の繰り返しとなるが、本稿でも同種群所属の日本産4種を再掲しておく。

トゲヒゲブトチビシデムシ
Colon (Myloechus) itoi Hisamatsu, 1985

チョウセンヒゲブトチビシデムシ
Colon (Myloechus) shini Park & Hoshina, 2005

セアカヒゲブトチビシデムシ
Colon (Myloechus) rubellum Hoshina & Fukuzawa, 2010

アマミセアカヒゲブトチビシデムシ
Colon (Myloechus) pseudorubellum Hoshina & Nishikawa, 2016

本稿で扱うのはリストの上2種(トゲヒゲブトチビシデムシとチョウセンヒゲブトチビシデムシ)である。ここで保科(2018)で尻切れとんぼになっていた *Colon itoi* 種群の検索表の続きを記す。



図1. トゲヒゲブトチビシデムシ *Colon (Myloechus) itoi* Hisamatsu (愛媛大学ミュージアム所蔵)

Colon itoi 種群の種への検索表 (前回の続き)

- 1) 頭部は黒色で、茶色の前胸背板と上翅と比較して大抵色が濃い(ただし後述の「種内変異に関する知見」を参照のこと)。前胸背板の点刻は非常に浅くて不明瞭になったり、隣接する点刻同士が潰れて繋がったりするものがある。前脛節は雌雄で大きな差はない(図4, 5)。雄後腿節の角状突起は細長く、明らかに後方に延びる(図6)。雄交尾器の側片は腹側と背中側から見て、次種よりも相対的に細い(図10, 11)。分布地: 本州, 四国.....トゲヒゲブトチビシデムシ
- 2) 頭部, 前胸背板, 上翅は茶色か赤褐色, または濃褐色で, 背面はだいたい単一色。前胸背板の点刻は前種と比較して明瞭で, 個々の点刻は独立して隣同士の点刻はほぼ繋がらない。前脛節の外部輪郭は雌雄の間で大差はないが(図16, 17), 雄は前脛節腹側先端に高密度の太短い刺を持つ(図16の下側の矢印)。雄後腿節の細長い角状突起は大抵斜め下方向に延びるが(図18), 突起の形状は極めて種内変異が大きい(図20-23)。雄交尾器の側片は腹側と背中側から見て, 前種よりも相対的に太い(図26, 27)。分布地: 日本(本州, 四国, 北海道), 韓国.....チョウセンヒゲブトチビシデムシ

トゲヒゲブトチビシデムシ**Colon (Myloechus) itoi Hisamatsu, 1985**

(図 1-13)

体長は 1.8-3.0 mm で, 頭部は黒色, 前胸背板と上翅は褐色, 時にやや赤みがかった褐色となる(ただし後述の「種内変異に関する知見」を参照のこと)。頭部と上翅の表面は平滑だが, 前胸背板は弱い microreticulation を有する。毛の生え際の点刻(setal socket punctures)を含む前胸背板の点刻は, 非常に浅くて不明瞭になったり隣接する点刻同士が潰れて繋がったりするものがある。前脛節は雌雄とも基部から先端に向かって単純に広がり, 外縁の細い刺は同種群の特徴である高密度となる(図4, 5)。雄前脛節は雌よりもやや幅が広がるが(図4, 5), 次号以降に扱う *Myloechus* 亜属 *Colon japonicum* 種群と比すると, その性的二型はさほど顕著ではない。雄前脛節は雌と比較するとより横に広がる(図4, 5)。後腿節は雌雄とも細長い。雄後腿節は後縁外側約 2/5 が後方へ膨らみ, また, 後縁外側に後方へ延びる長い角状突起を持つ(図6)。雌後腿節の後縁は単純に直線状(図7)。後脛節は雌雄とも内側に曲がらず直線状(図6, 7)。後胸腹

板中央五角形部分の毛の生え際の点刻(setal socket punctures)と通常の点刻は程々の密度で明瞭(図8, 9)。雌の後胸腹板中央部分はおおよそ平ら(図9)。一方, 雄は中央部分がしばしばやや凹むが(図8の矢印), 雌同様に平らな場合もある。雄交尾器は(図10-12)の通り。側片の先端は腹側および背中側から見て単純に鈍く尖るが(図10, 11), たまに先端近くで急に細くなる場合がある(図13)。同種群の特徴のごとく側片は中央片と比して相対的に小さく, 背中・腹側両方に高密度に毛がある(図12)。

分布地: 本州, 四国。

雑記。本種は Hisamatsu (1985) によって記載された。今のところ Hoshina (2009) が分布地として記録しているのは関東以西の本州と四国のみである。もっとも, 本種は 1985 年発行の保育社『原色日本甲虫図鑑 II 巻』に標本写真付きで掲載されているので, 筆者が把握しえない地方同好会誌等の文献で他地域から記録されている可能性はある。

とは言え, 本種の外部形態は次種のチョウセンヒゲブトチビシデムシと酷似しているので, 誤同定に基づく記録の混在の可能性は否定できない。あくまで筆者個人の標本箱に収まっている標本数については, との条件付きだが, トゲヒゲブトチビシデムシは 20 年後に発見された次種のチョウセンヒゲブトチビシデムシよりも数が少ない珍品のようだ。また, 本種の雄後腿節の角状突起はアワヒゲブトチビシデムシ *Colon (Colon) yoshidai* Hoshina, 2009 に似ているので(保科, 2016b), これと混同されている地方同好会誌上の記録もあるかもしれない。

なお, 筆者の手元には未発表ながらトゲヒゲブトチビシデムシと思いき屋久島産個体があるので, 今後, 九州・屋久島からも記録される可能性が高い。

チョウセンヒゲブトチビシデムシ**Colon (Myloechus) shini Park & Hoshina, 2005**

(図 14-28)

体長は 2.7-3.6 mm で, 頭部, 前胸背板, 上翅は茶色か赤褐色, または濃褐色で, 背面はだいたい単一色。頭部と上翅の表面は平滑だが, 前胸背板は弱い microreticulation を有する。毛の生え際の点刻(setal socket punctures)を含む前胸背板の点刻は前種と比べて明瞭で, 隣接する点刻同士は潰れて接合することなくおおよそ独立している。前脛節は雌雄とも基部から先端に向かって単純に広がり, 外縁の細い刺は同種群の特徴である高密度となる(図16, 17)。雄前脛節は雌よりも幅が広がるが(図16, 17), 次号以降に扱う *Myloechus* 亜属

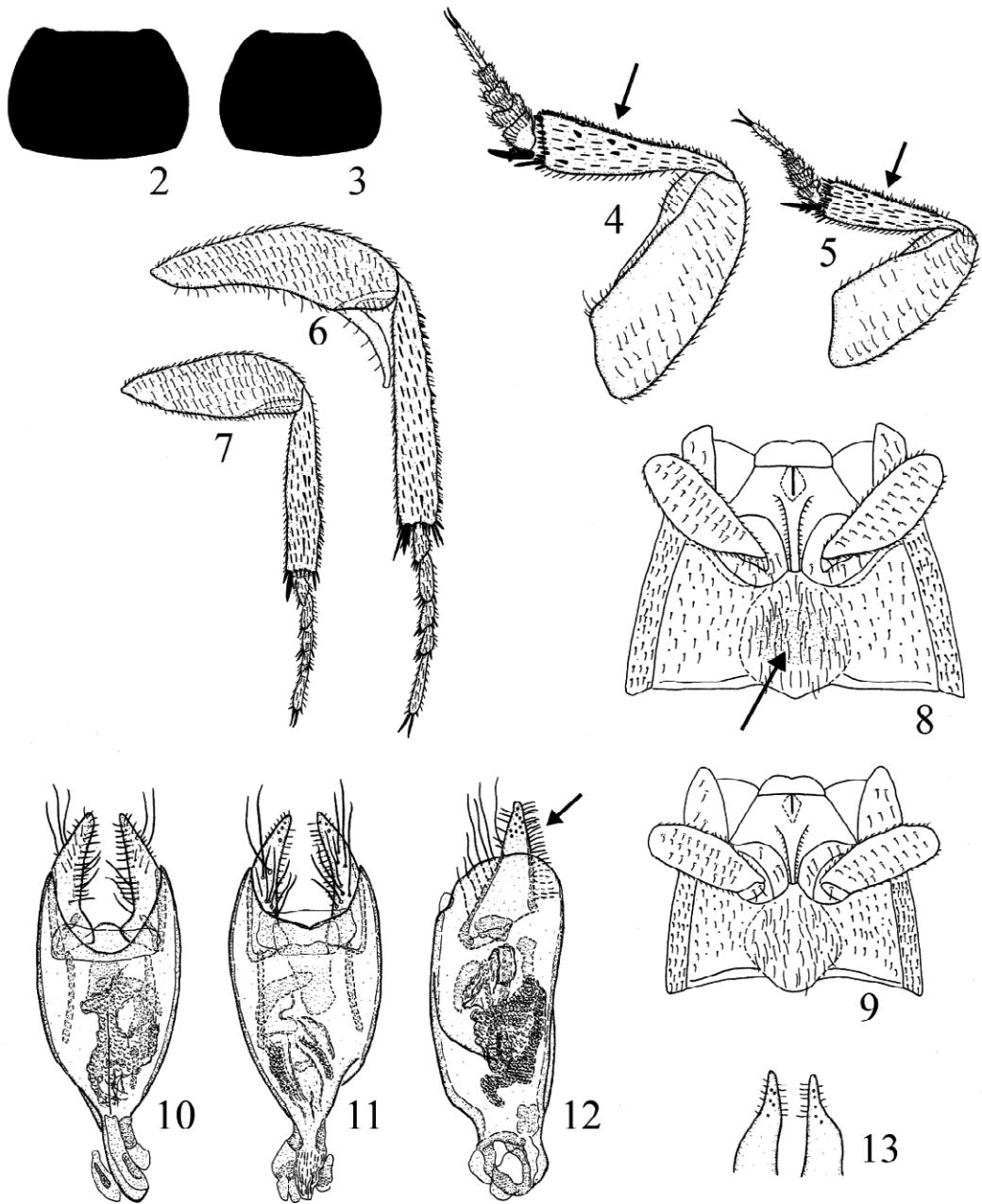


図2-13. トゲヒゲトチビシテムシ *Colon (Myloechus) itoi* Hisamatsu. 図2. 雄前胸背板. 図3. 雌前胸背板. 図4. 雄前脚. 図5. 雌前脚. 図6. 雄後脚. 図7. 雌後脚. 図8. 雄中胸腹板および後胸腹板. 図9. 雌中胸腹板および後胸腹板. 図10-12. 雄交尾器 (それぞれ腹側, 背側, 横側). 図13. 雄交尾器側片の先端 (背側). 図は全てHoshina (2009) より引用.

Colon japonicum 種群と比べると, その性的二型はさほど顕著ではない. しかし, 雄前脚は腹側先端近くに高密度の太短い刺を持つが (図16の下側の矢印), 雌にはない (図17). 雄前脚は雌と比較するとより横に広がる (図16, 17). 後脚は雌雄とも細長い. 雄後脚は後縁外側約半分が後方

へ膨らみ, 後縁外側に斜め下方向へ延びる角状突起を持つ (図18). しかし, この角状突起の種内変異は激しく (図18, 20-23), 最も多いのは図18のタイプだが, 突起が極端に短いもの (図20), 突起が真後ろに短く延びるもの (図21), 後脚の後縁がやや膨れるだけで突起を持たないもの (図22),

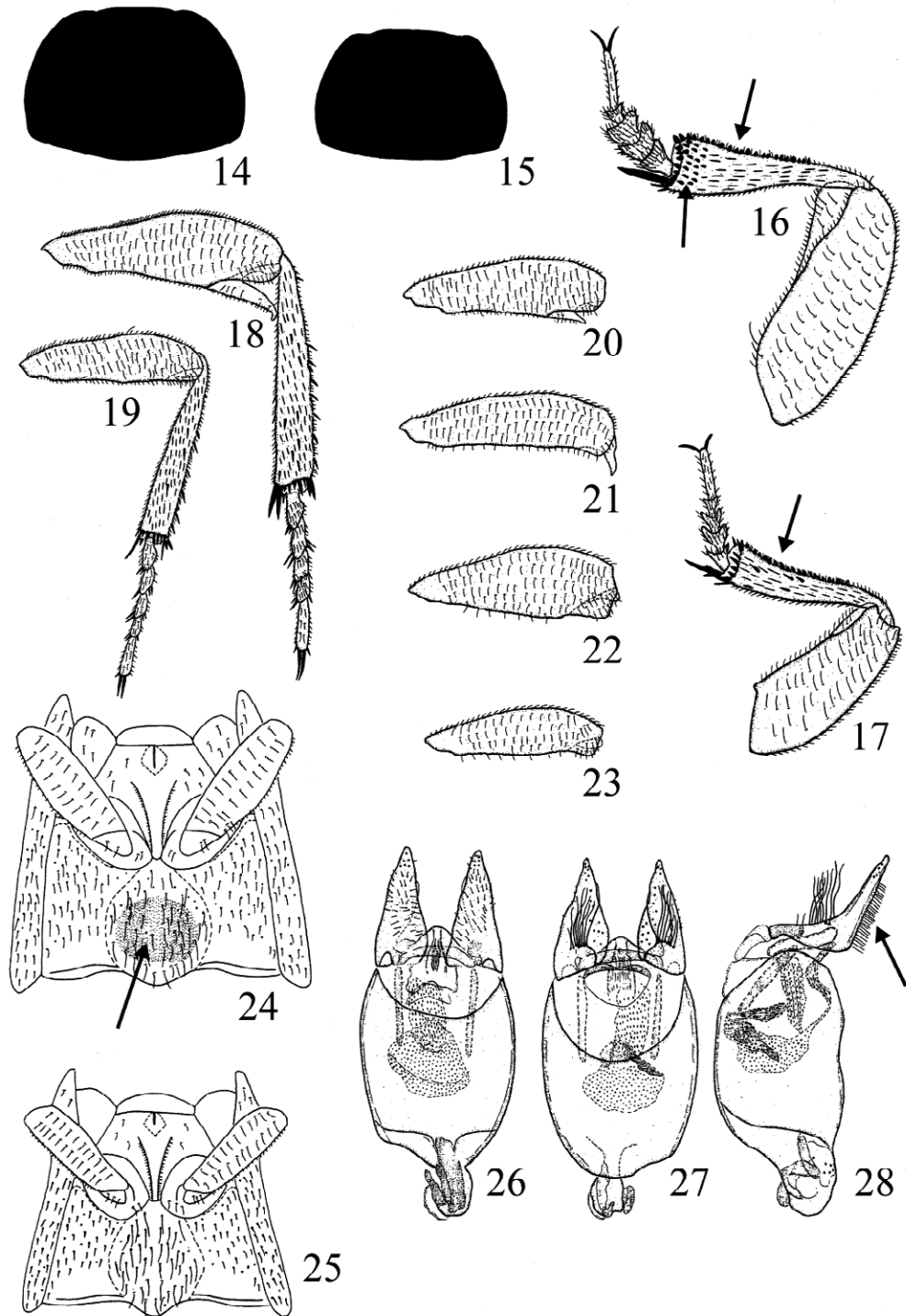


図 14-28. チョウセンヒゲブトチビシテムシ *Colon (Myloechus) shini* Park & Hoshina. 図 14. 雄前胸背板. 図 15. 雌前胸背板. 図 16. 雄前脚. 図 17. 雌前脚. 図 18. 雄後脚. 図 19. 雌後脚. 図 20-23. 雄後腿節. 図 24. 雄中胸腹板および後胸腹板. 図 25. 雌中胸腹板および後胸腹板. 図 26-28. 雄交尾器 (それぞれ腹側, 背側, 横側). 図は全てHoshina (2009) より引用.

後縁が膨らむことすらなく雌とほぼ同じ形状の雄後腿節(図23)も稀に存在する。そして、これら雄後腿節の角状突起に見られる形態差は地域変異ではなく、また体サイズと直接関係するものでもない。雌後腿節の後縁は単純に直線状(図19)。後腿節は雌雄とも内側に曲がらず直線状(図18, 19)。後胸腹板中央五角形部分の毛の生え際の点刻(setal socket punctures)と通常の点刻は程々の密度で明瞭(図24, 25)。雌の後胸腹板中央部分はおおよそ平ら(図25)。一方、雄は中央部分がしばしばやや凹むが(図24の矢印)、雌同様に平らな場合もある。雄交尾器は(図26-28)の通り。同種群の特徴のごとく側片は中央片と比して相対的に小さく、背中・腹側両方に高密度に毛がある(図28)。前種と比して側片は明らかに太短い(図26, 27)。

分布地：本州，四国，北海道；韓国。

雑記。本種は Park *et al.* (2005) によって記載された。本種は日本と朝鮮半島の唯一の共通分布種である。今のところ本種は九州から発見されていないが、上記の分布地からして、九州にも生息することは確実であろう。

雄前腿節の腹側先端近くにある高密度の太短い刺(図16の下側の矢印)は、日本産他種には見られない本種最大の特徴である。さらに雄前腿節の腹側先端の刺の性的二型は、筆者が知る限り海外産種を含めても本種でのみ見られる。しかし、過去の記載では、雄前腿節の腹側の形状についてほとんど言及されていないので、この性的二型が真に本種のみの特徴であるか否かは判定し難い。

種内変異に関する知見

本稿で扱ったトゲヒゲトチビシデムシとチョウセンヒゲトチビシデムシの区別は難しい。上記の検索表を見返していただきたい。雌雄問わず両者を簡単に区別できそうなのは、「頭部の色が前胸背板と上翅よりも濃いかほぼ同じか」であるが、あくまで「現時点で筆者が存在を把握する標本に限り」との前提条件下である。端的に言えば、現時点ではトゲヒゲトチビシデムシは珍品なので、今後背面がほぼ単一色の同種が見つかる可能性を否定できないのだ。そうなると体色で両者を区別することはできなくなる。雄後腿節の角状突起も同様で、両者の典型的な突起(図6, 18)を比較する限りでは識別は一見容易に思われるが、今後中間体のような個体が発見されると、途端に窮することとなる。

前胸背板の点刻も体色同様雌雄関係なく区別点として一応利用できる形質であるが、あくまで両者を並べた場合によろやく「言われてみれば違う」

程度の差が分かる相対的なものである。そもそも多くの本会会員にとってビーティングで捕れないヒゲトチビシデムシを実見する機会はありません。いざいざと、トゲヒゲトチビシデムシとチョウセンヒゲトチビシデムシを分けるなどと下らないことをせぬようお勧めする。その方が精神衛生上良い。然るにどうしても両者を分けたいのだ、と酔狂な意思を持つ方は、両方の雄を捕り交尾器の側片の形状で両者を区別した後、前胸背板の点刻を観察し直せばよいだろう。

トゲヒゲトチビシデムシとチョウセンヒゲトチビシデムシの雄後胸腹板の中央部分の凹みについて補足しておく(図8, 24の矢印)。上述の通り雌がおおよそ平らであるのに対して、雄はやや凹む場合が多い。後胸腹板の性的二型については既に保科(2016a)で紹介した。ヒゲトチビシデムシが所属するハネカクシ上科で言えば、ハネカクシ科デオキノコムシ亜科デオキノコムシ属の後胸腹板が明瞭な性的二型を示す(Hoshina & Morimoto, 1999)。一方、トゲヒゲトチビシデムシとチョウセンヒゲトチビシデムシの場合は、雄でも雌同様に平らな後胸腹板を持つものが時々出現する。よって、これら両種の後胸腹板は不完全な性的二型と言えるだろう。なお、従来のヒゲトチビシデムシの分類では腹側の形質はほとんど用いられてこなかった(保科, 2016a)、両種の後胸腹板の性的二型が世界中のヒゲトチビシデムシの中で普遍的な現象なのかどうかは不明である。

本稿のトゲヒゲトチビシデムシとチョウセンヒゲトチビシデムシ、特に後者については種内変異に関する記述に多くを割いた。前段の後胸腹板もその一つだが、最たる変異はチョウセンヒゲトチビシデムシの雄後腿節の激しい形態差である(図18, 20-23)。注記しておきたいが、ヒゲトチビシデムシ亜科の中でチョウセンヒゲトチビシデムシが突出して種内変異が激しい種である、と指摘したいわけではない。これは単に本会会員の鈴木茂氏が大量のヒゲトチビシデムシの採集に成功され、かつ筆者にご提供いただいた標本の中にチョウセンヒゲトチビシデムシが多く含まれていたからに過ぎないだろう。よって、トゲヒゲトチビシデムシは無論のこと、これまでの要説シリーズで紹介済みの種についても追加標本が得られれば、新たな種内変異が見つかる可能性は高い。

Colon itoi 種群の生物地理に関する雑感

Hoshina (2009) で日本産ヒゲトチビシデムシ亜科を整理した際には、*Colon itoi* 種群は日本本土と朝鮮

半島に生息するトゲヒゲトチビシデムシとチョウセンヒゲトチビシデムシの2種だけであった。それ故、筆者は漠然と同種群は朝鮮半島経由で日本に侵入したと考えていた。ただ、大陸からチョウセンヒゲトチビシデムシが現在の日本列島に到達した後、トゲヒゲトチビシデムシが種分化したとするには、チョウセンヒゲトチビシデムシの特徴的な雄前脛節の腹側先端の刺(図16)の存在がネックになる。他のヒゲトチビシデムシの形態を鑑みると、同形質は明らかに派生形質だからである。無論、トゲヒゲトチビシデムシが日本列島内で種分化する際に雄前脛節の刺を再び失った、と解釈できないこともないのだが、どうにもこうにも引っかかる。

また前号(保科, 2018)で紹介した *Colon itoi* 種群の2種が琉球列島で発見されたことから、*Colon itoi* 種群が旧北区の東の端のみに分布する種群ともいえなくなった。筆者はたった1種の分布に関する新知見から、頭の中で描いていた特定の分類群の生物地理学的ストーリーが脆く崩れた苦い経験をしたばかりである(保科, 2017)。日本を取り巻く極東ロシア、中国大陸、台湾のヒゲトチビシデムシ相の知見が極端に乏しい現在、ヒゲトチビシデムシの生物地理については当分口をつぐんでいた方が良さそうだ。

謝辞

本稿で扱ったチョウセンヒゲトチビシデムシの標本を数多く提供してくださった本学会員の鈴木茂氏に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Hisamatsu, S., 1985. Notes on some Japanese Coleoptera, I. Transactions of the Shikoku Entomological Society, 17: 5-13.
- Hoshina, H., 2009. A taxonomic revision of the subfamily Coloninae (Coleoptera: Leiodidae) from Japan and Taiwan. Tijdschrift voor Entomologie, 152: 237-286.
- 保科英人, 2016a. 日本産ヒゲトチビシデムシ類要説(II). さやばねニューシリーズ, (22): 1-7.
- 保科英人, 2016b. 日本産ヒゲトチビシデムシ類要説(III). さやばねニューシリーズ, (23): 1-5.
- 保科英人, 2017. 北海道産タマキノコムシ亜科北方系2属に関する知見。一トムラウシ渓谷産甲虫目録から見えてくるもの。神奈川虫報, (194): 5-8.
- 保科英人, 2018. 日本産ヒゲトチビシデムシ類要説(VII). さやばねニューシリーズ, (29): 1-5.
- Hoshina, H. & K. Morimoto, 1999. Descriptions of three new species of the genus *Scaphidium* (Coleoptera: Staphylinidae: Scaphidiinae) from the Ryukyus, Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 5: 87-95.
- Park, S.-J., H. Hoshina, H., & K.-J. Ahn, 2005. Descriptions of two new species of the genus *Colon* Herbst (Coleoptera: Leiodidae: Coloninae) from Korea and Japan. The Coleopterists Bulletin, 59: 407-413.

(2018年8月24日受領, 2018年8月31日受理)

【短報】大東諸島初記録となるヒゲトテントウダマシの採集

ヒゲトテントウダマシ *Trochoideus desjardinsi* Guérin-Ménéville は、特異な太い触角を持つテントウムシダマシ科の甲虫で(佐々治, 1985), 好蟻性昆虫としても知られている(寺山・丸山, 2007)。本種は、東アジア、東南アジア、ミクロネシア、アフリカに分布しており、日本では琉球諸島の沖縄諸島と先島諸島および小笠原諸島から記録されている(佐々治, 1985)。筆者らは、これまで本種の記録のなかった大東諸島の南大東島で(佐々治, 1985; 東, 1989)、本種を採集しているので報告する。



図1. 南大東島産ヒゲトテントウダマシ(スケールは1mm)。

1♂(図1), 沖縄県島尻郡南大東村(25°51'28"N, 131°15'37"E), 14. VIII. 2015, 矢代敏久・柳元亜由美採集。

なお、本種はこれまでアリやシロアリの巣中から得られているが、通常はアシナガキアリ *Anoplolepis gracilipes* (Smith) の巣に見られる(寺山・丸山, 2007)。本採集個体も、シュワルツカンザイシロアリ *Incisitermes schwarzi* (Banks) の巣中から得られたものであるが、近くにはアシナガキアリの巣もあったことも記しておく。

引用文献

- 東 清二, 1989. 南大東島の昆虫相に関する若干の考察. 沖縄農業, 24 (1・2): 27-39.
- 佐々治寛之, 1985. テントウムシダマシ科. 原色日本甲虫図鑑(III): 237-243 (pl. 39). 保育社, 大阪.
- 寺山 守・丸山宗利, 2007. 日本産好蟻性動物仮目録. 蟻, (30): 1-37.

(矢代敏久 Sydney, NSW 2006, Australia
シドニー大学生命環境科学部)

(矢代亜由美 604/15 Atchison Street, St Leonards,
NSW 2065, Australia)

日本産オビジョウカイモドキ属の解説

池田 大¹⁾・吉富博之²⁾

¹⁾ 〒 669-1313 三田市福島 1091-2 三田市有馬富士自然学習センター

²⁾ 〒 790-8566 松山市樽味 3-5-7 愛媛大学農学部昆虫学研究室

Identification Guide of Japanese *Intybia* (Malachidae)

Hiroshi IKEDA and Hiroyuki YOSHITOMI

緒言

日本産ジョウカイモドキ科は70種(分布疑義種を含む)が知られているが、分類学的研究は立ち遅れており未だに新種が発見される。その中で最も身近に見られる属にオビジョウカイモドキ属 *Intybia* がある。本属の日本産種は、いずれも翅鞘に黄色の横帯を有しており、最も認識しやすいグループであるが、種の同定となると意外に難しい。そこで、筆者らは本属の再検討を行い、1新種を記載すると共に同定が容易に行えるよう知見の整理を行った (Ikeda & Yoshitomi, 2017)。

本報告では、上記論文を基に和文で簡易に解説する。雄交尾器の特徴や詳細な記載は、原著 (Ikeda & Yoshitomi, 2017) に当たって欲しい。

雄交尾器内袋の観察方法と骨片の特徴

オビジョウカイモドキ属はイソジョウカイモドキ属 *Laius* と近縁であり、雄交尾器の基本的な構造は同じである。内袋には発達した骨片が存在し、それらは交尾器内部に収納された状態でも透けて見ることができる。

これを観察するには、お湯などで柔らかくした

標本から雄交尾器を取り外した後(内袋は交尾器内部に収納されている状態: 図1A)、交尾器の基部から細い昆虫針を先端方向にそっと差し込み、内袋を先端方向に押し出すようにする。すると長い骨片(gp: gonoporal piece)の先端が交尾器の膜質部から突き出る。その状態になったら、今度は長い骨片の先端をピンセットでつまみ、ゆっくり先端方向に引き延ばす。すると交尾器の先端から内袋が全て反転した状態で観察できるようになる(図1B)。慣れると比較的簡単な観察方法である。この手法はジョウカイモドキ科の中でも長い骨片を有するグループでは有効であるが、骨片が発達しないグループでは使えない。

日本産オビジョウカイモドキ属の骨片は、イソジョウカイモドキ属にも見られた gonoporal piece (gp) と ligula (l) のほかに semi-gonoporal piece (sgp) を有する種もあった(図1B)。また、内袋基部の膜質部は両属とも棘毛が密生した spinous area (sa) となっているが、オビジョウカイモドキ属ではより硬化した spinous plate (sp) を有する種もあった(図1C)。

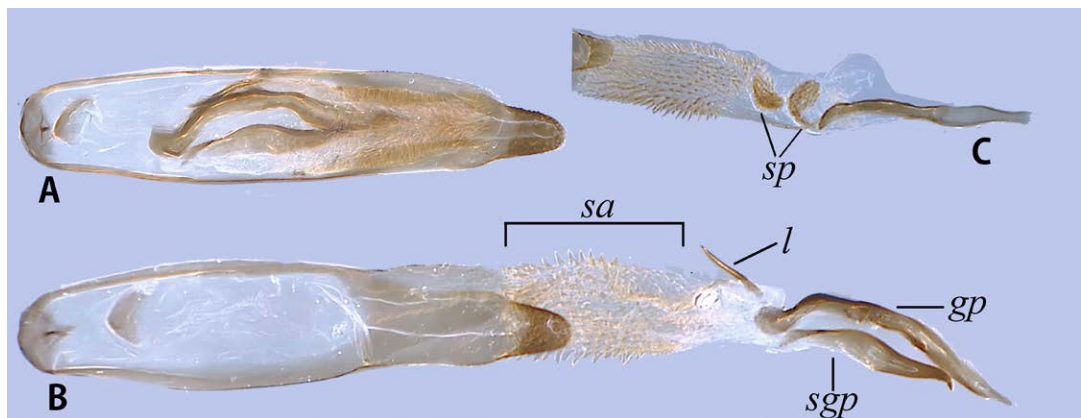


図1. オビジョウカイモドキ属の雄交尾器の特徴。A, 内袋が収納された状態; B, 内袋を引っ張り出した状態; C, spを有する種。A, B, ヒロオビジョウカイモドキ; C, キアシオビジョウカイモドキ。gp: gonoporal piece; l: ligura; sa: spinous area; sgp: semi-gonoporal piece; sp: spinous plate(s)。

検索表

1. 翅鞘には中央付近に幅広い黄色もしくは赤黄色の横帯がある（鞘翅会合部が黒く、帯が左右に分かれた2紋になることもある）……2
- 翅鞘は4つの黄色紋がある（図2C）。与那国島に分布……ヨツモンオビジョウカイモドキ *I. donan* Ikeda et Yoshitomi, 2017
2. 翅鞘の横帯は会合部で広がる …… 3
- 翅鞘の横帯は会合部で狭まる、もしくは会合部で切れて左右の2紋になる …… 6
3. 前脚は一樣に黄色；頭部は広く長さ/幅は0.5–0.9；複眼は突出する；内袋にspinous plateを有する …… 4
- 前脚は一樣に黒色；頭部は狭く長さ/幅は0.9–1.2；複眼は弱く突出する（図2G）；内袋にspinous plateを欠く …… ベニオビジョウカイモドキ *I. kishiii* (Nakane, 1955)
4. 体型は丸い；腿節は黒色；内袋に1つのspinous plateを有する …… 5
- 体型は細長い；腿節は黄色（図2D）；内袋に2つのspinous plateを有する …… キアシオビジョウカイモドキ *I. pelegrii pelegrii* (Pic, 1910)
5. 鞘翅の黄帯は会合部で明らかに広がる；体は黒色（図2E）；雄触角第3節は幅広く豆型（図3E）；雌は後翅を欠く …… クロキオビジョウカイモドキ *I. niponica* (Lewis, 1895)
- 鞘翅の黄帯は会合部で弱く広がる；体は黒色で青色の光沢を有する（図2F）；雄触角第3節はハート形（図3F）；雌は後翅を有する …… ルリキオビジョウカイモドキ *I. takaraensis* (Nakane, 1955)
6. 前脚は一樣に黄色；鞘翅の横帯は鞘翅会合部で左右に分かれた2紋になることもある …… 7
- 前脚は一樣に黒色；鞘翅の横帯は左右に分れない（図2B） …… ツシマヒロオビジョウカイモドキ *I. tsushimensis* (Satô et Ohbayashi, 1968)
7. 鞘翅の横帯の大きさは変異がある；触角は一樣に黄色（図2A）；雄触角第3節は紡錘型で基部にねじれた突出物を有する（図3A）；雄の前頭は前半分が黄色 …… ヒロオビジョウカイモドキ *I. histrio* (Kiesenwetter, 1874)
- 鞘翅横帯の幅は安定している；触角第5–11節は黒味を帯びる（図2H）；雄触角第3節は耳型（図3H）；雄の前頭は黒色 …… オキナワオビジョウカイモドキ *I. kawasakii* (Nakane, 1956)

種の解説

ヒロオビジョウカイモドキ *Intybia histrio* (Kiesenwetter, 1874)

（図1A, 1B, 2A, 3A, 表1）

特徴：体長3.5 mm程度。触角はすべて黄色で、雄の前頭の前半分も黄色。翅鞘の横帯は黄色で幅広だが大きさに変異があり、鞘翅会合部で左右に分かれた2紋になることもある。雄触角第3節は紡錘型で基部にねじれた突出物を有する。

分布：日本（本州，四国，九州，八丈島，壱岐，福江島，種子島，屋久島），国後島；中国（上海）。

生態：日本本土で最も普通の種。林縁や草地に見られ、茂みのスウィーピングやビーティングで得られる。

ツシマヒロオビジョウカイモドキ *Intybia tsushimensis* (Satô et Ohbayashi, 1968)

（図2B, 3B, 表1）

特徴：体長3.5 mm程度。脚は全て黒色。鞘翅の横帯は黄色で、会合部で狭くなる。雄触角第3節は円筒型で、基部に舌状突起を有する。

分布：日本（対馬）。

生態：林縁や草地に見られ、茂みのスウィーピングやビーティングで得られる。

ヨツモンオビジョウカイモドキ *Intybia donan* Ikeda et Yoshitomi, 2017

（図2C, 3C, 表1）

特徴：体長2.5 mm程度の小型種。翅鞘には4つの黄色紋がある。雄の触角第3節は縦長で、基部に細い舌状突起を有する。

分布：日本（与那国島）。

備考：本種は日本産種の中では斑紋が特異で、識別は容易である。中国から知られる *Intybia viridithorax* (Pic, 1921) に近縁と考えられる。

生態：林縁に見られ、モクダチバナ *Ardisia sieboldii* Miquel や ヤンバルアワブキ *Meliosma oldhamii* Miquel ex Maximowicz の花を訪れる。茂みのスウィーピングやビーティングで得られる。

キアシオビジョウカイモドキ *Intybia pelegrii pelegrii* (Pic, 1910)

（図1C, 2D, 3D, 表1）

特徴：体長3.5 mm程度。体型がやや細長く特徴的。鞘翅の横帯はややオレンジがかり、会合部で広くなる。雄の触角第3節は三日月を半分にしたような形。

分布：日本（本州，四国，九州，対馬），国後島。

備考：Wittmer (1997) は、朝鮮半島の個体群に対

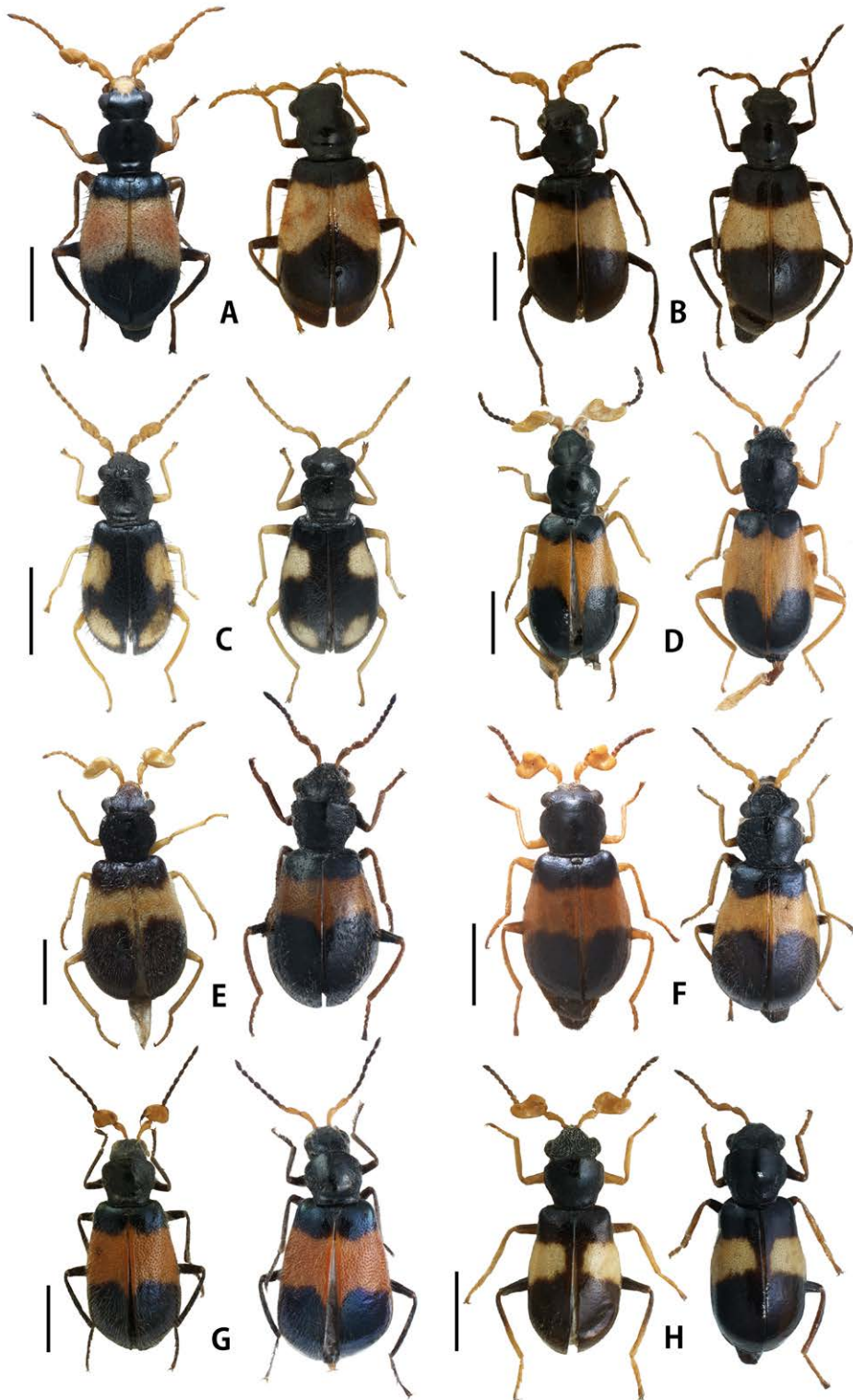


図2. 日本産オピジョウカイモドキ属 (左:雄;右:雌). A, ヒロオピジョウカイモドキ; B, ツシマヒロオピジョウカイモドキ; C, ヨツモンオピジョウカイモドキ; D, キアシオピジョウカイモドキ; E, クロキオピジョウカイモドキ; F, ルリキオピジョウカイモドキ; G, ベニオピジョウカイモドキ; H, オキナワオピジョウカイモドキ. スケールは1mm.

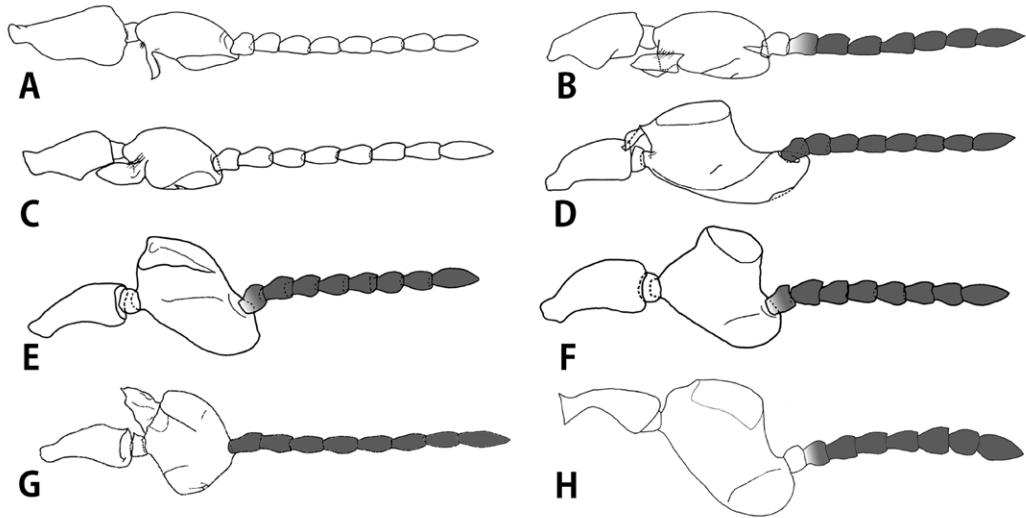


図3. 日本産オビジョウカイモドキ属の雄触角。A, ヒロオビジョウカイモドキ; B, ツシマヒロオビジョウカイモドキ; C, ヨツモンオビジョウカイモドキ; D, キアシオビジョウカイモドキ; E, クロキオビジョウカイモドキ; F, ルリキオビジョウカイモドキ; G, ベニオビジョウカイモドキ; H, オキナワオビジョウカイモドキ。

し亜種 *I. pelegri longior* Wittmer, 1997 を記載した。本亜種は、日本に分布する基亜種に比べ雄触角第3節がやや長い特徴を有する。

生態：大きな河川の河川敷や池の堤防といった場所の草地などに生息する。生息環境によっては、ルリキオビジョウカイモドキやベニオビジョウカイモドキと混生する。

クロキオビジョウカイモドキ *Intybia niponica* (Lewis, 1895)

(図 2E, 3E, 表 1)

特徴：体長 3.0 mm 程度。雌は後翅を欠く。翅鞘の横帯はやや赤味がかかり、会合部で広がる。雄触角第3節は豆形。

分布：日本（北海道，本州，四国，九州，小豆島，小笠原諸島（嫁島））；韓国，ロシア（極東，サハリン）。

備考：手元にある北海道の個体は、体長が他産地のものより大きい。本種の個体変異と考えている。

生態：幼虫期は Asano (2013) により記載され、胚子態孵化 (foetometamorphosis) することが確認されている。海浜性植物の生えた砂浜に生息し、海浜性植物のスイーピングで得られる。

ルリキオビジョウカイモドキ *Intybia takaraensis* (Nakane, 1955)

(図 2F, 3F, 表 1)

特徴：体長 3.0 mm 程度。翅鞘の横帯はやや赤味がかかり、会合部で広がる。雄触角第3節はハート形。

分布：日本（本州，四国，九州，小豆島，宝島，徳之島，奄美大島）；中国（北東部，福建省），ロシア（沿海州，ウランゲリ島）。

生態：河川敷の草地や海浜性植物の生えた砂浜などに生息する。茂みのスイーピングやピーティングで得られる。生息環境によっては、キアシオビジョウカイモドキやベニオビジョウカイモドキと混生する。

ベニオビジョウカイモドキ *Intybia kishiii* (Nakane, 1955)

(図 2G, 3G, 表 1)

特徴：体長 3.5 mm 程度。頭部，胸部，翅鞘の黒色部は青色の光沢を有する。頭部は幅が狭く，複眼は突出しない。翅鞘の横帯は赤味がかかる。雄の触角第3節は台形に近い形。

分布：日本（本州，四国，九州）；韓国。

生態：大きな河川の河川敷の草地などに生息する。茂みのスイーピングやピーティングで得られる。生息環境によっては、キアシオビジョウカイモドキやルリキオビジョウカイモドキと混生する。

オキナワオビジョウカイモドキ *Intybia kawasakii* (Nakane, 1956)

(図 2H, 3H, 表 1)

特徴：体長 3.0–3.9 mm。翅鞘の横帯は淡い黄色で、会合部で左右の紋に分けられる。雄触角第3節は耳のような形。

表1. 日本産オビジョウカイモドキ属の分布と生息環境.

分布	生息環境			
	海浜	河原	草原	林縁
ヒロオビ	本州～屋久島			
ツシマヒロオビ	対馬			
ヨツモンオビ	与那国島			
キアシオビ	本州～対馬			
ベニオビ	本州～九州			
ルリキオビ	本州～奄美大島			
クロキオビ	北海道～九州			
オキナワオビ(?)	沖縄島			

分布：日本（沖縄島）.

備考：我々が知る限り，原記載以降採集されていない珍品。佐藤（1989）は分布地に九州を入れており，吉富・林（2011）もそれを踏襲しているが，おそらく単純なミスと思われる。

生態：基準標本が沖縄島の北部で得られるのみで生態は不明。海浜性ではないかと考える。

考察

本報告で示した検索表により，翅鞘や脚の色彩，体型，雄触角第3節の形状などを用いて日本産のオビジョウカイモドキ属は容易に同定できると思われる。加えて表1に示すとおり，生息環境により種の絞込みを行うこともでき，同定の手助けになるだろう。

日本産8種は，2つの種群に分けられる。1つは *histrion* 種群で，ヒロオビジョウカイモドキ，ツシマヒロオビジョウカイモドキ，ヨツモンオビジョウカイモドキの3種からなる。本種群の特徴は，雄触角第3節の基部に突起を有すること，翅鞘の横帯が会合部で広がらないこと，雄交尾器内袋の棘の状態（骨片は gp, sgp, l を有する）などが挙げられる。もう1つは Wittmer (1997) により提唱された *pelegrini* 種群で，キアシオビジョウカイモドキ，クロキオビジョウカイモドキ，ルリキオビジョウカイモドキ，ベニオビジョウカイモドキの4種からなり，雄触角第3節は基部に突起を有するか欠くこと，翅鞘の横帯が会合部で広がること，雄交尾器内袋の棘の状態（骨片は gp を有し，sgp と l を欠く）などで特徴づけられる（オキナワオビジョウカイモドキも雄触角第3節の特徴から本種群に含まれる可能性が高い）。また，本種群は雄交尾器内袋の sp の数によりさらに3つにグルーピングできる（subgroups 1-3）。海外の種では日本産種とは異なる内袋骨片の特徴を持つ種もいるようで（Plonski, 2016），近縁の *Dicranolaius* 属（Liu

et al., 2016）も含め網羅的な再検討が必要と思われる。

本研究ではオキナワオビジョウカイモドキを十分に観察できておらず，雄交尾器の形状を含め再検討の必要がある。また，他種についてもこれまでに記録されている地域 fauna 調査の同定の疑義について再検討しておらず，細かい分布調査を行うと新たな発見があるかも知れない。加えて，台湾からは本属の別種群に属すると思われる種も確認されており（Yoshitomi & Lee, 2010），それらが日本に分布する可能性も否定できない。

引用文献

- Asano, M., 2013. Early instar larvae of *Intybia niponicus* (Lewis) (Coleoptera, Malachiidae) and comparison with a clerid 1st instar: The foetomorphic larva in Malachiidae, II. Japanese Journal of Systematic Entomology, 19 (1): 21–27.
- Ikeda, H. and H. Yoshitomi, 2017. Revision of the genus *Intybia* (Coleoptera, Malachiidae) from Japan. European Journal of Taxonomy, 331: 1–31.
- Liu, Z. A. Ślipiński, and H. Pang, 2016. Contribution to the Knowledge of the Australian *Dicranolaius* Champion (Coleoptera: Melyridae: Malachiinae). Annales Zoologici (Warszawa), 66(1): 101–112.
- Plonski, I. S., 2016. Studies on the genus *Intybia* Pascoe, 1866 (Coleoptera: Malachiidae) V. Contribution to internal classification and taxonomy, with faunistic and nomenclatorial notes. Zeitschrift der Arbeitsgemeinschaft Österreichischer Entomologen, 68: 17–38.
- 佐藤正孝, 1989. ジョウカイモドキ科. pp. 365–366. 平嶋義宏（監）日本産昆虫総目録，九大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター。
- Wittmer, W., 1997. Zur Kenntnis der Gattungen *Intybia* Pascoe und *Stenolaius* Wittmer (Coleoptera, Malachiidae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 3 (2): 181–211.
- Yoshitomi, H., 2014. Endophallic structures of the genus *Laius* (Coleoptera, Malachiidae), with description of the species. European Journal of Taxonomy, (97): 1–29.
- 吉富博之・林 尚希, 2011. 日本産ジョウカイモドキ科とその近縁科のリスト. さやばねニューシリーズ, (2): 18–24.
- Yoshitomi, H., and Lee, C.-F., 2010. Revision of the Taiwanese and Japanese species of the genus *Laius* (Insecta: Coleoptera: Malachiidae). Zoological studies, 49 (4): 534–543.

(2018年8月23日受領, 2018年8月31日受理)

奄美群島請島未記録のハムシ科4種

重藤裕彬¹⁾・小島弘昭²⁾¹⁾ 〒 901-0235 豊見城市名嘉地 373-2 名嘉地住宅 7-306²⁾ 〒 243-0034 厚木市船子 1737 東京農業大学昆虫学研究室

New Distributional Records of Four Chrysomelid Beetles (Coleoptera, Chrysomelidae) from Uke-jima Is., the Amami Is., Central Ryukyus, Southwestern Japan

Hiroaki SHIGETOH and Hiroaki KOJIMA

Summary. Four chrysomelid beetles in two subfamilies are newly recorded from Uke-jima Is. in the Amami Is., central Ryukyus: 1) *Smaragdina quadratamaculata*, 2) *Cryptocephalus perelegans*, 3) *Hemipyxis foveolata foveolata*, 4) *Nonarthra variabilis*, and the subfamily Cryptocephalinae is recorded from the island for the first time. All species recorded in this report are in common to the main island, Amami-Ōshima, suggesting the similarity of chrysomelid fauna between the two islands. However, it is still insufficient in the status to clarify the fauna since no species of the subfamilies Chrysomelinae and Cassidinae, both of which are diverse on Amami-Ōshima Is., are known from Uke-jima Is., and further investigation is required from now on.

奄美群島の請島（鹿児島県大島郡瀬戸内町）は、奄美大島の南方約 14 km に位置する、面積約 13.34 km²、最高標高 400 m、人口 102 人（2017 年 8 月末現在）の小島である。これまで同島からは、4 亜科 12 種のハムシが記録されていて、これらすべての種が近隣の奄美大島にも分布する（中峯, 2006；重藤・吉武, 2018）。また、奄美大島からは約 100 種のハムシが記録されており、両島の自然環境が似ていることから（水田, 2016）、請島にはより多くのハムシ類が生息していると考えられる。

2015 年 3 月 25 日に筆者の一人である小島が請島で実施した野外調査において 7 種のハムシ類が採集された。そのうちクシバアラゲサルハムシ、クロウリハムシ琉球列島亜種およびキベリヒラタノミハムシ基亜種を除く 4 種は、請島における分布記録がないようなので、同島初記録としてここに報告する。今回の報告により、ツツハムシ亜科の種が初めて確認され、請島におけるハムシ類の分

布記録は 5 亜科 16 種となった。しかし、未だに請島におけるハムシ相の解明度は低く、特に奄美群島の他の島々から記録されているハムシ亜科、カメノコハムシ亜科のハムシ類の記録がなく、今後、さらなる調査を行う余地がある。

なお、学名と和名については、木元・滝沢（1994）、滝沢（2007, 2012）、および Lee（2014）に従った。今回の報告に使用した検視標本はすべて重藤が保管している。また、大山への入山および採集は瀬戸内町より許可を得て行った。

採集記録

ハムシ科 Chrysomelidae Latreille, 1802

ツツハムシ亜科 Cryptocephalinae Gyllenhal, 1813

1. アザミナガツツハムシ *Smaragdina quadratamaculata* (Jacoby, 1896)



Figs. 1–4. Newly recorded leaf beetles from Uke-jima Is., the Amami Is., central Ryukyus, southwestern Japan. 1, *Smaragdina quadratamaculata*; 2, *Cryptocephalus perelegans*; 3, *Hemipyxis foveolata foveolata*; 4, *Nonarthra amamiana*.

1 ex., ヘリポート; 2 exs., 大山, 25. III. 2015, 小島採集.

請島初記録. 本種はこれまで奄美大島および沖縄島からのみ知られていた(滝沢, 2007). 本種ならびに次種は, 請島からは初のツツハムシ亜科の記録となる.

2. キボシツツハムシ *Cryptocephalus perelegans* Baly, 1873

2 exs., 大山, 25. III. 2015, 小島採集.

請島初記録. 本州, 八丈島, 四国, 沖ノ島, 九州, 対馬, 五島列島, 男女群島, 平戸島, 甌島, 種子島, 屋久島, トカラ列島, 口永良部島, 奄美大島, 沖永良部島, 沖縄島, 久米島, 北大東島, 宮古島, 宮古島, 波照間島, 石垣島, 石表島, 与那国島および台湾に分布している(滝沢, 2007; 川畑, 2010). 本種は地域によって色彩の変異が大きく, 研究者によっては, 前胸背板の色彩や鞘翅の斑紋パターンなどにより亜種および変種として扱っている(Chûjô, 1935; Kimoto, 1974).

ノミハムシ亜科 Alticinae Newman, 1835

3. キイロミゾアシノミハムシ基亜種 *Hemipyxis foveolata foveolata* (Chûjô, 1958)

3 exs., 池地, 25. III. 2015, 小島採集.

請島初記録. トカラ列島中之島, 奄美大島, 沖縄島および久米島に分布する(東ら, 2002; 滝沢, 2012). 奄美群島における記録は少なく, 今回の報告は2島目の産地となる.

4. カワリヒゲブトノミハムシ *Nonarthra amamiana* Chûjô, 1957

1 ex., 大山, 25. III. 2015, 小島採集.

請島初記録. これまで, 奄美大島, 沖縄島および北大東島から記録されている(滝沢, 2012; Lee, 2014).

引用文献

- 東 清二・屋富祖昌子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・川村 太, 2002. 琉球列島産昆虫目録, 594 pp. 沖縄生物学会, 沖縄.
- Chûjô, M., 1935. Chrysomelidae of Loo-Choo Archipelago (I). Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 25: 69-89.
- 川畑喜照, 2010. 伊豆諸島八丈島の甲虫 VII. 神奈川虫報, (172): 29-39.
- Kimoto, S., 1974. On some infraspecific variation of chrysomelid beetles (Coleoptera) occurring in the Ryukyu Archipelago. Kontyû, Tokyo, 42: 270-282.
- 本元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539 pp. 東海大学出版, 東京.
- Lee, C.-F., 2014. Review of the genus *Nonarthra* Baly (Coleoptera: Chrysomelidae: Galerucinae: Alticini) from Taiwan and Japan, with descriptions of two new species. Jpn. J. syst. Ent., 20 (2): 251-263.
- 水田 拓, 2016. 奄美-その自然と概要. 水田 拓 (編著), 奄美群島の自然史学 亜熱帯島嶼の生物多様性: 1-17. 388 pp. 東海大学出版, 東京.
- 中峯浩司, 2006. 奄美群島請島 2004 年 9 月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (25): 63-67.
- 重藤裕彬・吉武 啓, 2018. 奄美群島請島において冬季に採集されたハムシ類. さやばねニューシリーズ, (29): 17-19.
- 滝沢春雄, 2007. 日本産ハムシ科生態覚書 (3). 神奈川虫報, (158): 37-48.
- 滝沢春雄, 2012. 日本産ハムシ科生態覚書 (6). 神奈川虫報, (177): 33-51.

(2018年7月26日受領, 2018年8月31日受理)



Villastrigo, A., Jäch, M.A., Cardoso, A., Valladares, L.F. & Ribera, I., 2018. A molecular phylogeny of the tribe Ochthebiini (Coleoptera, Hydraenidae, Ochthebiinae). Systematic Entomology, early view. DOI: 10.1111/syen.12318

セスジダルマガムシ属 *Ochthebius* を中心に分子系統解析が行われた. 日本産種は以下の通りとなった. 特に変更はないが, *Enicocerus*? とされていたグループは真正 *Enicocerus* と異なり *nitidipennis* 種群であることになった (以下, ダルマガムシを略).

Ochthebius (*Asiobates*) . . . エゾセスジ
Ochthebius (*Ochthebius*) . . . 残りの種
foveolatus 種群 . . . コセスジ
marinus 種群 . . . ニッポンセスジ
nitidipennis 種群 . . . アマミセスジ, ハセガワダルマ, ホンシュウセスジ, ナカネダルマ
punctatus 種群 . . . セスジ, シオダマリセスジ
vandykei 種群 . . . イセコブセスジ, クロコブセスジ, イズモコブセスジ, セトコブセスジ, キタコブセスジ

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)

ソテツの植栽に伴うコゲチャサビカミキリの分布拡散

小堀 健

〒416-0931 富士市蓼原 868-1-201

Distributional Diffusion of *Mimectatina meridiana* (Cerambycidae, Lamiinae)
Associated with Transplanted *Cycas revoluta*

Ken KOBORI

はじめに

コゲチャサビカミキリ *Mimectatina meridiana* は、日本では南西諸島に分布の中心を持つ南方系の種で、本土域では、九州全県、四国では高知県、本州では和歌山県（奈良，1989）、静岡県伊豆半島南部（草間，1981；中村，2009）と初島（草間・市川，1982）および富士市（小堀，2014；2016）、神奈川県三浦半島（岸，1992）と猿島（藤田，1996）、東限は千葉県で房総半島南部（諫川，1980；伊藤，1999；伊藤・丸，2006；西，2011；丸，2017）に記録がある。また、伊豆諸島ではほぼ全島（藤田，2012）に分布する。このような分布の態様から、コゲチャサビカミキリは海流によって分布を広げた種と認識されている（高桑，1979；伊藤，1999など）。本種は主に灯火採集のほか、アオキやトベラなど広葉樹の枯枝のピーティングで得られており、ソテツ *Cycas revoluta* の実から羽化脱出した記録もある（小池，1971；岸，1992）。

筆者は、静岡県とその近隣都県のいくつかの地点において、ソテツの植栽に伴って分布地を拡げたと推定される事例を確認したので報告する。また、ソテツの植栽とコゲチャサビカミキリの分布の関係について若干の考察を行う。

調査のきっかけ

2017年10月4日、伊東市在住の森田東氏のもとに友人の尾上清人氏より、伊東市八幡野のレジャー施設で採集されたコゲチャサビカミキリが届けられ、採集時の状況から灯火に飛来した個体と考えられた。森田氏より連絡を受けた筆者は、伊豆半島では単発の記録はあるものの詳しい生態は不明であるので、寄主植物の候補としてアオキとソテツを挙げて問い合わせたところ、現地には施設が建設された当時に植栽された20株ほどのソテツはあるがアオキはほとんどないとのことであった。その後、尾上氏はソテツを調査され、ソテツの枯葉の葉柄などを齧る多数の成虫と雌株の大孢子葉に穿入している甲虫

の幼虫を観察されていた。同年11月11日、筆者は森田氏に同行し、尾上氏の案内で現地を訪れ、ソテツにつく成虫を確認するとともに、大孢子葉に穿入している幼虫がコゲチャサビカミキリにほぼ間違いないとの確信を得た。同時にコゲチャサビカミキリがソテツの移植に付随して移動し、分布を広げているのではないかとこの着想を得た。帰路、二人は「伊豆ぐらんぱる公園」の駐車場に植栽されたソテツの大孢子葉からもあつけなく幼虫を発見し、成虫の活動時期でなくともソテツを調べることにより分布調査が可能と考えた。

調査方法

各地の公園等に数株以上の規模で植栽されているソテツ（図1）について、雌株の大孢子葉（図2）に穿入しているカミキリムシの幼虫（図3）を調査した。発見された幼虫と周囲の大孢子葉を試料として採取し、プラスチック容器に保管して羽化脱出してくる成虫（図4）を確認した。

調査地および調査結果

現地調査でカミキリムシの幼虫を確認した8地点（前記2地点を含む）について、ソテツの植栽状況と調査結果を以下に示す。

1. 静岡県伊東市八幡野

40年ほど前に建設されたレジャー施設で、調査時には20株ほどのソテツが植栽されていた。2017年11月11日に調査し、幼虫多数と成虫も確認した。森田氏が持ち帰った採取試料から2017年11月15日以降、コゲチャサビカミキリ成虫（以下コゲチャサビカミキリは省略）が多数羽化脱出した。

2. 静岡県伊東市富戸

伊豆ぐらんぱる公園の駐車場には多数の株が植栽されている。この施設は50年ほど前に開園した公園で園内には数万株のソテツがあるという。調査は2017年11月11日に実施し、採取試料から2018年



図1. 遊歩道に植栽されたソテツ（静岡市駿河区大谷潮風の散歩みち，2017年12月12日）。



図2. ソテツ雌株の果実と大胞子葉（富士宮市星山，2017年11月13日）。



図3. ソテツの大胞子葉に穿入する幼虫（伊東市八幡野，2017年11月5日，森田東氏撮影）。



図4. 羽化脱出した成虫（牧之原市波津産，2018年7月19日）。

3月4日と3月25日に成虫が羽化脱出した。さらに2018年5月11日には現地で成虫1個体を確認，採取試料から5月31日以降3個体が羽化脱出した。

3. 静岡県富士宮市星山

園芸会社の農園に20株ほどのソテツが植えられていた。2017年11月13日に調査し，採取試料から翌々日11月15日に1個体，2018年4月28日以降に4個体が羽化脱出した。

4. 静岡県静岡市駿河区大谷

2010年頃整備された国道150号線北側遊歩道（潮風の散歩みち）に十数株が植栽されていた。2017年12月12日に調査し，採取試料から2018年5月6日以降3個体が羽化脱出した。

5. 静岡県焼津市新屋

焼津新港前の公園で道路を隔てた2区画にそれぞれ十数株が植栽されている。この公園は2003年に造成整備されたようである。2017年12月7日，13日の両日調査し，2区画のうち1区画で幼虫を確認，2018年4月27日以降4個体が羽化脱出した。なお，ここでは平井克男氏が2018年6月2日と6

月9日に成虫を採集されている。

6. 静岡県牧之原市波津

海岸堤防の外側に設置されたゲートボール場の海側に一列に多数の株が植栽されていた。ゲートボール場は20年ほど前に整備されたとのことである。2017年12月13日に調査し，採取試料から2018年6月12日以降3個体が羽化脱出した。

7. 東京都江東区若洲

東京湾岸の埋立地に1990年に開園した若洲海浜公園内のサイクリングロード沿いに20株ほどが植栽されていた。2017年12月20日に調査，2018年6月15日1個体が羽化脱出した。この地点は現時点でコゲチャサビカミキリの最北の記録地点である。

8. 神奈川県逗子市小坪

1970年代に開発された10棟ほどのリゾートマンション（小坪マリーナ）の周辺道路に多数の株が等間隔で整然と植栽されている。2017年12月16日に調査し，2018年5月28日以降に2個体が羽化脱出した。岸（1992）で報告された場所と考えられる。

なお、調査を実施したが幼虫の発見には至らなかった地点を、調査日とともに以下に列記する。

静岡県沼津市本千本浜公園(2017年11月19日)、静岡県富士市鈴川中町砂山公園(2017年11月19日)、静岡県静岡市清水区三保ふれあい広場(2018年1月31日)、静岡県磐田市駒場竜洋海洋公園(2018年1月28日)、静岡県浜松市西区舞阪町弁天島(2017年12月22日)、東京都大田区城南島城南島海浜公園(2017年12月29日)。

考察

現時点で確認された関東・東海地方におけるコゲチャサビカミキリの分布

図5に植栽されたソテツの調査によりコゲチャサビカミキリの発生を確認した地点を示し、併せて文献上の記録地点も加えた。コゲチャサビカミキリは従来の記録地点を大きく超えて、周囲に記録のなかった静岡県中部で3地点、東京湾奥臨海部でも1地点で確認された。静岡県内の調査では、ある程度まとまってソテツが植栽された場所ではかなりの確率で生息が確認された。

本調査は静岡県東部から中部にかけては10日間ほど行ったが、静岡県西部、神奈川県および東京都については各1～2日、隣接する千葉県と愛知県などは実施しておらず、調査は十分ではない。今後、他の地域でもソテツを調査することによりコゲチャサビカミキリの新しい分布地が発見されるだろう。

富士市の過去の採集記録地点と富士宮市の確認地点との関係

筆者は以前、富士川の左岸側、河口から7kmほど遡った位置にある標高193mの富士市岩本山周辺をフィールドとして、カミキリムシの生息調査を行う過程で、コゲチャサビカミキリを採集していた(小堀, 2014; 2016)。採集場所はスギの植林地内、部分的に枯れた葉のついたアオキをピーティングすることにより8月末から9月中旬にかけて得られ、アオキの枯枝に穿孔する幼虫も採集し、羽化脱出させていた。この記録は静岡県で4例目、富士市では初記録であるが、採集時から本種の生息環境として違和感を持っていた。

富士宮市星山の調査は、伊東市での調査でソテツとコゲチャサビカミキリの関係についての着想を得たことで、付近にまとまってソテツが植栽されている場所を航空写真等を利用して発見し、伊東市の調査の翌々日に実施したものである。

富士市の採集地点からこの農園は北に1.8kmし

か離れていないので、ソテツ調査当日、ソテツで幼虫を確認後、農園の周辺に点在するスギやヒノキの植林地の調査も行い、約400m南の植林地で、伐採されて枯れたアオキの髓に穿入するカミキリムシの幼虫を多数発見した。さらにその後の調査で富士市の採集地点との間の数ヶ所でもアオキから幼虫を発見、これらの幼虫は2018年4月以降羽化脱出しコゲチャサビカミキリであることを確認した。以上のように富士市から富士宮市にかけてはコゲチャサビカミキリが連続して分布していることが明らかになった。

農園に確認したところ、ソテツは約50年前に種子島から移植したものとこのことであった。Kato(2001)は、沖縄本島においてコゲチャサビカミキリがソテツを寄主植物として利用する生態を詳しく報告しており、南西諸島ではソテツが本種の一般的な寄主植物となっているようである。したがって、富士市から富士宮市にかけて分布する個体群は、過去に種子島から移植されたソテツの株にコゲチャサビカミキリの幼虫または成虫が付着して移入された可能性が考えられる。その後、ソテツが移植された農園で50年にわたって世代を繰り返し、その過程で一部の個体がアオキに寄主植物を代えて周辺に広がったものと考えられる。

ソテツの植栽とコゲチャサビカミキリの分布について

過去の分布記録地点から離れて新しく記録された4地点(静岡市駿河区、焼津市、牧之原市および東京都江東区)は、いずれも海岸にごく近い場所で、ソテツが植栽されてから長くて30年ほどである。これら4地点のコゲチャサビカミキリの由来としては、1)ソテツ植栽後、海岸に枯木などに付いて漂着したコゲチャサビカミキリがソテツに定着した、2)ソテツ植栽後、周辺の分布地から移動してきてソテツに定着した、3)植栽時に既にソテツに寄生していた、の3ケースが考えられる。1)については4地点に10年から30年の間に別々に(または同時に)漂着してソテツに定着した可能性は低いだろう。また、2)についても周辺での記録はなく、後背地は市街地や住宅地で未知の分布地はなさそうである。よって、もっとも可能性が高いのは3)であろう。なお、これら4地点については、植栽されたソテツの移植元や移植業者などを施設管理者等に問合せたが、現時点で明確な情報は得られていない。

ソテツは南国ムードを演出するため、海岸沿いのリゾート施設などにヤシ類とともに植栽され、また記念樹として公園、官公庁や学校などで利用され、



図5. 関東・東海地方におけるコゲチャサビカミキリの採集地点の分布。

ロータリーの真ん中などにも植栽されている。しかし、ソテツの自生地は九州南部から南西諸島で、本州には自生していない。現在植栽されているソテツは園芸業者の農場から移植されたものか、本来の自生地から直接移植されたものであろう。

盛口(2015)によれば、房総半島南部ではソテツは植木、切り葉用としてソテツ畑で栽培されており、栽培面積は1997から1998年時点で約73 ha(斉藤ほか, 2009)もあるという。これらは大正末期に奄美大島から導入したのが起源といわれ、その後も奄美大島から大量のソテツの根株が持ち込まれて房総半島の山野に植えられたとのことである。このような状況から房総半島南部は現在でも植栽ソテツの一大供給地となっている。

前項で考察した富士宮市の事例と同様に、房総半島に奄美大島から導入されたソテツの株の一部にコゲチャサビカミキリが付いて移動し定着していたとすれば、房総半島のソテツ畑はコゲチャサビカミキリの供給地となっていた可能性が考えられる。西(2011)は館山市内のソテツ畑からコゲチャサビカミキリが多数得られたことを報告しており、そこでは冬季には幼虫とともに成虫も得られた(西泰弘, 私信)という。このことは前記可能性についての一つの傍証となるだろう。

なお、本稿作成後、西氏のご教示により諫川(2017)の記録を知った。採集地は千葉県市原市の埋立地に造成された公園で、当初ヤツデの枯葉から採集、後日ソテツからも採集されており、筆者はソテツの植栽に付随して当地に侵入したと考えるのが妥当としている。図5の千葉県中部のプロットがその採集地点である。本稿では、上に述べた

ように、東京都から静岡県中部に至る各所でコゲチャサビカミキリの分布がソテツの植栽に由来した可能性を指摘したが、諫川(2017)の記録も同様の事例であろう。

図5に示した東海地方から関東地方におけるコゲチャサビカミキリ記録地の分布にはソテツの植栽が少なからず関係していると考えられる。

謝辞

本論文を作成するにあたり、ふじのくに地球環境史ミュージアムの岸本年郎教授には本報告の公表を勧めていただくとともに多くの示唆に富む助言をいただいた。厚くお礼申し上げます。

伊東市の森田東氏と尾上清人氏には、伊東市のレジャー施設でのコゲチャサビカミキリの採集情報とソテツを摂食する生態をご教示いただき、本調査のきっかけを与えていただいた。厚くお礼申し上げます。また焼津市の平井克男氏には、静岡県中部のソテツ調査にご協力いただくとともに、現地での成虫採集記録をご教示いただいた。船橋市の西泰弘氏には、千葉県におけるコゲチャサビカミキリの詳細な採集記録と分布状況および本種の記録されている文献についてご教示いただいた。厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 藤田 宏, 1996. 神奈川県横須賀市猿島にコゲチャサビカミキリ多産. 月刊むし, (305): 35.
 藤田 宏, 2012. 伊豆諸島のカミキリムシ相(中間報告)(上). 月刊むし, (492): 18-30.
 諫川正臣, 1980. 千葉県南部で得られた南方系カミキリ3種. 月刊むし, (110): 38-39.
 諫川卓之, 2017. 市原市でコゲチャサビカミキリを採集. 房

- 総の昆虫, (60): 44-45.
- 伊藤敏仁, 1999. 千葉県のカミキリムシ類. 千葉県生物学会編, 千葉県動物誌: 613-633. 文一総合出版, 東京.
- 伊藤敏仁・丸 諭, 2006. 千葉県のカミキリムシ. 房総の昆虫, (37): 1-22.
- Kato, M., 2001. Insect fauna associated with *Cycas revoluta* (Cycadaceae), with a discovery of a cerambycid megasporophyll miner. Spec. Publ. Japan Coleopt. Soc., Osaka, (1): 73-78
- 岸 一弘, 1992. 神奈川県で記録された注目される甲虫類の記録. 神奈川虫報, (101): 26-27.
- 小堀 健, 2014. 2014年富士市岩本山公園周辺で採集されたカミキリムシ4種. 駿河の昆虫, (248): 6814-6815.
- 小堀 健, 2016. 富士市岩本山のカミキリムシの調査報告. 駿河の昆虫, (254): 6959-6966.
- 小池 寛, 1971. コゲチャサビカミキリ蘇鉄の実を害す. 甲虫ニュース, (13): 4.
- 草間慶一, 1981. 静岡県下におけるコゲチャサビカミキリの記録. 月刊むし, (123): 32.
- 草間慶一・市川恭治, 1982. 初島の昆虫. 静岡の甲虫, 1(2): 1-14.

- 丸 諭, 2017. 鋸山付近でコゲチャサビカミキリ, アオカミキリほかを採集. 房総の昆虫, (59): 66.
- 盛口 満, 2015. 里山のソテツ栽培 — 琉球列島から房総半島へ —. 地域研究, (15): 19-26.
- 中村俊彦, 2009. 伊豆半島のコゲチャサビカミキリの記録. 月刊むし, (460): 39.
- 奈良 一, 1989. 新和歌山県産天牛虫科目録 (II). 南紀生物, 31(1): 53-59.
- 西 泰弘, 2011. 東京大学千葉演習林の昆虫相調査報告 各論5東大千葉演習林のカミキリムシ類. 房総の昆虫, (47): 82-83.
- 斉藤明子・尾崎煙男・盛口 満, 2009. 千葉県におけるクロマダラソテツジシメの初記録と発生初期の棲息域. 月刊むし, (465): 28-32.
- 高桑正敏, 1979. 伊豆諸島のカミキリ相の起源. 月刊むし, (104): 35-40.

(2018年7月26日受領, 2018年8月31日受理)

【短報】岩手県におけるキタコマルガムシの記録

キタコマルガムシ *Crenitis hokkaidensis* (Nakane, 1966) は, 国内では北海道, 本州, 四国に分布する (佐藤・吉富, 2018). 筆者らはこれまで記録のなかった岩手県で本種を採集したので報告する. なお, コマルガムシ亜属日本産種の種類については Hebauer (1994) で再検討されているが, 雄交尾器の



図1-2. キタコマルガムシ (1) およびその雄交尾器 (2) .

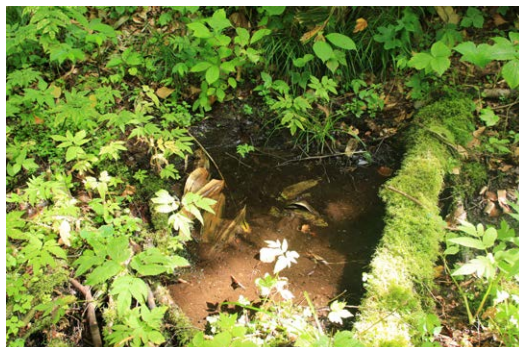


図3. 採集地の様子.

形状を含めて種を識別する形質について曖昧なままであるため, 同定は北九州市立自然史・歴史博物館の蓑島悠介博士に依頼した.

1♂ (図1, 2) 2♀, 岩手県宮古市区界黒沢, 20.VI. 2016, 筆者ら採集・佐野保管.

本種を採集したのは, 黒沢源流域にあたる標高約 800 m 付近で, 沢の脇にできた直径約 50 cm, 水深は 2 cm 程の水溜りであった (図3). 水溜りには広葉樹の落ち葉が堆積しており僅かに湧水が流れ込んでいた. 採集地では, 他にホソクロマメゲンゴロウ *Platambus optatus* (Sharp, 1884), チョウカイクロマメゲンゴロウ *Platambus ikedai* (Nillson, 1997), ワタナベダルマガムシ *Hydraena watanabei* Jäch & M. Satô, 1988 が同所的に見られた.

末筆ながら, 本種を同定するにあたりご教示いただいた北九州市立自然史・歴史博物館の蓑島悠介博士にはこの場を借りてお礼申し上げる.

引用文献

- Hebauer, F., 1994. The *Crenitis* of the Old World (Coleoptera: Hydraenidae). Acta Coleopt., 10: 3-40.
- 佐藤正孝・吉富博之, 2018. 甲虫目 (鞘翅目) Coleoptera. pp. 753-757, 川合禎次・谷田一三編, 日本産水生昆虫一科・属・種への検索 第二版. 東海大学出版部.

(佐野真吾 239-0813 横須賀市鴨居 4-1120 観音崎自然博物館)

(今澤大智 400-8510 甲府市武田 4-4-37 山梨大学大学院医工農総合教育部 地域環境マネジメントコース)

北海道から発見された日本初記録のキタミトホシカミキリ

佐々木恵一¹⁾・細川浩司²⁾・長谷川道明³⁾

¹⁾ 〒 078-8239 旭川市豊岡9条7丁目8-6

²⁾ 〒 458-0033 名古屋市緑区相原郷2-912-2

³⁾ 〒 441-3147 豊橋市大岩町字大穴1-238 豊橋市自然史博物館

Saperda perforata (Pallas, 1773) (Cerambycidae, Lamiinae, Saperdini),
Newly Recorded for Japanese Fauna from Hokkaido

Keiichi SASAKI, Kōji HOSOKAWA and Michiaki HASEGAWA

はじめに

筆者の一人、佐々木は、2016年の夏に北海道オホーツク総合振興局管内北見市常呂栄浦において、甲虫相の調査中、ライトFITトラップで、トホシカミキリ属 (*Saperda*) の未知種を採集した。翌年、佐々木と共同調査者の松本英明氏は、ライトトラップやチョウセンヤマナラシのスイーピングなどによって、同種の追加個体を採集し、さらに佐々木と細川は、チョウセンヤマナラシの枯死木より幼虫を採集し、複数の雌雄成虫の標本を得ることに成功した。これらの標本を長谷川が詳しく調査した結果、本種は、日本からこれまで記録のなかった *Saperda*

perforata (Pallas, 1773) であることが判明した。

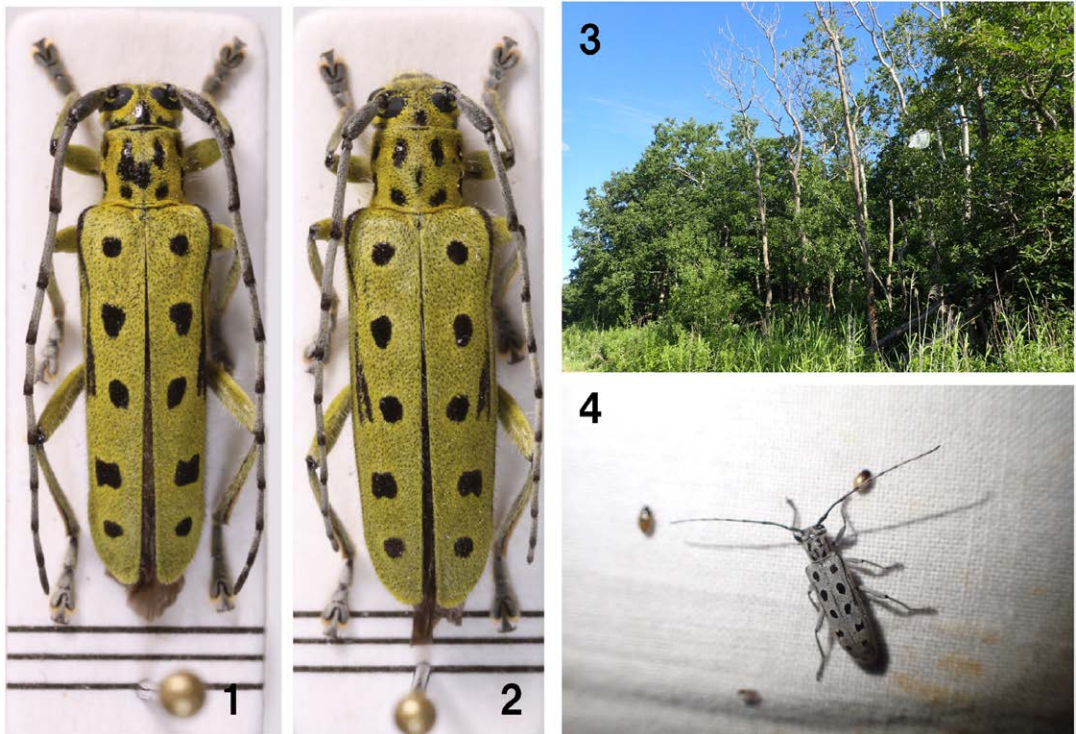
本報告では、北見市で発見されたことにちなみ本種に「キタミトホシカミキリ」の新称和名を提唱し、形態的な特徴や日本での採集記録、生態的知見、生息環境について報告する。

キタミトホシカミキリ (和名新称)

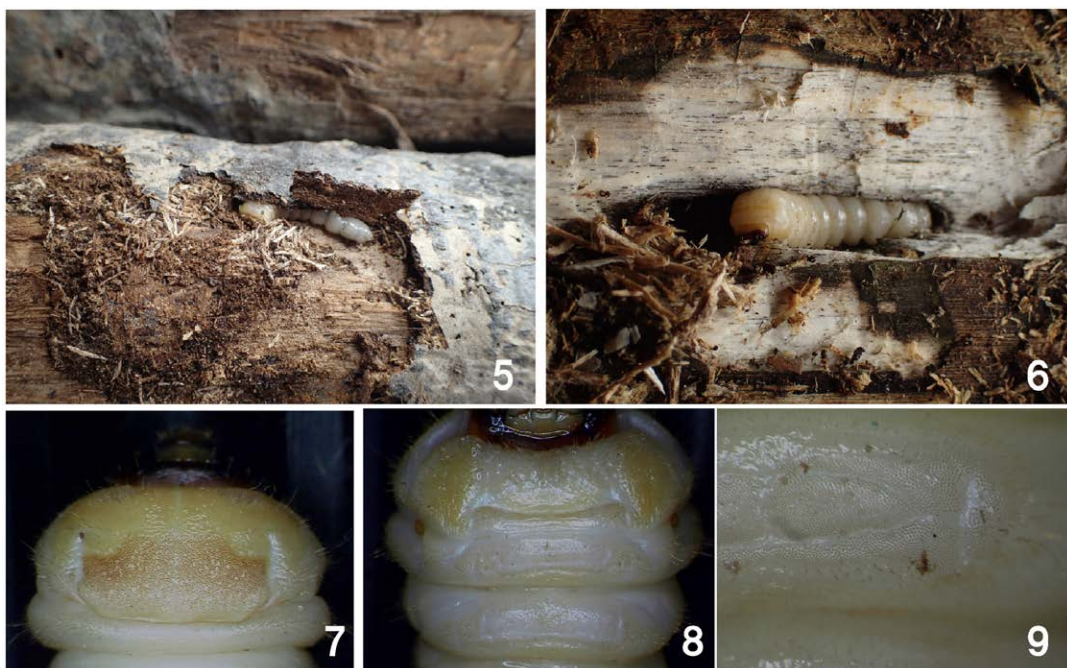
Saperda (Lopezcolonia) perforata (Pallas, 1773)

採集記録 (採集地は、いずれも北海道北見市常呂町栄浦)

♂, 31. VII ~ 1. VIII. 2016, 佐々木 (チョウセ



Figs. 1-4. キタミトホシカミキリと生息環境。1, オス；2, メス；3, 生息環境；4, 灯火に飛来したメス (灰褐色タイプ)。



Figs. 5-9. キタミトホシカミキリの幼虫. 5, 幼虫と食痕; 6, 蛹室内の幼虫; 7, 幼虫前胸背板; 8, 幼虫前胸腹板; 9, 幼虫腹部第1背板の歩行隆起.

ンヤマナラシ林内のライト FIT トラップ); 1♂, 8. VII. 2017, 佐々木・松本英明 (チョウセンヤマナラシ林の前でのライトトラップ); 1♂, 9. VII. 2017, 佐々木 (チョウセンヤマナラシ林内のライト FIT トラップ); 1♂, 15. VII. 2017, 佐々木 (チョウセンヤマナラシ生葉のスィーピング); 10♂5♀, 16. IX. 2017, 細川 (チョウセンヤマナラシ立枯れ材採取), 30. III ~ 20. V. 2018 羽化脱出; 3♂2♀, 16. IX. 2017, 佐々木 (同), 18. V ~ 25. VI. 2018, 羽化脱出; 2♂4♀, 27. V. 2018, 佐々木・松本英明 (同), 29. VI ~ 13. VII. 2018, 羽化脱出; 1♀, 30. VI. 2018, 佐々木 (チョウセンヤマナラシ生葉のスィーピング); 1♂, 14. VII. 2018, 佐々木・細川・長谷川・松本英明 (チョウセンヤマナラシ林の前でのライトトラップ); 2♂1♀, 21. VII. 2018, 佐々木・松本英明 (同).

比較標本

3♀, Nizhnyaya, Bannovka, Saratov Reg., Russia, 5-7. VI. 1999, O. Gorbunov leg.; 1♀, Kamenka-river, Belorussia, 23. VI. 1983, Saluk leg.; 1♂, Reshki, Moscow Reg., Russia, IX. 1970 (larva), B. Mamaev leg.; 1♂, Lytkarino, Moscow Reg., Russia, A. Kandratiev leg.; 1♀, 30 km E Eletz, Mt. Morozova, C. Russia, 19. V. 2012, M. Tzurikov leg.; 1♀, near airport, Ufa env., Bashkiria, C. Russia, 5. VII. 1985, M. Nesterov leg.

成虫の形態的特徴

体長♂:13.0-15.0 mm, ♀:15.0-16.5 mm. 黒色で、体表面は明るい黄緑色~灰褐色の微毛に覆われ、前胸背には背面に4紋、両側面に各2紋、正中線状に1紋の計9つの丸~楕円型の黒紋があり、各上翅には、ほぼ等間隔に並ぶ5つの円型の黒紋と、肩部から側縁沿いに中央部付近まで延びる黒条がある。上翅背面の基部から4つ目の黒紋は、他の紋に比べて角ばり、四角形状となり、肩部から延びる黒条は、先端部分で二又になることが多い。

体表面は黒色の立毛にやや密に覆われ、触角は、オスで体長とほぼ同じ長さ、メスでは翅端にわずかに届かない。前胸背はほぼ正方形で基部はやや強くくびれる。上翅長はオスでは基部幅の2.7-2.8倍、メスでは2.5-2.6倍、両側はほぼ平行で各上翅端は丸まる。

トホシカミキリ *S. (L.) alberti* Plavilstshikov, 1916 に似るが、1) 背面を覆う微毛は明るい黄緑色または灰褐色 (トホシカミキリではより色の濃い黄褐色または灰褐色)、2) 前胸背の2対の黒紋は小さくやや不鮮明で、正中線の上に黒紋が出現する、3) 小楯版には黒紋を有さない (トホシカミキリでは1対の小黒紋を有する) 4) 上翅の5対の黒紋は小さく丸みを帯び、後方の2対の黒紋は離れて位置する (トホシカミキリでは近接する)、5) 上翅の肩部から側縁に沿って延びる黒条は中央付近までしか

届かない（トホシカミキリでは、翅端近くまで達する）等の点で区別できる。

ロシア産との比較では、オス交尾器包片（tegmen）輪状部（ring part）が日本産の方がやや短い、といった軽微な差が認められたが、分類学的な検討を要するような大きな形態的差異は認められなかった。

幼虫および生態的知見

本種幼虫の形態については、Cherepanov (1985) に詳しい記載があり、前胸背、腹背板歩行隆起の特徴は、これに図示されたものとほぼ一致した (Figs. 7-9)。

本種の寄生植物としては、海外ではポプラ類（ヤマナラシ属 *Populus*）が知られているが (Cherepanov, 1985)、北見市常呂町栄浦においてもヤマナラシ属のチョウセンヤマナラシ *Populus tremula* var. *davidiana* Schneider を寄生植物としていることを確認した。幼虫は枯死木の内樹皮部を面状に食い、蛹室は木部へ進入し木部表面から 1 cm ほどの材中に作られていた。

2017年9月16日に幼虫を確認した加害木を名古屋市内に持ち帰り飼育したところ、翌年、3月30日～5月20日にかけて成虫が羽化脱出、同日に採集した加害木を旭川市内で飼育した場合は、5月18日～6月25日にかけて成虫が羽化脱出した。また、2018年5月27日に幼虫の加害木を採集し、旭川市内で管理・飼育した際には、6月29日から7月13日に成虫が羽化脱出した。

野外では、成虫は6月30日から8月1日にかけて確認され、チョウセンヤマナラシの生葉のスウィーピングや、ライトトラップに飛来したもの (Fig. 4) が採集されている。

考察

本種は Pallas (1773) によってロシア産の標本を基に記載された種で、アフリカ北部と西はスペインから東は日本海、オホーツク海沿岸に至るユーラシア大陸に広く分布し、ポプラ類などの落葉樹を寄生植物としている (Cherepanov, 1985; Löbl &

Smetana, 2010 など)。ロシア産との形態比較では、色彩や斑紋、オス交尾器について特記すべき差異は認められなかった。

日本での発見地が東樺太海流の影響を強く受けるオホーツク海沿岸域であることや、確認された寄主植物が道東部に広く自生するチョウセンヤマナラシであること、さらに本種が確認された場所は、防風林として残された林と耕作地が広がっている地域であり、ロシア等からの輸入材等を受け入れるような施設等もないことから、日本での分布は人為的な移入と考えるよりは、自然分布していた可能性が高いと考えられる。

寄主植物として確認したチョウセンヤマナラシは、北海道、とりわけオホーツク海沿岸など北海道東部には広く見られる樹種であることから、今後、さらに広い範囲で本種の分布が確認されることが期待される。また、本種が確認された地域では、北海道内に広く分布するトホシカミキリが確認されていないことから、両種の分布上の関係の調査も今後の課題である。

本報告に当たり、採集調査にご協力いただいた旭川市の松本英明氏、東川町の鈴木敏春氏、幼虫写真の撮影と幼虫形態に関する特徴をご教示いただいた徳島市の村上構三氏、比較標本をご提供いただいたロシア科学アカデミーの Mikhail Danilevsky 博士に深謝する。

引用文献

- Cherepanov, A. I., 1985. Usachi Severnoi Azii, Lamiinae: Saperdini-Tetraopini. 256 pp. Akademiya Nauk SSSR, Novosibirsk. English translation: V. K. Stroganova (ed.), 1991. Cerambycidae of Northern Asia, vol. 3, Lamiinae, part 3. 395 pp. Oxonian Press, New Delhi.
- Pallas P. S. 1773. Reise durch verschiedene Provinzen des Russischen Reichs. Zweyter Theil. Zweytes Buch vom Jahr 1771. St. Petersburg: Kayserliche Akademie der Wissenschaften: 371-744.
- Löbl, I., & A. Smetana (eds.), 2010. Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 6. Chrysomeloidea. 924 pp. Apollo Books, Stenstrup.

(2018年8月27日受領, 2018年9月8日受理)

台湾緑島から採集されたカミキリモドキ科2種の記録

秋山秀雄

〒236-0038 横浜市金沢区六浦南1-26-28

Two Oedemerid Species Newly Recorded from Ludao Is., of Eastern Taiwan

Hideo AKIYAMA

筆者はここ数年、台東縣在住の周文一博士とつくば市在住の山迫淳介博士から、両博士が採集された台湾産カミキリモドキ科甲虫を多数恵与していただいている。それらを調査した結果、緑島産のなかに興味深い種が含まれており、新産地になるので報告する。いつも貴重な標本を恵与して下さる両博士に御礼を申し上げる。

エダヒゲカミキリモドキ *Schistopselaphus sonani*
Kôno, 1937 (図1)

2♂♂, Ludao Is., Ludao Township, Taitung County (台東縣綠島鄉綠島), 4-6. IV. 2012, J. Yamasako leg.

1920年3月10日から4月14日の間に紅頭嶼(現蘭嶼)で採集された2雄1雌をもとに記載された種で、その後の記録はない。この種は、雄の小腮鬚の末端節が深く二分して、外枝が内枝よりも長く、腹部末端節後縁中央は半月形に切れ込む特徴がある。

フトヒゲカミキリモドキ *Hyperopsclaphus ikedai*
Mizota, 1999 (図2, 3)

1♂, 2♀♀, Wenquancun, Ludao Is., Ludao Township,

Taitung County (台東縣綠島鄉綠島温泉村), Taiwan, 7. V. 2018, W.-I Chou leg.

八重山諸島(黒島, 西表島)と台湾(鵝鑾鼻)産をもとに記載された種である。台湾に関してはその後の記録はないが、筆者は屏東縣南部の恆春半島産の標本を検視している(未発表)。この種は、小腮鬚の末端節が雄では肥大し、外縁の内側は広くえぐられ、雌では斧状である。また、雄の後腿節はやや太くなる。

引用文献

- Kôno, H., 1937. Neue und wenig bekannte Käfer Japans, II. Oedemeridae. Insecta Matsumurana, Sapporo, 11 (4): 135-146.
Švihla, V., 2008. Family Oedemeridae Latreille, 1810. Pp. 45, 353-369. In Löbl, I., & A. Smetana (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 5. Tenebrionoidea. 670 pp. Apollo Books, Stenstrup.
Mizota, K., 1999. A new genus and species of Asclelini (Coleoptera: Oedemeridae) from the Yaeyama Islands (Japan) and Taiwan. The Coleopterists Bulletin, 53 (3): 287-292.

(2018年8月24日受領, 2018年9月8日受理)



図1-3. 緑島産カミキリモドキ科. 1. エダヒゲカミキリモドキ♂; 2. フトヒゲカミキリモドキ♂; 3. フトヒゲカミキリモドキ♀.

甲虫コレクションガイド 12 岩手県立博物館の甲虫コレクション

渡辺修二・千葉武勝

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34 岩手県立博物館 (watanabe@iwapmus.jp)

Beetle Collection of the Iwate Prefectural Museum

Shuji WATANABE and Takekatsu CHIBA

はじめに

岩手県立博物館(図1)は、県政百年を記念して1980年10月に開館した総合博物館で、地質時代から現代にいたる地質・考古・歴史・民俗・生物各分野の資料を展示している。当館の登録資料数は約30万点であり(2018年3月現在)、そのうち生物標本は約17万点と半数以上を占める。登録された生物標本の約半分にあたる約8万3千点が昆虫標本で、複数の標本を登録上では1点としているものがあるため、標本の総数は約11万点である。そのうちチョウ目が約5万点と最も多く、次いでコウチュウ目が約3万9千点である。コウチュウ目の標本の約95%は岩手県で採集されたもので、県内で報告があるコウチュウ目113科3,200種(千葉, 2018)の内、101科1,659種を収蔵している(図2-5)。

当館で収蔵している生物標本の約76%にあたる13万点余りは個人から寄贈されたものである。これらの標本は再同定を行い、当館の様式にそろえたラベルをつけ、データベース(早稲田システム開発株式会社が提供するI.B.Museum SaaS)に採集データと分類情報等を登録して管理している。標本は基本的にはコレクションをそのまま保管するのではなく、分類群ごとにまとめて整理している(図6, 7)。このため、コレクションとして収蔵しているのは以下で紹介する稲庭岳周辺地域生物学

術調査の標本など、一部に限られる(図8)。

登録された標本の一部については、独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システム(以下S-net)に、データを整理、整形したうえで提供している。現在までに約9万点の自然史標本データを提供しており、このうちコウチュウ目は8,050点である。

次に当館のコウチュウ目標本コレクションの概要を紹介する。

稲庭岳周辺地域生物学術調査コレクション

岩手県二戸市が2012年から2014年にかけて実施した稲庭岳周辺地域生物学術調査において、筆者の1人である千葉武勝の他、伊達功氏、奥俊夫氏らが採集した標本約3万点からなるコレクションである。確認された種数は約5,200種で、これは岩手県内でこれまでに記録された昆虫約11,000種(千葉, 2018)のおよそ半数にあたる。コウチュウ目は標本数17,000点、約1,600種が採集されており、これも岩手県内で記録のある種の約半数にあたる。調査は二戸市浄法寺の稲庭岳周辺地域において、アクセスが困難な地域を除き可能な限り広い範囲で採集を行い、多いところでは1地域で10回以上採集を行うなどして、地域に生息する昆虫相の全体像を明らかにする目的で行われた。本コレクションはこの地域に出現する種の大部分を網羅すると考えられ、地域の昆虫相を示すモデルケースになる調査資料である。現在、順次標本を受け入れている途中で、これまでに登録された約8,000点について、S-netにデータを提供した。このうちコウチュウ目は4,338点、24科504種が含まれる。

春子谷地生物相調査コレクション

春子谷地は岩手山麓の標高450mにあり、面積は約16haと岩手県内最大規模の湿地である。環境省が定める生物多様性保全上重要な湿地(重要



図1. 岩手県立博物館の外観。



図2. イワテセダカオサムシ *Cychrus morawitzi iwatensis* Nakane, 1989 の標本.



図4. ハヤチネミズギワゴミムシ *Bembidion (Peryphus) hayachinense* Nakane, 1979 の標本.



図3. ハヤチネヌレチゴミムシ *Apatrobus hayachinensis* Nakane, 1968 の標本.



図5. ミチノクケマダラカミキリ *Agapanthia daurica sakaii* Hayashi, 1982 の標本.

湿地 500) にも選定されている。2007年から2009年にかけて、当館職員を含む春子谷地生物相調査グループによって動植物相の野外調査が行われた(春子谷地生物相調査グループ, 2008, 2010)。本調査に関して採集された昆虫標本のうち、1,861点が当館に収蔵されており、低層湿地における昆虫相の概要を把握できるコレクションとなっている。コウチュウ目の標本は679点で、33科268種が含まれる。このうち278点についてはS-netにデータを提供済みである。

栗駒国定公園調査標本コレクション

2004年に行われた、栗駒国定公園における指定動物選定に係る生息状況調査で採集された昆虫標本が当館に収蔵されている。調査地は須川岳(栗

駒山)、焼石岳、牛形山、経塚山で、9月初めから10月初めまでの期間で採集された。確認された昆虫類484種のリストが作られたが、標本は未整理の状態、コウチュウ目は調査区ごとにまとめて液浸標本となっている。短い調査期間の資料だが、この時期における公園内の昆虫相の概要を把握できる資料であり、今後標本および採集データの整理を行い、S-net等で公開したいと考えている。

中村七三(なかむらしちぞう)コレクション

盛岡市の中村七三氏(故人)が収集したコウチュウ目の標本4,233点で、21科708種を含む。これらのうちの約3,400点についてはS-netにデータを提供済みである。中村氏は自身でも採集を行ったほか、県内各地の中学校に採集用具を提供し、採集されたものを集めるなどして県内の広い範囲から標本を収集した。当館では開館準備中である1980年3月に中村氏のコレクション約600点を購入し、その後、多くの標本の寄贈を受けた。標本のほとんどは岩手県産であり、主に1956年から1972年ころに採集されたもので、古いものでは1932年から1942年に採集されたものもある。オサ



図8. コウチュウ目標本を配架している収蔵棚。



図7. 分類群ごとに整理済みの標本。



図8. 稲庭岳周辺地域生物学術調査コレクション（一部）。



図9. 未整理のまま箱詰めされている標本。

ムシ科が 139 種 1,000 点と最も多く、次いでカミキリムシ科 114 種 699 点、ハムシ科が 122 種 612 点である。オサムシ科のうち、ゴミムシ類については、その他のコレクションと合わせて岩手県のゴミムシ類（佐竹・笠原，1985）に目録としてまとめられている。ハネカクシ科の標本 129 種 581 点と、コメツキムシ科の標本 76 種 474 点は、中村氏が立ち上げた岩手甲虫学会から、それぞれ岩手県産鞘翅目仮目録 1, 2 として発表された（渡辺・佐藤，1968；大平・中村，1970）。目録発表に使われた標本は専門家の同定を受けており、ハネカクシは渡辺泰明氏が、コメツキムシは大平仁夫氏が同定した。

奥昭夫（おくあきお）コレクション

元教員で、二戸市史編さん室嘱託員であった奥昭夫氏から 2017 年に寄贈された昆虫標本 5,585 点のコレクションである。標本のほとんどは岩手県二戸市で採集されたもので、折爪岳・馬仙峡県立自然公園で 1997 年から 2007 年に採集したものなど、特定の地域で集中して採集された標本が含まれている。採集された標本は、チョウ目、コウチュウ目、カメムシ目、ハチ目、ハエ目など分類群も幅広く、岩手県の県北地域の昆虫相の概要を

把握できるコレクションとなっている（奥，2000，2011）。コウチュウ目ではカミキリムシ科が多く、戦前や戦中に採集されたカミキリムシ標本も含まれている。現在までに 1,457 点の整理を終えており、S-net にデータを提供した。

千葉武勝（ちばたけかつ）コレクション

筆者の一人で、元岩手県農業試験場研究員で、現在は当館の研究協力員である千葉武勝が寄贈した標本である。岩手県内の広い範囲で 1961 年から 2010 年までに採集された標本約 27,000 点からなるコレクションで、このうち約 22,000 点については S-net にデータを提供済みである。コウチュウ目は約 13,000 点あり、48 科 1,118 種が含まれる。今後多くの標本を寄贈予定である。

おわりに

以上のように、当館では岩手県で採集された標本に特化して収集を行っている。採集情報はデータベースに登録されており、県内における分布やその年代による変化を調べられるデータを蓄積している。当館には昆虫のタイプ標本はなく、また希少種が数多く収蔵されているわけでもないが、このように地域の昆虫相を把握できるコレクショ

ンをそろえることが、地方の博物館の重要な役割であると考えている。そのために、今後も県内各地で計画的に採集を進めることや、標本寄贈の積極的な受け入れを行っていく必要がある。

しかし、当館においても収蔵スペース不足は深刻な問題となっている。ここ2年ほど大きなコレクションの寄贈が続き、2016年は約39,000点、2017年は約12,000点の昆虫標本を受け入れており、今年度も数千点の標本を受け入れている。これらの標本については棚の追加や動物剥製の収蔵棚を整理するなどして仮置き場を確保したが、もはや小手先の対策では対処が難しい状況である。また、標本を配架している電動棚が老朽化し、動きが悪くなっているところが出てきたが、部品交換用のパーツがメーカーにも残っていないため、いつ完全に停止してしまうか薄氷を踏む思いで使用している。しかし、収蔵庫の増設や改修については、未だに具体的な計画が立てられる状況になく、これらの問題の解決について明確なビジョンを持っていない。

寄贈された標本の整理、同定は主に研究協力員や岩手虫の会のボランティアなどの協力を受けながら進めている。しかし、チョウ目など愛好家の多い分類群を除き、地方では昆虫の専門的な同定を行うことができる者は少ないため、寄贈される標本数の増加ペースに対応できず、やむなく長期間整理待ちとなっている標本も多い(図9)。これまで当館に分類学の専門家が昆虫担当芸員として着任したことはなく、主に県の教育委員会から派遣された生物の教員が担当してきた。この中には、筆者の一人、渡辺のように、分類学的なトレーニングをほとんど受け

てこなかった者もあり、寄贈された昆虫標本の整理が進まないことの一因となっている。今後、専門的な技能を必要としないデータ入力や、再同定済みの標本の整理等については、アルバイトを雇用するなどして標本整理を推進したい。筆者らも更に標本整理に力を入れ、貴重な標本が多くの人々の研究に使えるよう整理を進めていきたい。

謝辞

これまで当館に標本を寄贈してくださった方々、標本の整理に協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。また、執筆の機会をいただいた本誌編集委員の奥島雄一氏(倉敷市立自然史博物館)に感謝する。

引用文献

- 千葉武勝, 2018. 岩手県内から記録された昆虫の種数. 岩手虫の会2018年2月例会資料.
 春子谷地生物調査グループ(編), 2008. 春子谷地生物相調査報告書, 84 pp., 春子谷地生物相調査グループ, 盛岡市.
 春子谷地生物調査グループ(編), 2010. 春子谷地生物相調査報告書2, 48 pp., 財団法人岩手県文化振興事業団, 盛岡市.
 奥 昭夫, 2000. 二戸市の自然1, 153 pp., 岩手県二戸市まちづくり推進課.
 奥 昭夫, 2011. 二戸市の自然2, 126 pp., 岩手県二戸市市民協働部地域づくり推進課.
 大平仁夫・中村七三, 1970. 岩手県産鞘翅目仮目録2, 36 pp., 岩手甲虫学会, 盛岡市.
 佐竹邦彦・笠原須磨生, 1985. 岩手県のゴミシ類, 岩手県立博物館研究報告, (3): 169-194.
 渡辺泰明・佐藤光子, 1968. 岩手県産鞘翅目仮目録1, 25 pp., 岩手甲虫学会, 盛岡市.

(2018年8月27日受領, 2018年9月8日受理)

【短報】ケシマルムシ属微小甲虫を神奈川県で採集

ケシマルムシ科 Sphaeriidae は、ツブミズムシ亜目 Myxophaga を構成する科の1つで、単一のケシマルムシ属 *Sphaerius* から成る。本属は南極大陸を除き広く分布しているが、世界でわずか23種しか知られていない小さな分類群である(Mesároš, 2013)。ケシマルムシ属の一種 *Sphaerius* sp. は、以下に述べる通り、国内でこれまでに4例の採集報告がある。今回、筆者は新たに神奈川県平塚市で本種(図1)を採集したので、ここに報告する。

1 ex., 神奈川県平塚市寺田縄(県立花と緑のふれあいセンター), 27. VII. 2018, 平野幸彦保管; 1 ex., 同所, 13. VIII. 2018, 筆者保管(いずれも筆者採集)。

採集場所は、平塚市にある通称「花菜ガーデン」の敷地内にある水田である(図2)。上記の記録に数日先立ち、7月21日に同所を訪れたところ、水

田内にチビゲンゴロウやキベリヒラタガムシが多数動き回っているのを確認した。他に何かおもしろい虫はいないかと、水際の泥をスプーンで浅く削り、水と掻き混ぜて水面に浮いてくる微小甲虫を探していたところ、1時間ほどの探索で、本種と思しき個体を3頭得ることができた。しかし、そのあまりの微小さゆえうまく標本化できなかったため、後日同所を訪れ、上記の通り追加個体2頭を得た。体長はいずれも約0.7 mmと大変微小で、水面に浮いた個体は丸くツヤのある甲虫らしきものとして目視でギリギリ判別できるレベルであった。追加個体はいずれも2時間ほど探索してようやく得られたもので、個体密度はそれほど高くないようである。

実体顕微鏡で観察すると、触角先端は球桿状で、球桿部に長毛が生えているのが確認できた。(図1)。



図1. *Sphaerius* sp. (神奈川県産).



図2. 採集地の水田 (神奈川県立花と緑のふれあいセンター敷地内).

これはケシマルムシ属の顕著な特徴である (Hangay ら, 2010). 亀澤ら (2012) は, 東京都産ケシマルムシ属の実体顕微鏡および電子顕微鏡による形態観察結果を詳説しており, 今回採集した個体の形態も, 実体顕微鏡レベルでその記述によく一致している. しかし種名までは同定できなかったため, ケシマルムシ属の一種 *Sphaerius* sp. とした.

Sphaerius sp. は日本においてこれまでに愛媛県 (酒井, 2001), 栃木県 (大桃ら, 2008), 埼玉県 (新井, 2011), 東京都 (亀澤ら, 2012) で記録がある. 今回のも含めて過去の記録の採集環境を整理すると,

- ・愛媛県産: 重信川の堤防に堆積した洪水ゴミの中
- ・東京都産: 多摩川の水際の石の下
- ・埼玉県産: 荒川上流域の断崖の湧水
- ・栃木県産: 鬼怒川および西荒川の水際の泥
- ・神奈川県産: 水田の水際の泥

となっている. これらの記録が全て同種かどうかは不明であり, 愛媛県産の個体は元の生息地が不

明であるが, これらの記録から, 本種は生息環境については案外ジェネラリストで, 場所を問わず極浅い水界を好むらしいことが示唆される. 本属の生息環境については, Hangay *et al.* (2010)に, 小川や湿地の水際にある湿った泥や砂, 砂利の中, また水没した流木や石の下から見つかるとの記述があり, 上記日本産の生息環境と概ね一致している. 一方, 埼玉県産のように湿岩環境にも生息する旨の記述は見当たらず, 興味深いところである. また, 南アフリカ産の *S. africanus* は, 水界から離れた森林で採取したりターの中や, カーネットを用いて空中から得られている (Endrödy-Younga, 1997). 今後の調査における探索場所や採集法として留意すべきである.

本種は, その微小さゆえに発見も困難で, 研究も進んでいないようであるが, 上記発見場所を考慮すると, 実際は身近な水界に生息する普通種である可能性がある. 同好諸氏による調査で, 国内の本種の分布や生態, 効率的な採集方法について知見が得られることを期待したい.

補足ながら, 本種の採集は, その生息密度の低さもあって, 同じ場所で長時間水面を凝視して探索する必要があるため, 大変根気が要る作業となる. 適度な気候の日を選ぶ, 折りたたみの椅子を用意するなど, 無駄に体力を消耗することがないように工夫されたい.

末尾ながら, 標本を確認いただきケシマルムシ属の示唆をいただいた平野幸彦氏と, 関連する文献をご提供いただいた亀澤洋氏に感謝申し上げる.

引用文献

- 新井浩二, 2011. 「埼玉県から新たに記録される甲虫類 (17)」の訂正. 寄せ蛾記, (142): 28.
- Hangay, G. & Zborowski, P., 2010. A Guide to the Beetles of Australia. 238 pp., CSIRO Publishing, Collingwood VIC.
- Endrödy-Younga, S., 1997. Microsporidae (Coleoptera: Myxophaga), a new family for the African continent. *Annals of the Transvaal Museum*, 36(23): 309-311.
- 亀澤 洋・松原 豊, 2012. 東京都多摩川で採集したケシマルムシ属の一種について. さやばねニューシリーズ, (6): 25-27.
- Mesaroš, G., 2013. Sphaeriusidae (Coleoptera, Myxophaga) — A new beetle family to the fauna of Serbia —. *Bulletin of the Natural History Museum in Belgrade*, 6: 71-74.
- 大桃定洋・高橋敬一, 2008. 2006-7年に栃木県下で採集した甲虫類. *インセクト*, 59(1): 17-26.
- 酒井雅博, 2001. 日本よりケシマルムシ科を発見. *雑甲虫ニュースレター*, (3): 5-6.

(齋藤孝明 243-0005 厚木市松枝 1-12-15-402)

日本初記録のキクイムシ *Cyclorhipidion corrugatum*

中野文尊

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院生命農学研究科

Cyclorhipidion corrugatum Newly Recorded from Japan

Fumitaka NAKANO

筆者は沖縄県の西表島において、日本から記録がないと思われるゾウムシ科キクイムシ亜科の一種を採集しているため、知人より預かっている採集データと合わせて以下に報告する。なお、採集地は沖縄県八重山郡竹富町（西表島）以下の詳細を示してある。本種の同定をしていただき、投稿を勧めてくださった平野幸彦氏、貴重な採集データをくださった緒方裕大氏、ならびに、標本写真の撮影にご協力くださった戸田尚希氏の各氏に心より御礼申し上げます。

オオズオオキバキクイムシ（新称）

Cyclorhipidion corrugatum (Schedl, 1951)

(図1-3)

1♂, 31. VII. 2017, テドウ山, 中野文尊採集 (図1, 3); 1♂, 25. X. 2017, 同, 中野文尊採集 (図2); 2♀♀, 12. II. 2016, 相良川, 緒方裕大採集。

本種は Schedl (1951) により、インドネシアのジャワ島で得られた雄个体をもとに記載された種である。筆者は自然林内のオキナワウラジロガシと思われる立ち枯れのスプレーイングで、緒方裕大氏はカシ類の枯死木の坑道からほじくり出して得た。本種の雄は頭部、前胸および大あごが顕著に発達し、図1, 2のように体サイズや大あごの内歯の形状などに個体差が見られた。

本種が属するザイノキクイムシ族 Xyleborini は、同系交配の一夫多妻制という配偶システムをとる養菌性キクイムシである。この配偶システムをとるキクイムシは分散、坑道の創設、繁殖および坑道入口のガードなどを行う雌に対して、坑道内で一生を終える雄は小型かつ短命で、体色・複眼・後翅が退化しているものが多く（上田ら, 2009）、本種のように雄の頭部や大あごが発達するのは稀な例であると思われる。梶村（2010）が同様に雄の頭部、前胸

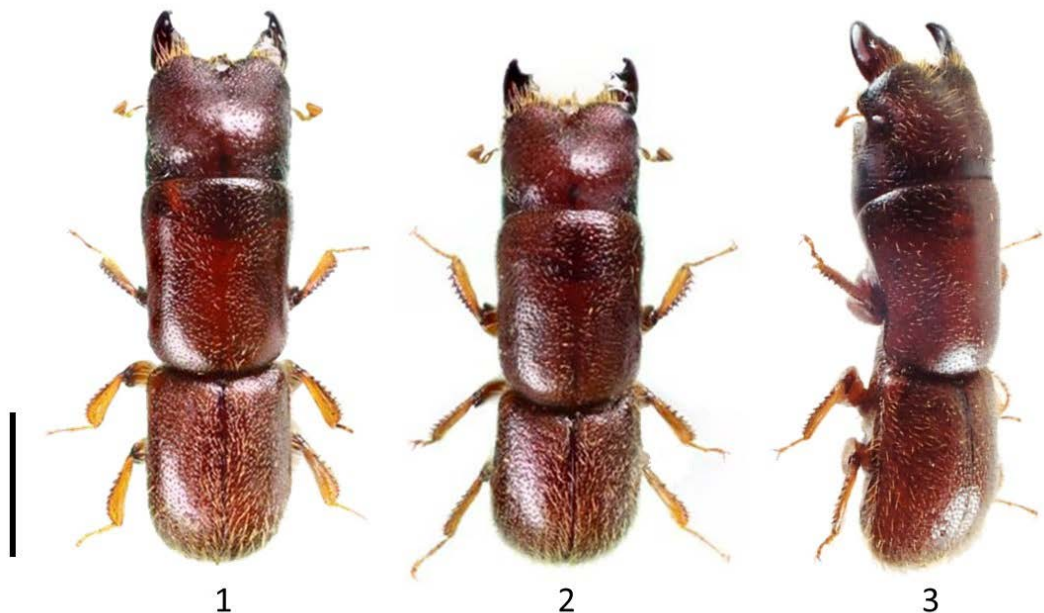


図1-3. *Cyclorhipidion corrugatum* ♂. 3: 図1の個体の側面。スケールバー: 1.0 mm.

および大あごが発達する *Cyclorhipidion* sp. を沖縄本島から報告しているが、本種と同種であるかは不明である。発達した大顎が坑道内での種内競争に用いられるのか、あるいは坑道入口で天敵の侵入を防ぐために用いられるのかは不明であるが、本種がスプレーイングで採集されたことから、樹木の表面、あるいは坑道の入り口で天敵を撃退している可能性が高いと考えられる。なお、筆者は同所において本種の雌と思われる個体も複数採集しているが、こちらに関しては本種の雌という確証がないため、今回

は雄の記録のみに留めた。

引用文献

- 梶村 恒, 2010. キクイムシの繁殖生態. 昆虫と自然, 45 (14): 17-20.
 Schedl, K. E., 1951. Fauna Indomalayaensis, I. Tijdschrift voor Entomologie, 93: 41-98.
 上田明良・水野孝彦・梶村 恒, 2009. キクイムシの生態: 食性と繁殖様式に関する研究の現状と展望. 日本森林学会誌, 91: 469-478.

(2018年8月3日受領, 2018年9月10日受理)

【短報】東京都稲城市でオオタツマアカヒメテントウを採集

オオタツマアカヒメテントウ *Scymnus* (*Pullus*) *rectus* (Ohta, 1929) は、テントウムシの同定に広く使われている黒澤ほか編 (1985) や日本環境動物昆虫学会編 (2009) に、四国・九州・対馬に分布するとされていることもあって、本州にも産することは東日本の愛好者にはあまり知られていないようだ。しかし西日本ではすでに常識のようで、筆者が知りえた限りでも長野 (高橋, 2015) ・三重 (鈴鹿市環境部環境政策課編, 2008) ・京都 (京都府自然環境保全課, 2015; 高橋, 2015) ・奈良 (高橋, 2015) ・大阪 (高

橋, 2015) ・兵庫 (稲畑, 2001; 長島, 2017; 高橋, 2015) ・鳥取 (佐々治, 1991) ・島根 (林, 2011) ・岡山 (鈴木, 2014) ・広島 (亀山ほか, 2009; 大塚, 2010; 佐々治, 1991, 2002) ・山口 (山口県立山口博物館編, 1988) の各府県から報告されている。

筆者は東京都稲城市で本種 (図1) を採集したので報告する。

稲城市丸丸 (多摩川河川敷): 1♀, 26. IX. 2017; 1♀, 22. V. 2018; 稲城市押立 (多摩川河川敷): 2♂♂, 24. IX. 2017; 3♂♂1♀, 12. X. 2017; 1♂, 2. V. 2018. すべて筆者採集・保管。

オニグルミやエノキのスイーピングで得た。近似のニセツマアカヒメテントウ *S. (P.) rectoides* Sasaji, 1971 と同時に得られることが多い。

同定は Kamiya (1961), Sasaji (1971) によった。Kamiya (1961) の♂交尾器の図は Sasaji (1971) に、そして佐々治 (1996) や日本環境動物昆虫学会編 (2009) にもそのまま使われている。この図ではサイフォの先端部背面に付属片のようなものが描かれているが、いずれの本文中にもその説明はない。上に記録した6頭の♂にはそのような付属片が認められなかったが、それ以外の点では外部形態・♂交尾器ともに Kamiya (1961), Sasaji (1971) の記載によく一致したので本種と同定した。



図1. オオタツマアカヒメテントウ♂ (稲城市産, 阪本優介撮影)。



図2-4. ニセツマアカヒメテントウ (左) とオオタツマアカヒメテントウ (右) の雌雄交尾器 (いずれも稲城市産, 伊藤淳撮影)。2, ♂交尾器サイフォ; 3, ♂交尾器包片; 4, ♀貯精嚢。

ニセツマアカヒメテントウと比べると、体形はより短くて丸みが強く、また上翅は左右それぞれに、翅端部の橙色紋の前縁が前方へ弧状に突出することで区別できるが、♂交尾器の形態による区別の方が確実である(図2-3)。本種のサイフォは基半部がニセツマアカヒメテントウのものより大きな輪を描き、中間部が膨らみ、その先は細くてわずかに波曲し、先端部は腹側が斜めに裁断状で、鋭く尖る。包片の中央片は、ニセツマアカヒメテントウでは側縁が弧状であるのに対して、本種では両側平行で、先端部は単純な三角状に尖る。また、♀の貯精嚢の形態にも相違が認められた(図4)。

なお、筆者はニセツマアカヒメテントウを稲城市内各地で多数確認しているが、もうひとつの近似種ツマアカヒメテントウ *S. (P.) dorcatomoides* Weise, 1879 は見出していない。この種も普通種とされることが多いが、実は東京近辺では少ないものかもしれない。松原(2003)も「関東南部の平地では前種(引用者注:ツマアカヒメテントウ)よりも本種(引用者注:ニセツマアカヒメテントウ)の方が多く思うが、同定が難しいため正確な記録の蓄積が十分できていない」と述べている。今後、オオタツマアカヒメテントウを含めた3種について、正確に同定し、同定の根拠を明示した記録の蓄積が必要であろう。

末筆ながら、文献の提供、種々の情報提供、写真の撮影などで御協力いただいた柏崎昭、北野峻伸、前原和雄、松原豊、中村涼、西野洋樹、阪本優介、鈴木茂、高井泰、辻雄介、山崎裕志の各氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 林 成多, 2011. 島根県産甲虫目録(2011). ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (4): 1-161.
- 稲畑憲昭, 2001. 兵庫県からのテントウムシの記録. きべりばむし, 29(1): 50.
- 亀山 剛・西 真弘・中村慎吾, 2009. 江の川の昆虫類 2004年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, (50): 1-219.
- Kamiya, H., 1961. A revision of the tribe Scymnini from Japan and the Loochoos (Coleoptera: Coccinellidae) Part II. Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University, 11(3): 303-330, pl. 39.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編, 1985. 原色日本甲虫図鑑(III). x + 500pp. 保育社, 大阪.
- 京都府自然環境保全課編, 2015. 京都府レッドデータブック別冊(京都府自然環境目録). 415 pp. 京都府自然環境保全課, 京都.
- 松原 豊, 2003. 東京都のテントウムシ科. Leptalina, (151-156): 621-644.
- 長島聖大, 2017. 伊丹市のテントウムシ科(コウチュウ目). 伊丹市昆虫館研究報告, (5): 39-43.
- 日本環境動物昆虫学会編, 2009. テントウムシの調べ方. 148 pp. 文教出版, 大阪.
- 大塚健之, 2010. 2010年までに広島県内各地で採集した甲虫

の記録. 広島虫の会報, (49): 33-44.

- Sasaji, H., 1971. Coccinellidae (Insecta: Coleoptera). Fauna Japonica. ix + 340 pp., 16 pls. Academic Press of Japan, Tokyo.
- 佐々治寛之, 1991. 馬場金太郎博士採集の日本各地産テントウムシ科甲虫標本. 越佐昆虫同好会々報, (71): 33-36.
- 佐々治寛之, 1996. 絵解き検索によるテントウムシ類の見分け方. 日本環境動物昆虫学会編, 環境アセスメント動物調査手法 6, pp. 27-56. 日本環境動物昆虫学会, 大阪.
- 佐々治寛之, 2002. 広島県のテントウムシ科の分布記録(4). 比和科学博物館研究報告, (41): 105-109.
- 鈴鹿市環境部環境政策課編, 2008. 鈴鹿市の自然. 802pp. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
- 鈴木 茂, 2014. 岡山県の甲虫. <https://okayamacoleoptera.jimdo.com> (2018年7月25日アクセス)
- 高橋 敏, 2015. テントウムシ科. 初宿成彦編, 大阪市立自然史博物館 所蔵甲虫目録(4), pp. 71-145. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 山口県立山口博物館編, 1988. 山口県の昆虫. 197 pp. 山口県立山口博物館, 山口.

(伊藤 淳 183-0012 府中市押立町 5-1-25)

【短報】沖永良部島におけるコメツキムシ科甲虫2種の記録

筆者の一人、内藤は2017年4月に沖永良部島で甲虫類の調査を行った。採集したコメツキムシ科甲虫のうち、ハナコメツキ亜科に所属する2種が未記録であるので、同島初記録として報告する。標本は有本が保管している。

1. オキナワオオハナコメツキ *Platynychus loochoensis* (Kishii, 1979)

1♂。(図1), 鹿児島県大島郡知名町沖泊キャンプ場, 20. IV. 2017, 内藤準哉採集。

広葉樹の地上3.5 m位の枝の叩き網で得た。

本種の既知産地は奄美大島、喜界島、徳之島、



図1-2. リュウキュウオオハナコメツキ (1) とタムラハナコメツキ (2)。

沖縄本島, 渡名喜島, 石垣島, 西表島で与那国島からの記録がないのは興味深い。

2. タムラハナコメツキ *Displatynychus tamurai* (Kishii, 1974)

1 ♀ (図 2), 鹿児島県大島郡知名町沖泊キャンプ場, 20. IV. 2017, 内藤準哉採集。

上記種と同所で採集した。本種の既知産地は奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖縄本島, 渡名喜島, 渡嘉敷島, 石垣島, 西表島, 波照間島, 与那国島である。

上記 2 種は南西諸島では広く分布が知られているが, 奄美諸島では沖永良部島と与論島で記録がなかった。形態は奄美大島および沖縄島の個体と比較したが, 差異は認められなかった。

引用文献

- 有本晃一, 2016. 西表島, 波照間島におけるタムラハナコメツキムシの記録. さやばねニューシリーズ, (21): 35.
 大平仁夫, 1999. 日本産ヒメハナコメツキ属の種について. 比和科学博物館研究報告 (38): 349-355.
 大平仁夫, 日本産オオハナコメツキ属の種について. 比和科学博物館研究報告 (38): 357-362.

(内藤準哉 260-0001 千葉市中央区都町 1-48-16)
 (有本久之 558-0052 大阪市住吉区帝塚山西 3-4-21)

【短報】神奈川県でオオシモフリコメツキの縦縞紋様の変異個体を採集

筆者は, 大変珍しいと思われるオオシモフリコメツキ *Actenicerus orientalis* (Candèze, 1889) の縦縞紋様を現した変異個体を神奈川県にて採集したので, ここに報告する。



図1-2. オオシモフリコメツキの縞紋様型変異 (神奈川県産)。

1 ♂, 厚木市荻野市谷, 12. III. 2018, 筆者採集, 有本久之保管。

体長は 16.5 mm 程で, 図 1-2 に示した通り明瞭な縦縞紋様があり, 光の当て方を変えても通常の霜降り紋様は現れない。

採集地は, 厚木市立こどもの森公園の北側に位置する荻野の里山にある湿地化した休耕田である。谷戸の最奥部の湧水流に近い場所のコケを剥がしたところ, 越冬中の本個体を発見した。越冬室のような隙間は見当たらず, 頭部を上向きにして土中に刺さっているような状態で見つかったのが印象的であった。

標本を検したところ, 上翅の斑紋以外は大平 (2005) に記載されたオオシモフリコメツキの特徴と一致しているように見え, コメツキ類の専門家である有本久之氏に種同定を依頼したところ, 斑紋以外の触角や交尾器等の特徴を踏まえて総合的に判断し, やはり, オオシモフリコメツキであるとの同定結果を得た。

Actenicerus 属は世界で 37 種が知られ, 特に日本では種分化が進み, 26 種の固有種が知られている (Oba *et al.*, 2015)。本属の種の多くは上翅に複雑な紋様の毛斑を有し, その紋様の現れ方は種内でも個体差があるが, 縞紋様のような整然とした紋様の変異の記録は, 少なくとも邦産種では知られていないと思われる。一方, 欧州に広く分布する *A. sjaelandicus* は, 通常の霜降り型に加えて, 特に東欧では縦縞紋様型も知られており (Mertlik & Dušánek, 2018), その紋様は今回の採集個体と非常によく似ている。紋様の不規則化や消失ではなく, 整然とした縞紋様が変異として稀に出現するという現象は一見理解しがたく, いかなる遺伝子的機序によるものなのか, また, *Actenicerus* 属以外の分類群でもそのような変異の例があるのか等, 大変興味深いところである。専門家による今後の研究に期待したい。

末尾ながら, 標本の種同定を引き受けて下さった有本久之氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- Mertlik, J. & Dušánek, V., 2018. Elateridae (旧北区のコメツキムシに関する専門ウェブサイト). URL: <http://www.elateridae.com/> (2018年9月4日アクセス)。
 Oba, Y., Ôhira, H., Murase, Y., Moriyama, A., and Kumazawa, Y., 2015. DNA Barcoding of Japanese Click Beetles (Coleoptera, Elateridae). PLoS ONE, 10(1): e0116612.
 大平仁夫, 2005. 日本産シモフリコメツキ類の形態について (3). 南紀生物, 47(1): 11-13.

(齋藤孝明 243-0005 厚木市松枝 1-12-15-402)

石川県のドロムシ科・ヒメドロムシ科

渡部晃平

〒920-2113 石川県白山市八幡町戌3番地 石川県ふれあい昆虫館 (koutarouhigasi@yahoo.co.jp)

Dryopidae and Elmidae of Ishikawa Prefecture, Honshu, Japan

Kohei WATANABE

はじめに

石川県のドロムシ科 Dryopidae およびヒメドロムシ科 Elmidae は、1998 年に出版された石川県産昆虫目録によりドロムシ科 1 種、ヒメドロムシ科 9 種が記録されている (石川県, 1998)。その後、保科ほか (2003)、吉道 (2009)、渡部 (2010a, b, 2011)、富沢 (2012)、樋口 (2013)、渡部・稲畑 (2016) によりヒメドロムシ科の 13 種が新たに発見されたほか、2015 年にスネグロマルヒメドロムシ *Optioservus occidens* が記載された際に石川県産の標本が使用された (Kamite, 2015)。しかし、石川県 (1998) ではセアカヒメドロムシ *Optioservus maculatus*、ヨツモンヒメドロムシ *Optioservus rugulosus* が記録されており分布上疑問が残るリストとなっているほか、石川県 (1998) 以降ドロムシ科とヒメドロムシ科についてまとまった報告はなされておらず、県内における生息状況の多くは未解明である。環境省版レッドリスト (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2018) 掲載種のヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis*、ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* が石川県版レッドデータブック改訂版 (石川県, 2009) 出版以降に発見されたことから調査が不足していることがうかがえる。

筆者は石川県版レッドデータブックの改訂に向けて、県内各地においてドロムシ科とヒメドロムシ科を対象とした調査を実施してきた。本報告では、石川県におけるドロムシ科およびヒメドロムシ科の生息情報をとりまとめることを目的として、過去の文献記録を整理し、筆者が実施してきた現地調査の結果を報告する。

調査方法

石川県内のドロムシ科およびヒメドロムシ科の記録が掲載されている文献を調査し、過去の記録を整理した。過去の記録の一部には現在使われていない古い地名が掲載されていたため、旧地名を () 内に示した。また、石川県内各地において 2015 年 5 月～2018 年 8 月に現地調査を行った。採集には、

フレームが四角型をした目幅 1 mm 未満フレーム幅 30cm の網と、稲畑 (2016) を参考に自作した網を使用し、河川上流側の河床や植物の根などを攪乱した際に流下してきた個体を捕獲した。調査対象種には流木に依存する種も知られていることから、水に浸かった流木を拾い上げ、その表面を目視により確認した。あわせて、ライトトラップ (カーテン法) やコンビニのライトに飛来した個体を採集した。白山国立公園の特別保護地区内の調査は採集許可 (環中地国許第 1602151 号) を取得後に実施した。

採集した個体は、実体顕微鏡 (Nikon 製 SMZ-745) を用いて同定した後、乾燥標本とした。灯火採集や外灯下で得られた記録には、採集データの末尾に Lt と表記した。和名、学名および配列は、上手ほか (2018) に従った。同定は基本的に筆者が行い、ナガアシドロムシ属 *Grouvellinus* については筆者が同定した標本を日本甲虫学会の稲畑憲昭氏に確認していただいた。

提供いただいた個人コレクションのデータも調査結果に含めた。

結果および考察

【文献記録】に既知記録、【調査結果】に現地調査の結果および個人コレクションのデータを示す。標本の保管場所については次のとおり略記した：福富宏和コレクション (CHF)、稲畑憲昭コレクション (CNI)、渡部晃平コレクション (CKW)、吉村優杏コレクション (CYY)。

文献調査および現地調査の結果、ドロムシ科 1 種、ヒメドロムシ科 23 種が確認された。このうちセマルヒメドロムシ *Orientelmis parvula* (Fig. 1) およびコマルヒメドロムシ *Optioservus yoshitomii* (Fig. 2) は石川県初記録であった。疑問種として林 (1976) が報告したセアカヒメドロムシ (現在はムナミゾマルヒメドロムシ) *Optioservus maculatus*、富樫 (1971) と林 (1976) が報告したヨツモンヒメドロムシ *O. rugulosus* が挙げられる。Kamite (2015) が示したマルヒメドロムシ属 *Optioservus* の国内分布の状況



Figs. 1–2. *Orientelmis parvula* (Nomura) (1) and *Optioservus yoshitomi* Kamite (2) collected from Ishikawa Prefecture.

から考えると石川県にムナミゾマルヒメドロムシが分布する可能性は低いと考えられる。県内から報告された *O. maculatus* はマルヒメドロムシ属のスネグロマルヒメドロムシ *Optioservus occidentis*, タテスジマルヒメドロムシ *O. ogatai*, コマルヒメドロムシのいずれかだと考えられるが、標本を確認することができなかったため以下に示すリストには含めていない。ヨツモンヒメドロムシはツヤヒメドロムシ *O. nitidus* と大変近縁で同種の可能性が指摘されている(吉富ほか, 1999) こと, 九州にのみ分布するとされる(上手ほか, 2018) ことから, ヨツモンヒメドロムシとして報告された富樫(1971) および林(1976) は, ツヤヒメドロムシの記録として扱った。なお, 樋口(2014) ではツヤドロムシ属の一種 *Zaitzevia* sp. が記録されていたが, 標本を確認できず種名の特定には至っていないことから本報告では記録を採用しなかった。

白山国立公園の特別保護地区においては, 南竜周辺の複数の沢(標高約 2,070 ~ 2,100 m) ではドロムシ科およびヒメドロムシ科の種は確認されなかった。湯の谷川支流(標高約 1,310 m) ではタテスジマルヒメドロムシ 1 種が多数確認された。本種は県外においても高標高地から確認されており(Kamite, 2015; 稲畑, 2016 など), 石川県では最も高標高地で確認された種であった。

過去の記録を概観すると灯火採集によるものが多く見受けられ(吉道, 2009; 川瀬, 2014; 樋口, 2014), ドロムシ科とヒメドロムシ科本来の生息環境である水域での調査が不足してきたものと考えられる。本報告においても調査を実施できた地域に限られており, 口能登から中能登地域を中心に調査空白地が多く残されている。一方, 環境省自然環境局野

生生物課希少種保全推進室(2018)において絶滅危惧Ⅱ類に選定されているヨコモゾドロムシ *Leptelmis gracilis*, セマルヒメドロムシ, ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* が新たに複数水系から発見され, ヒメドロムシ科の生息に適した中流域が県内に残存していることも示された。しかし, 現時点ではこれら絶滅危惧種の確認地点数は少なく, 県外と同様に石川県においても希少種の可能性がある。

ドロムシ科 Dryopidae

1. ムナビロツヤドロムシ *Elmomorphus brevicornis* Sharp

【文献記録】珠洲市: 若山町白滝 若山川(渡部, 2010c). 輪島市: 門前町白禿(吉道, 2009). 能登町: 武連(石川県, 1998). 曾又 神野川, 字北河内町野川(渡部, 2010c). 中能登町: 西馬場眉丈山地(川瀬, 2014). 金沢市: 菊水町(alt. 300 m)(樋口, 2014). 加賀市: 熊坂(石川県, 1998).

【調査結果】輪島市: 2exs. (CKW), 三井町洲衛, 5. VIII. 2015, Lt, 筆者採集. 能登町: 8exs. (CKW), 天坂, 5. VIII. 2015, Lt, 筆者採集; 4exs. (CKW), 北河内 河内川, 28. VIII. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 石井 町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集. 白山市: 6exs. (CKW), 相滝町 堂川, 15. IV. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 若原町 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 小松市: 1ex. (CKW), 那谷町 ため池, 27. V. 2015, 筆者採集; 2exs. (CKW), 佐々木町 梯川, 7. V. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 古府町 梯川, 7. V. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 同所, 19. VII. 2018, 筆者採集; 1ex. (CKW), 軽海町 梯川, 20. VIII. 2016, 筆者採集; 4exs. (CKW), 岩上町 西俣川, 16. VII. 2018, 筆者採集; 6exs. (CKW), 岩上町 西俣川

alt. 80 m, 10. VI. 2018, 佐藤卓也採集.

ヒメドロムシ科 Elmidae

1. ハバビロドロムシ *Dryopomorphus extraneus*

Hinton

【文献記録】白山市：雄谷 (alt. 650m) (樋口, 2013).

【調査結果】白山市：1 幼虫, (CKW), 左礪町 大日川, 15. VII. 2015, 筆者採集; 1ex. (CKW), 河内町 吉岡 細流, 23. III. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 相滝町 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集; 1 幼虫, (CKW), 桑島, 16. V. 2016, 筆者採集; 1 幼虫, (CKW), 桑島 百合谷, 1. VIII. 2015, 筆者採集. 小松市：1ex. (CKW), 新保町 大日川, 13. XI. 2016, 筆者採集; 1 幼虫, (CKW), 新保町 大日川支流, 13. XI. 2016, 筆者採集; 1 幼虫, (CKW), 大杉町 大杉谷川支流, 13. XI. 2016, 筆者採集; 2exs. (CNI), 大杉町 大杉谷川支流 alt. 170 m, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集.

2. ヒメハバビロドロムシ *Dryopomorphus nakanei*

Nomura

【文献記録】珠洲市：東山中町 紀の川 (渡部, 2010c). 能登町：桐畑 町野川, 曾又 神野川 (渡部, 2010c). 穴水町：乙ヶ崎 (石川県, 1998).

【調査結果】中能登町：3exs. (CKW), 久江原山分久江川 alt. 161.8 m, 12. VIII. 2018, 筆者採集. 金沢市：1 幼虫, (CKW), 大額町 碓川支流, 18. III. 2016, 筆者採集. 能美市：1ex. (CKW), 粟生町 細流, 29. VI. 2015, 筆者採集. 小松市：1ex. (CKW), 那谷町 ため池, 27. V. 2015, 筆者採集; 1ex. (CKW), 古府町 梯川, 19. VII. 2018, 筆者採集; 1ex. (CNI), 大杉町 大杉谷川 alt. 545 m, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集.

3. アシナガミゾドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura

【文献記録】小松市：梯川 (石川県, 1998).

【調査結果】輪島市：3exs. (CKW), 三井町 洲衛, 25. VII. 2018, Lt, 筆者採集. 能登町：5exs. (CKW), 天坂, 25. VII. 2018, Lt, 筆者採集; 20exs. (CKW), 石井 町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集.

【備考】能登町石井 町野川で採集された 18 頭は無翅型, その他の個体は全て長翅型であった.

4. ゴトウミゾドロムシ *Ordobrevia gotoi* Nomura

【文献記録】白山市：白峰 三ツ谷川, 白峰 風嵐谷川 (渡部・稲畑, 2016).

【調査結果】能登町：1ex. (CYY), 北河内 河内川, 28. VIII. 2016, 吉村優杏採集. 小松市：1ex. (CKW), 岩上町 西俣川, 16. VII. 2018, 筆者採集; 1ex. (CKW),

丸山町 大日川 alt. 440 m, 24. VI. 2018, 佐藤卓也採集. 加賀市：15exs. (CNI), 山中温泉市 谷町 大聖寺川支流 alt. 200 m, 20. VIII. 2018, 稲畑憲昭採集.

5. アカモンミゾドロムシ *Ordobrevia maculata* (Nomura)

【文献記録】能登町：桐畑 町野川 (渡部, 2010b).

【調査結果】白山市：4exs. (CKW), 鶴来日吉町 細流, 7. V. 2015, 筆者採集; 1ex. (CKW), 桑島 百合谷, 1. VIII. 2015, 筆者採集; 5exs. (CKW), 瀬波 正直谷, 5. VII. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 白峰 三ツ谷川, 7. VI. 2016, 筆者採集; 4exs. (CKW), 白峰 風嵐谷川, 7. VI. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 野地町 野地川, 31. V. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 相滝町 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 金沢市：1ex. (CKW), 大額町 碓川支流, 18. III. 2016, 筆者採集. 小松市：9exs. (CKW), 大杉町 大杉谷川支流 alt. 170 m, 14. XI. 2016, 筆者採集; 35exs. (CNI), 同所, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集; 1ex. (CKW), 岩上町 西俣川, 16. VII. 2018, 筆者採集; 1ex. (CNI), 小原町 綿谷 綿谷橋上流, 13. XI. 2016, 稲畑憲昭採集.

6. キスジミゾドロムシ *Ordobrevia foveicollis* (Schönfeldt)

【文献記録】珠洲市：三崎町 粟津, 正院町 岡田 金川 (渡部, 2010c). 大谷 (野村, 2016). 輪島市：舳倉島 (石川県, 1998). 能登町：(内浦町) 駒渡 松波川 (富樫, 1971). 天坂 (野村, 2016). 穴水町：上中 (石川県, 1998). 金沢市：若松 (石川県, 1998).

【調査結果】輪島市：9exs. (CKW), 三井町 洲衛, 25. VII. 2018, Lt, 筆者採集. 能登町：3exs. (CKW), 天坂, 25. VII. 2018, Lt, 筆者採集; 2exs. (CKW), 石井 町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集. 金沢市：1ex. (CHF), 小豆沢町 キゴ山, 20. VII. 2013, Lt, 福富宏和採集. 白山市：1ex. (CHF), 湊町 手取川左岸, 23. VII. 2018, Lt, 福富宏和採集.

7. ヨコモミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp

【文献記録】小松市：荒木田町 梯川 (富沢, 2012).

【調査結果】能登町：3exs. (CKW), 石井 町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集. 小松市：5exs. (CKW), 佐々木町 梯川, 7. V. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 古府町 梯川, 19. VII. 2018, 筆者採集.

【備考】能登町石井 町野川で採集された 1 頭は長翅型, その他の個体は全て無翅型であった.

8. クロサワドロムシ *Neorihelmis kurosawai* Nomura
 【文献記録】白山市：市ノ瀬（保科ほか，2003）.
 【調査結果】中能登町：1ex. (CKW)，久江原山分久江川 alt. 161.8 m, 12. VIII. 2018, 筆者採集. 白山市：1ex. (CKW)，桑島 百合谷, 1. VIII. 2015, 筆者採集；2exs. (CKW)，相滝町 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集；1ex. (CNI)，白峰 三ツ谷川, 7. VI. 2016, 稲畑憲昭採集；2exs. (CNI)，白峰 風嵐谷川, 7. VI. 2016, 稲畑憲昭採集. 小松市：1ex. (CKW)，新保町 大日川, 4. VII. 2015, 筆者採集；2exs. (CKW)，丸山町 大日川 alt. 440 m, 24. VI. 2018, 佐藤卓也採集.
9. セマルヒメドロムシ *Orientelmis parvula* (Nomura)
 【文献記録】なし.
 【調査結果】能登町：2exs. (CKW)，石井 町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集. 小松市：1ex. (CKW)，岩上町 西俣川 alt. 80 m, 10. VI. 2018, 佐藤卓也採集；1ex. (CKW)，古府町 梯川, 19. VII. 2018, 筆者採集 (Fig. 1).
 【備考】石川県初記録. 2水系3河川より確認された. 全ての確認地点において個体数は少なかったが広く分布している可能性がある.
10. スネグロマルヒメドロムシ *Optioservus occidentis* Kamite
 【文献記録】白山市：蛇谷 (Kamite, 2015).
 【調査結果】白山市：1ex. (CKW)，白峰 風嵐谷川 alt. 567.8 m, 7. VI. 2016, 筆者採集；1ex. (CNI)，同所, 7. VI. 2016, 稲畑憲昭採集.
11. タテスジマルヒメドロムシ *Optioservus ogatai* Kamite
 【文献記録】白山市：白峰 三ツ谷川 (渡部・稲畑, 2016).
 【調査結果】白山市：16exs. (CKW)，白峰 湯の谷川支流 alt. 1,310 m, 1. VII. 2016, 筆者採集；15exs. (CKW)，尾添 小谷 alt. 725.7 m, 1. X. 2015, 筆者採集.
12. コマルヒメドロムシ *Optioservus yoshitomii* Kamite
 【文献記録】なし.
 【調査結果】中能登町：1ex. (CKW)，久江原山分久江川 alt. 161.8 m, 1. X. 2015, 筆者採集；5exs. (CKW)，同所, 12. VIII. 2018, 筆者採集 (Fig. 2). 白山市：1ex. (CKW)，相滝町 堂川 alt. 197 m, 15. IV. 2016, 筆者採集；2exs. (CKW)，野地町 野地川 alt. 274 m, 31. V. 2016, 筆者採集.
 【備考】石川県初記録. 従来セアカヒメドロムシ

シ *Optioservus maculatus* として扱われてきた個体の一部が新種として記載された (Kamite, 2015). 林 (1976) は金沢市湯涌よりセアカヒメドロムシを記録しているが, Kamite (2015) が示す分布図を見る限りでは石川県にセアカヒメドロムシが分布する可能性は低いと考えられることから, この記録は本種を指す可能性がある. しかし, 標本を確認することができなかったため文献記録として採用しなかった.

13. ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura

【文献記録】珠洲市：正院町岡田 金川, 若山町白滝 若山川, 若山町向 若山川 (渡部, 2010c). 輪島市：町野町寺山 鈴屋川 (渡部, 2010c). 能登町：(内浦町) 駒渡 松波川 (富樫, 1971). 曾又 神野川 (渡部, 2010c). 金沢市：湯涌 (林, 1976).

【調査結果】中能登町：2exs. (CKW)，久江原山分久江川 alt. 161.8 m, 1. X. 2015, 筆者採集. 白山市：9exs. (CKW)，白峰 大道谷川, 24. VI. 2015, 筆者採集；1ex. (CKW)，左礪町 大日川, 15. VII. 2015, 筆者採集；3exs. (CKW)，相滝町 堂川, 15. IV. 2016, 筆者採集；3exs. (CKW)，白峰 風嵐谷川, 7. VI. 2016, 筆者採集；1ex. (CKW)，相滝町 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 金沢市：2exs. (CKW)，大額町 碓川支流, 18. III. 2016, 筆者採集. 小松市：2exs. (CKW)，新保町 大日川, 4. VII. 2015, 筆者採集；7exs. (CKW)，大杉町 大杉谷川支流 alt. 170m, 14. XI. 2016, 筆者採集；3exs. (CNI)，同所, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集；2exs. (CKW)，新保町 大日川支流 alt. 619 m, 13. XI. 2016, 筆者採集；6exs. (CKW)，小原町 綿谷 綿谷橋上流, 13. XI. 2016, 筆者採集；2exs. (CNI)，同所, 13. XI. 2016, 稲畑憲昭採集；2exs. (CKW)，新保町 大日川 alt. 659 m, 13. XI. 2016, 筆者採集；2exs. (CNI)，同所, 13. XI. 2016, 稲畑憲昭採集；1ex. (CKW)，岩上町 西俣川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 加賀市：6exs. (CNI)，山中温泉市谷町 大聖寺川支流 alt. 200 m, 20. VIII. 2018, 稲畑憲昭採集.

【備考】ヨツモンヒメドロムシ *Optioservus rugulosus* として報告された富樫 (1971) および林 (1976) は本種の記録として採用した. 渡部 (2010c) で *Optioservus* sp. としていた記録は全て本種のものであるので, 文献記録として掲載した.

14. ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* Nomura

【文献記録】珠洲市：宝立町柏原 (野村, 2016). 輪島市：三井町小泉 (野村, 2016). 能登町：字北河内 町野川 (渡部, 2010a). 当目 (野村, 2016).

【調査結果】能登町：2幼虫, (CKW)，北河内 河

内川, 28. VIII. 2016, 筆者採集; 1ex. (CYY), 同所, 28. VIII. 2016, 吉村優杏採集; 2幼虫, 8exs. (CKW), 石井町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集. 金沢市: 1幼虫, (CKW), 大額町 碓川支流, 18. III. 2016, 筆者採集; 1幼虫, (CKW), 河原市町 森下川, 3. IV. 2016, 筆者採集.

15. キベリナガアシドロムシ *Grouvellinus marginatus* (Kôno)

【文献記録】珠洲市: 東山中町 紀の川 (渡部, 2010b). 若山町白滝 若山川 (渡部, 2010c). 能登町: 桐畑 町野川, 字中斉 町野川 (渡部, 2010b). 字北河内 町野川 (渡部, 2010c). 金沢市: 犀川 (Jeng and Yang, 1998).

【調査結果】能登町: 1ex. (CKW), 石井 町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集. 白山市: 10exs. (CKW), 相滝町 堂川, 15. IV. 2016, 筆者採集; 5exs. (CKW), 若原町ハ 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 小松市: 2exs. (CKW), 古府町 梯川, 7. V. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 軽海町 梯川, 20. VIII. 2016, 筆者採集; 6exs. (CKW), 岩上町 西俣川, 16. VII. 2018, 筆者採集.

【備考】渡部 (2010b) において石川県初記録として報告したが, Jeng and Yang (1998) の検視標本として石川県の個体が使用されていたため, 渡部 (2010b) は2例目の記録であった.

16. ツヤナガアシドロムシ *Grouvellinus nitidus* Nomura

【文献記録】珠洲市: 若山町白滝 若山川 (渡部, 2011).

【調査結果】中能登町: 1ex. (CKW), 久江原山分久江川 alt. 161.8 m, 1. X. 2015, 筆者採集. 白山市: 2exs. (CKW), 白峰 大道谷川, 24. VI. 2015, 筆者採集; 5exs. (CKW), 野地町 野地川, 31. V. 2016, 筆者採集; 7exs. (CKW), 別宮町 大日川, 20. IV. 2016, 筆者採集; 4exs. (CKW), 白峰 三ツ谷川, 7. VI. 2016, 筆者採集; 3exs. (CNI), 同所, 7. VI. 2016, 稲畑憲昭採集; 13exs. (CKW), 白峰 風嵐谷川, 7. VI. 2016, 筆者採集; 8exs. (CNI), 同所, 7. VI. 2016, 稲畑憲昭採集. 小松市: 2exs. (CKW), 新保町 大日川, 4. VII. 2015, 筆者採集; 1ex. (CKW), 小原町 綿谷 綿谷橋上流, 13. XI. 2016, 筆者採集; 2exs. (CKW), 大杉町 大杉谷川支流 alt. 170m, 14. XI. 2016, 筆者採集; 2exs. (CNI), 同所, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集. 加賀市: 133exs. (CNI), 山中温泉市谷町 大聖寺川支流 alt. 200 m, 20. VIII. 2018, 稲畑憲昭採集.

17. ツブスジドロムシ *Paramacronychus granulatus* Nomura

【文献記録】金沢市: 竹又町 細流, 大額町 碓川支流 (渡部・稲畑, 2016). 白山市: 河内町吉岡 細流, 五十谷町 堂川支流, 白峰 風嵐谷川, 瀬波 正直谷 (渡部・稲畑, 2016).

【調査結果】白山市: 1ex. (CKW), 相滝町 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 小松市: 1ex. (CKW), 大杉町 大杉谷川支流 alt. 170 m, 14. XI. 2016, 筆者採集; 3exs. (CNI), 同所, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集; 2exs. (CKW), 大杉町 大杉谷川 alt. 270 m, 14. XI. 2016, 筆者採集; 3exs. (CNI), 同所, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集; 2exs. (CNI), 大杉町 大杉谷川 alt. 545 m, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集; 1ex. (CKW), 新保町 大日川支流 alt. 619 m, 13. XI. 2016, 筆者採集; 1ex. (CNI), 同所, 13. XI. 2016, 稲畑憲昭採集; 1ex. (CNI), 新保町 大日川支流 alt. 660 m, 13. XI. 2016, 稲畑憲昭採集; 1ex. (CKW), 小原町 綿谷 綿谷橋上流, 13. XI. 2016, 筆者採集.

18. ホソヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria gotoi* (Nomura)

【文献記録】珠洲市: 正院町岡田 金川 (渡部, 2010c). 能登町: 字石井 町野川, 曾又 神野川 (渡部, 2010c). 金沢市: 湯涌 (林, 1976).

【調査結果】能登町: 1ex. (CKW), 石井 町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集. 金沢市: 1ex. (CKW), 大額町 碓川支流, 18. III. 2016, 筆者採集. 白山市: 1ex. (CKW), 野地町 野地川, 31. V. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 相滝町 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 小松市: 1ex. (CKW), 光陽町 梯川, 7. V. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 小原町 綿谷 綿谷橋上流, 13. XI. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 大杉町 大杉谷川支流 alt. 170m, 14. XI. 2016, 筆者採集; 4exs. (CKW), 岩上町 西俣川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 加賀市: 12exs. (CNI), 山中温泉市谷町 大聖寺川支流 alt. 200 m, 20. VIII. 2018, 稲畑憲昭採集.

19. マルヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria ovata* (Nomura)

【文献記録】珠洲市: 東山中町 紀の川, 正院町岡田 金川, 若山町白滝 若山川, 若山町向若山川 (渡部, 2010c). 輪島市: 町野町寺山 鈴屋川 (渡部, 2010c). 能登町: 曾又 神野川, 字北河内 町野川 (渡部, 2010c). 金沢市: 湯涌 (林, 1976).

【調査結果】中能登町: 2exs. (CKW), 久江原山分久江川 alt. 161.8 m, 1. X. 2015, 筆者採集; 2exs. (CKW), 同所, 12. VIII. 2018, 筆者採集. 金沢市: 6exs. (CKW), 竹又町 細流, 4. III. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 大額町 碓川支流, 18. III. 2016, 筆者採集. 白山市:

5exs. (CKW), 鶴来日吉町 細流, 7. V. 2015, 筆者採集; 5exs. (CKW), 河内町吉岡 細流, 23. III. 2016, 筆者採集; 6exs. (CKW), 五十谷町 堂川支流, 20. IV. 2016, 筆者採集; 2exs. (CKW), 五十谷町 堂川, 20. IV. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 白峰 風嵐谷川, 7. VI. 2016, 筆者採集; 5exs. (CKW), 野地町 野地川, 31. V. 2016, 筆者採集; 3exs. (CKW), 白峰 三ツ谷川, 7. VI. 2016, 筆者採集; 3exs. (CKW), 瀬波 正直谷, 5. VII. 2016, 筆者採集; 2exs. (CKW), 相滝町 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 能美市: 1ex. (CKW), 金剛寺町 館谷川, 18. II. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 和佐谷町 手取川, 1. VI. 2018, 筆者採集. 小松市: 9exs. (CKW), 大杉町 大杉谷川支流 alt. 170m, 14. XI. 2016, 筆者採集; 19exs. (CNI), 同所, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集; 2exs. (CNI), 大杉町 大杉谷川 alt. 270m, 14. XI. 2016, 稲畑憲昭採集; 1ex. (CKW), 新保町 大日川支流 alt. 619 m, 13. XI. 2016, 筆者採集; 4exs. (CKW), 新保町 大日川 alt. 659m, 13. XI. 2016, 筆者採集; 4exs. (CNI), 同所, 13. XI. 2016, 稲畑憲昭採集; 1ex. (CKW), 大杉町 大杉谷川 alt. 545m, 14. XI. 2016, 筆者採集; 6exs. (CKW), 小原町 綿谷 綿谷橋上流, 13. XI. 2016, 筆者採集; 7exs. (CNI), 同所, 13. XI. 2016, 稲畑憲昭採集. 加賀市: 1ex. (CNI), 山中温泉市谷町 大聖寺川支流 alt. 200 m, 20. VIII. 2018, 稲畑憲昭採集.

【備考】Hayashi & Yoshitomi (2015) により, 本種に類似するサンインヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria sotai* が中国地方の日本海側で記載されたことから, 今回採集した個体および筆者が過去に記録した個体について雄交尾器を確認したところ, 全て本種と同定された.

20. ヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria brevis* (Nomura)

【文献記録】珠洲市: 宝立町馬渡 (渡部, 2010c). 能登町: 曾又 神野川 (渡部, 2010b).

【調査結果】能登町: 2exs. (CKW), 石井 町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集. 小松市: 1ex. (CKW), 光陽町 梯川, 7. V. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 軽海町 梯川, 20. VIII. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 岩上町 西俣川, 16. VII. 2018, 筆者採集.

21. アワツヤドロムシ *Zaitzevia awana* (Kôno)

【文献記録】珠洲市: 宝立町馬渡, 東山中町 紀の川, 正院町岡田 金川, 若山町向 若山川 (渡部, 2010c). 能登町: 桐畑 町野川, 曾又 神野川, 字石井 町野川 (渡部, 2010c). 中能登町: 西馬場眉丈山地 (川瀬, 2014). 金沢市: 湯涌 (林, 1976). 若松 (石川県, 1998). キゴ山 (alt. 370 m) (樋口, 2014).

【調査結果】輪島市: 6exs. (CKW), 三井町洲衛, 5. VIII. 2015, Lt, 筆者採集. 能登町: 9exs. (CKW), 天坂, 5. VIII. 2015, Lt, 筆者採集; 6exs. (CKW), 石井 町野川, 26. VII. 2018, 筆者採集. 金沢市: 10exs. (CHF), 小豆沢町 キゴ山, 20. VII. 2013, Lt, 福富宏和採集; 1ex. (CKW), 竹又町 細流, 4. III. 2016, 筆者採集; 3exs. (CKW), 大額町 碓川支流, 18. III. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 大桑町 犀川, 2. V. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 小菱池町, 30. VI. 2016, Lt, 筆者採集. 白山市: 2exs. (CKW), 相滝町 堂川, 15. IV. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 若原町ハ 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 小松市: 3exs. (CKW), 光陽町 梯川, 7. V. 2016, 筆者採集; 4exs. (CKW), 佐々木町 梯川, 7. V. 2016, 筆者採集; 3exs. (CKW), 軽海町 梯川, 20. VIII. 2016, 筆者採集; 1ex. (CKW), 岩上町 西俣川, 16. VII. 2018, 筆者採集; 2exs. (CKW), 岩上町 西俣川 alt. 80 m, 10. VI. 2018, 佐藤卓也採集.

22. ツヤドロムシ *Zaitzevia nitida* Nomura

【文献記録】輪島市: 門前町白禿 (吉道, 2009).

【調査結果】白山市: 1ex. (CKW), 白峰 大道谷川, 24. VI. 2015, 筆者採集; 2exs. (CKW), 桑島 大嵐山登山道入口前, 1. VIII. 2015, Lt, 筆者採集; 3exs. (CKW), 白峰 三ツ谷川, 7. VI. 2016, 筆者採集. 能美市: 1ex. (CKW), 和佐谷町 手取川, 1. VI. 2018, 筆者採集.

【備考】吉道 (2009) ではツヤヒメドロムシとして記録されているが, 吉道 (2010) において本種であることが記されている.

23. ミゾツヤドロムシ *Zaitzevia rivalis* Nomura

【文献記録】珠洲市: 若山町白滝 若山川, 若山町向 若山川 (渡部, 2010c). 輪島市: 町野町寺山 鈴屋川 (渡部, 2010b). 能登町: 桐畑 町野川, 曾又 神野川 (渡部, 2010b). 字北河内 町野川 (渡部, 2010c). 白山市: 瀬波 (alt. 490 m) (樋口, 2014).

【調査結果】中能登町: 11exs. (CKW), 久江原山分久江川 alt. 161.8 m, 1. X. 2015, 筆者採集. 金沢市: 2exs. (CKW), 大額町 碓川支流, 18. III. 2016, 筆者採集. 白山市: 6exs. (CKW), 白峰 大道谷川, 24. VI. 2015, 筆者採集; 3exs. (CKW), 左礪町 大日川, 15. VII. 2015, 筆者採集; 6exs. (CKW), 相滝町 堂川, 15. IV. 2016, 筆者採集; 9exs. (CKW), 白峰 風嵐谷川, 7. VI. 2016, 筆者採集; 11exs. (CKW), 野地町 野地川, 31. V. 2016, 筆者採集; 5exs. (CKW), 相滝町 大日川, 16. VII. 2018, 筆者採集. 小松市: 11exs. (CKW), 新保町 大日川, 4. VII. 2015, 筆者採集; 1ex. (CKW), 小原町 綿谷 綿谷橋上流, 13. XI. 2016, 筆者

採集；2exs. (CKW)，大杉町 大杉谷川 alt. 270m, 14. XI. 2016, 筆者採集；1ex. (CKW)，大杉町 大杉谷川 alt. 545 m, 14. XI. 2016, 筆者採集；2exs. (CKW)，大杉町 大杉谷川支流 alt. 170 m, 14. XI. 2016, 筆者採集；5exs. (CKW)，新保町 大日川支流 alt. 619m, 13. XI. 2016, 筆者採集；1ex. (CNI)，同所, 13. XI. 2016, 稲畑憲昭採集；3exs. (CKW)，岩上町 西俣川, 16. VII. 2018, 筆者採集；2exs. (CNI)，新保町 大日川支流 alt. 660 m, 13. XI. 2016, 稲畑憲昭採集。加賀市：39exs. (CNI)，山中温泉市谷町 大聖寺川支流 alt. 200 m, 20. VIII. 2018, 稲畑憲昭採集。

謝辞

日本甲虫学会の稲畑憲昭氏にはナガアシドロムシ属の同定結果をご確認いただいた。稲畑氏，石川むしの会の佐藤卓也氏，石川県ふれあい昆虫館の福富宏和氏，名古屋昆虫同好会の吉村優杏氏には採集データをご提供いただいた。名古屋市衛生研究所の上手雄貴博士には文献をご恵与いただいた。石川むしの会には灯火採集の機会を与えていただいた。これらの方々に対し，厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 林 靖彦, 1976. 石川県産甲虫類雑記 (1). とっくりばち, (34-35): 6-7.
- Hayashi, M. & H. Yoshitomi, 2015. Endophallic structure of the genus *Zaitzeviaria* Nomura (Coleoptera, Elmidae, Elminae), with review of Japanese species. *Elytra*, Tokyo, New Series, 5(1): 67-96.
- 樋口陽平, 2013. 石川県およびその周辺における水生昆虫の採集記録 第5報. とっくりばち, (81): 50-51.
- 樋口陽平, 2014. 石川県およびその周辺における水生昆虫の採集記録 第6報. とっくりばち, (82): 50-51.
- 保科英人・佐々治寛之・高橋直樹・牛嶋啓明, 2003. 2002年石川県白山系で採集された甲虫類 付 オオキノコムシ科昆虫の1新種の記載. 福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」, (10): 15-39.

- 稲畑憲昭, 2016. 京都府のヒメドロムシ, *Insect* 丹後・丹波, (130): 2-18.
- 石川県, 1998. 石川の自然環境シリーズ 石川県の昆虫. 537pp. 石川県環境安全全部自然保護課.
- 石川県, 2009. 改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物いしかわレッドデータブック〈動物編〉2009. 446pp. 石川県環境部自然保護課.
- Jeng, M. -L. and Yang, P. -S., 1998. Taxonomic review of the genus *Grouvellinus* Champion (Coleoptera: Elmidae) from Taiwan and Japan. *Proc. Entomol. Soc. Wash.*, 100: 526-544.
- Kamite, Y., 2015. Revision of the genus *Optioservus* Sanderson, 1953, part 2: The *O. maculatus* species group (Coleoptera: Elmidae). *Koleopterologische Rundschau*, 85: 197-238.
- 上手雄貴・中島 淳・林 成多・吉富博之, 2018. 日本産ヒメドロムシ科の目録と分類学的な問題点. さやばねニューシリーズ, (29): 6-12.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2018. 環境省レッドリスト2018の公表について. (2018年8月7日参照) <https://www.env.go.jp/press/105504.html>
- 川瀬英夫, 2014. 中能登町でムナビロツヤドロムシとアワツヤドロムシを採集. とっくりばち, (82): 44.
- 野村進也, 2016. 近年の石川県内における水生昆虫の記録. とっくりばち, (84): 47-50.
- 富樫一, 1971. 能登半島松波川の夏の水生昆虫相. とっくりばち, (16): 1-2.
- 富沢 章, 2012. ヨコモジドロムシの石川県からの記録. とっくりばち, (80): 20.
- 渡部晃平, 2010a. 石川県におけるケスジドロムシの初確認. 甲虫ニュース, (171): 4.
- 渡部晃平, 2010b. 石川県未記録の水生甲虫7種の採集記録. 甲虫ニュース, (171): 9-10.
- 渡部晃平, 2010c. 奥能登のドロムシ・ヒメドロムシ その1. とっくりばち, (78): 38-40.
- 渡部晃平, 2011. 石川県におけるツヤナガアシドロムシの初記録. さやばねニューシリーズ, (2): 39.
- 渡部晃平・稲畑憲昭, 2016. 石川県におけるヒメドロムシ科3種の初記録. さやばねニューシリーズ, (23): 44.
- 吉道俊一, 2009. 石川県産甲虫類に関する記録・報告 I, とっくりばち, (77): 39-51.
- 吉道俊一, 2010. ツヤドロムシ *Zaitzevia nitida* Nomura に関する記録の訂正. とっくりばち, (78): 69.
- 吉富博之・白金晶子・疋田直之, 1999. 矢作川水系のヒメドロムシ. 矢作川研究, (3): 95-116.

(2018年8月27日受領, 2018年9月10日受理)

【短報】茨城県におけるクナシリシジミガムシの記録

クナシリシジミガムシ *Laccobius kunashiricus* はガムシ科シジミガムシ属の種である (図1). 本種は体長2.8-3.3 mm であり, 我が国では北海道と本州に分布する (上手, 2007). 筆者は未記録の茨城県において本種を採集したため, ここに報告する. なお, 同定は上手 (2007) に従い, 雄交尾器の確認により行なった (図2). 同定した結果, 採集した雄個体が全て本種であったため, 同時に採集した雌個体も本種と同定した. 標本は全て筆者が採集, 保管している.

1♀, 茨城県石岡市, 29. IX. 2016.

1箇所目の採集地は, ガマ *Typha latifolia* やセリ *Oenanthe javanica* が優占する水深の浅い湧水湿地である. 水生植物の根際をタモ網で掬い取ったところ, 本種が得られた. なお, 採集した1個体以外にも同種他個体が多数確認された.

1♀, 茨城県石岡市, 8. VI. 2017; 1♂, 同所, 22. VI. 2017; 1♂1♀, 同所, 17. VII. 2017.

2箇所目の採集地は, 湧水湿地の北側に位置する水田である. 湧水湿地に比べ, 水田では本種の個体数は少なかった.

茨城県において記録のあるシジミガムシ属 *Laccobius* は, シジミガムシ *L. bedeli*, ヒメシジミ

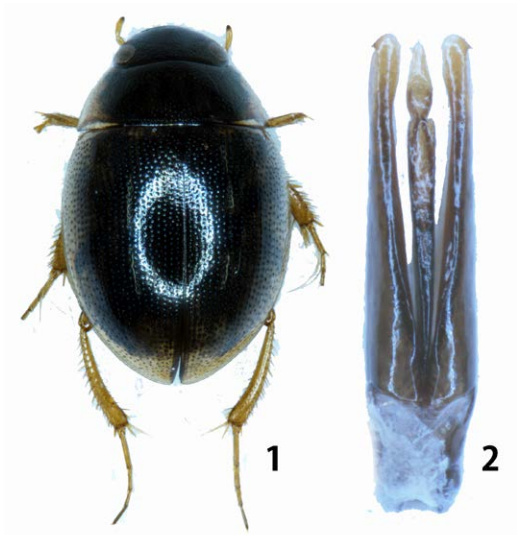


図1-2. 茨城県産クナシリジミガムシ雄個体 (1) および雄交尾器 (2)。

ガムシ *L. fragilis*, コモンシジミガムシ *L. oscillans*, コマルシジミガムシ *L. masatakai* の4種である (高野・大桃, 2000; 高野・大桃, 2008)。シジミガムシとクナシリジミガムシは外部形態が類似しているため (上手, 2007), これまでシジミガムシとして記録されていた標本の中にクナシリジミガムシも混在している可能性がある。茨城県における本属の正確な分布状況を明らかにするためには, 県内のシジミガムシ属の標本を見直す必要があるだろう。

末筆ではあるが, 茨城県におけるシジミガムシ属の記録について教えてくださった大桃定洋博士, 原稿をご校閲いただいた筑波大生命環境系の横井智之助教には厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 上手雄貴, 2007. 日本産シジミガムシ属. 昆虫と自然, 42(2): 12-16.
 高野 勉・大桃定洋, 2000. 茨城県産甲虫リスト. るりぼし, (23): 2-155.
 高野 勉・大桃定洋, 2008. 茨城県産甲虫リスト補遺 (2). るりぼし, (36): 18-37.

(渡辺黎也 305-8572 つくば市天王台 1-1-1
 筑波大学保全生態学研究室)
 (e-mail: biolfc14.cb@gmail.com)

【短報】岡山県におけるアヤスジミゾドロムシの採集記録

アヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura) は全国的に記録の少ないヒメドロムシのひとつで, 環境省のレッドリスト2018では絶滅危惧IB類 (EN) に選定されている (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2018)。吉富ほか (1999) によると, 山形・宮城・新潟・東京・愛知・兵庫の各県からの記録があるが, 近年の記録は愛知県の矢作川に限られていると書かれている。その後, 愛知県では矢作川水系のいくつかの河川で記録が追加され (市川, 2013), 島根県の斐伊川 (Hayashi, 2007) と神戸川の支流 (林ほか, 2011), 新潟県中越地区の信濃川水系の数か所 (Iwata, 2011; 岩田ほか, 2012) でも得られ, 生態的な知見も徐々に集約されてきている。

岡山県内においては, 河川環境データベース河川水辺の国勢調査 (国土交通省, 2018) で旭川水系において種名が記録されているのみで, 詳細なデータを伴った記録がない。

この度, 筆者らは以前から時々採集に訪れていた旭川周辺を調査していたところ, 脇流に沈んでいた流木より本種を確認したので報告する。

42exs., 岡山市中区 旭川水系, 4. VIII. 2018, 末長晴輝・山地治採集・保管 (図1)。

流れのある浅い水中に落ちていた数本のヤナギ



図1. 岡山県産アヤスジミゾドロムシ (末長撮影)。



図2. アヤスジミゾドロムシの生息環境（末長撮影，写真一部加工）。



図3. 流木にしがみついたアヤスジミゾドロムシ（山地撮影）。

類と思われる流木（大半は直径10 cm × 長さ1.5 mほど）やタケ類の枯れ枝の表面から採集した（図2, 3）。本種は他のヒメドロムシに比べ脚のツメが大きく先端も鋭いようで、止まっている場所から取ろうとするとかなりの力でしがみつきます、容易には剥がれなかった。また、同所的にヨコモゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp やイブシアシナガドロムシ *Stenelmis nipponica* Nomura, アシナガミゾドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura も得られたが、当該の場所はアヤスジミゾドロムシが圧倒的に多かった。多数が確認されたことから生息地である可能性も考えられ、瀬戸内海側唯一の近年の確認事例としても注目される。

今回の調査では1か所でしか得られなかったことと、容易にアクセスできる場所であることを勘案し、本報告では詳細な場所名は伏せることとした。しかしながら、岡山県下の三大河川（高梁川・旭川・吉井川）の中～下流域には同様な環境が豊富にあり、他に本種が生息している場所がある可能性は高いと思われるので、今後さらなる調査を実施したい。

末筆ながら、アヤスジミゾドロムシの採集方法

についてヒントを下さった北海道大学大学院の小川直記氏と富山市科学博物館の岩田朋文氏、本報の校閲をして下さった文化財虫菌害研究所の岩田泰幸氏と石川県ふれあい昆虫館の渡部晃平氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- Hayashi, M., 2007. Ecological notes on the adult stage of *Graphelmis shirahatai* (Nomura) (Coleoptera, Elmidae). Elytra, Tokyo, 35: 102-107.
- 林 成多・辻井要介・中野浩史・山口勝秀・越川敏樹, 2011. 島根県出雲市の河川に生息する水生生物. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (3): 1-108.
- 市川靖浩, 2013. 愛知県のアヤスジミゾドロムシについて. 三河生物, (5): 55-58.
- Iwata, Y., 2011. Ecological notes on *Graphelmis shirahatai* (Nomura) (Coleoptera, Elmidae) and its Habitat in Niigata Prefecture, Honshu, Japan. Elytra, Tokyo, n. s., 1(1): 73-79.
- 岩田泰幸・渡貫修太郎・渡貫さとみ, 2012. 新潟県中越地区のアヤスジミゾドロムシ. 月刊むし, (497): 31-35.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2018. 環境省レッドリスト 2018 の公表について. URL <https://www.env.go.jp/press/105504.html> (2018年9月4日アクセス)
- 国土交通省, 2018. 河川環境データベース 河川水辺の国勢調査. URL <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/index.html> (2018年8月29日アクセス)
- 吉富博之・白金晶子・疋田直之, 1999. 矢作川水系のヒメドロムシ. 矢作川研究, (3): 95-116.

（末長晴輝 710-0807 倉敷市西阿知町 833-8
サンシャイン A205 号室）

（山地 治 701-1221 岡山市北区芳賀 5116-11）

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針 00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他、採集、製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒142-0051

東京都品川区平塚2丁目5番8号

郵便振替 00130-4-21129

電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3784-6464

（カタログ贈呈）（株）志賀昆虫普及社

【短報】ケブカヒメヒラタホソカタムシを長崎県(対馬)と奈良県から記録

ケブカヒメヒラタホソカタムシ *Synchita hirsuta* Aoki, 2008 の原産地は徳之島天城山 (Aoki, 2008) で、ついで奄美大島金作原と加計呂麻島で見つかり、その時点では奄美群島のみでの分布であった。その後さらに沖縄島国頭村で見つかったが (青木, 2009a, b, 2012), 現在までそれ以外での報告は見受けられない (青木, 2017)。今回、既知の分布地から大きくかけ離れた九州 (対馬) と本州 (奈良県) から発見されたので、新しい本種の分布地の記録として報告する。

1 ex., 鹿身林道, 対馬, 長崎県, 20-VII-2018, 伊藤建夫採集。1 ex., 春日山, 奈良公園, 奈良県, 12-V-2018, 伊藤建夫採集。2 exs., 春日山, 奈良公園, 奈良県, 11-VII-2018, 伊藤建夫採集。

検視標本はいずれも広葉樹の立ち枯れから採取され、なお対馬の個体はテネラルと思われる赤褐色を呈していた。

これまでの本種の分布を伊藤 (2017) が発表したユミセスジホソカタムシ *Lasconotus sculpturatus* (Sharp, 1885) の分布とともに地図上にプロットしてみると (図3), いくつかの興味ある点を指摘することができる。すなわち両種の分布は、現存する比較的保存された照葉樹林帯の分布に一致し、奈良公園, 対馬, 奄美大島の3地点については両種が同所的に発見されている。このことから両種とも本土側 (現分布の北限もしくは東限側) で更なる分布地が発見される可能性があることが示唆される。

本種の写真での同定と既知産地と新産地の記録に意見をいただき発表を勧めて頂いたうえ、原稿を見て頂いた青木淳一博士に深謝する。

末尾になるが、奈良公園の調査は奈良公園事務



図1-2. ケブカヒメヒラタホソカタムシの全形図 (1, 奈良県産; 2, 対馬産)。



図3. 分布図。●: ケブカヒメヒラタホソカタムシ; △: ユミセスジホソカタムシ。

所からの学術調査入山許可のもとに行われたものであることを付記しておく。

引用文献

- Aoki, J., 2008. A new species of Colydiinae (Coleoptera, Zopheridae) from Tokunoshima Island, Southwestern Japan. *Elytra Tokyo*, 36: 275-278.
- 青木淳一, 2009a. 図鑑に載っていない日本産ホソカタムシ. *神奈川虫報*, (165): 1-15.
- 青木淳一, 2009b. *ホソカタムシの誘惑*. 194 pp. 東海大学出版会.
- 青木淳一, 2012. *日本産ホソカタムシ類図説*. 92 pp. 昆虫文献六本脚.
- 青木淳一, 2017. いわゆるホソカタムシ類の所属変更と新しい種リスト. *さやばねニューシリーズ*, (28): 1-9.
- 伊藤建夫, 2017. ユミセスジホソカタムシの奈良県からの記録. *さやばねニューシリーズ*, (27): 35.

(伊藤建夫 614-8371 八幡市男山雄徳 7,E12-102)

【短報】大東諸島におけるゴミムシダマシ科4種の記録

大東諸島は、珊瑚礁の隆起によって形成された島々で、沖縄本島から約 340 km 東に位置する。同諸島には、戦前に台湾から導入されたオオヒキガエル *Bufo marinus* や 1970 年代に宮古島から導入されたミヤコヒキガエル *Bufo gargarizans miyakonis* が高密度で生息しており、地表性昆虫にとって非常に大きな脅威となっている（草野，2002；当山，2002）。そのことから、同諸島固有種のダイトウスナゴミムシダマシの生息状況も憂慮されている（秋田・益本，2016）。筆者の一人松島は 2018 年 3 月初旬に北大東島および南大東島において、本種を含むゴミムシダマシ科 4 種を採集したのでここに記録する。なお、採集は全て松島が行い、標本は全て秋田が保管している。

アマミホソゴミムシダマシ *Corticeus maehleri amamiensis* (Kaszab)

1ex., 南大東村池之沢, 6. III. 2018.

ダイトウスナゴミムシダマシ *Gonocephalum aokii* Akita et Masumoto



図1.ダイトウスナゴミムシダマシ（左：♂；右：♀，スケールバーは5 mm）。



図2.ダイトウスナゴミムシダマシの♂交尾器（左：背面；右：側面）。

19exs., 北大東村中野, 3～4. III. 2018; 3exs., 北大東村港, 3～4. III. 2018

オオツヤホソゴミムシダマシ *Menephilus arciscelis* Marseul

1♂, 北大東村南, 3. III. 2018.

マルセルエグリゴミムシダマシ大東諸島亜種 *Uloma marseuli fujitai* Masumoto

9exs., 南大東村旧東, 5. III. 2018; 7exs., 北大東村南, 3. III. 2018.

なお、アマミホソゴミムシダマシは北大東島における記録はあるが（秋田・益本，2016）、南大東島の記録はこれが初めてである。また、ダイトウスナゴミムシダマシのこれまでの記録は、2008年に北大東島の西港で採集されたホロタイプの雌 1 個体のみであった（Akita & Masumoto, 2013）。本種は、日中に隣接したがれ場や西港の燐鉱石貯蔵庫付近のいずれも日当たりの良い石下から採集された。土壌は、乾燥したサンゴ礁由来と思われる白色の砂地に大小様々な礫が転がっているような環境であった。1つの石下に 5～6 個体が発見されることもあり、個体数は少ないものではない。また、夜間、西港でコンクリート壁面を歩く個体も確認した。砂浜でも探したが、本種を発見することはできなかった。南大東島においても同様の環境で本種を探したが、見つめることはできなかった。今回採集した標本の多くは、付属肢が欠損したり、背面の毛が少なくなっていたことから、新成虫は、他の同属種同様、晩夏から秋にかけて出現するものであろう。

末筆ではあるが、採集に協力してくださった下津克紀氏および大宮悠氏、標本写真を撮影して下さった栗原良輔氏、原稿をご校閲いただいた筑波大学生命環境系の横井智之助教にこの場を借りて厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Akita, K. & K. Masumoto, 2013. New or little-known tenebrionid species (Coleoptera) from Japan. (14) Six new species and three new subspecies from various areas in Japan. *Elytra*, new series, 3: 237-254.
- 秋田勝己・益本仁雄, 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 302 pp., 107 pls. むし社, 東京.
- 草野 保, 2002. オオヒキガエル. Pp. 105. 日本生態学会(編): 外来種ハンドブック. 408 pp. 地人書館, 東京.
- 当山昌直, 2002. ミヤコヒキガエル. Pp. 104. 日本生態学会(編): 外来種ハンドブック. 408 pp. 地人書館, 東京.

(松島良介 305-8572 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学保全生態学研究室)

(秋田勝己 514-1136 津市久居東鷹跡町 170-2)

【短報】石川県におけるダイコクアリヅカムシの記録

ハネカクシ科アリヅカムシ亜科オノヒゲアリヅカムシ上族 *Brachyglutini* 族 *Brachyglutina* 亜族に属するダイコクアリヅカムシ *Rybaxis princeps* (Sharp, 1874) (図1) は, Sharp (1874) によって *Bryaxis princeps* として長崎県から記載された後, Jeannel (1958) により, 岡山県の記録を加えて *Rybaxis* 属に移され, 現在に至っている。

その後, 日本産ハネカクシ科総目録 (柴田ほか, 2013) において, 本種の分布は本州, 四国, 九州とされており, 分布範囲が広い種であることが分かる。しかし, 筆者は 1990 年頃から石川県内各地でアリヅカムシの分布調査を行ってきたものの, これまで本種を採集できなかったほか, 筆者の知る限り, 本県近県では野村 (1994, 2002, 2016) による新潟県, 京都府および岐阜県の記録があるにすぎない。

このたび, 筆者は, 石川県白山市の石川県ふれあい昆虫館内生態園に設置した FIT で本種を採集したので, 以下のとおり報告する。



図1. ダイコクアリヅカムシ, ♀.



図2. 石川県ふれあい昆虫館内生態園の調査地 (石川県白山市八幡町)。

1♂1♀, 石川県白山市八幡町 (石川県ふれあい昆虫館内生態園 FIT), 22. V. – 9. VI. 2018, 筆者採集・保管。

なお, 本生態園は, 図2 のとおり斜面林の下部に位置し, 直径 1 m ほどの複数の大石が置かれた場所で, 平成 10 年の本昆虫館開館に合わせて造成・整備されたものである。

野村 (2018) は, 本種の生息環境について, 特定が困難で, 落葉広葉樹林の落ち葉の中から発見されることもあれば, 林道わきのススキの根際から見つかることもあり, 原生林のような一次的な自然環境よりもむしろ, 多少人手の入った二次的環境の方を好む傾向にあるとしており, 本報告と一致するものと考えられる。

最後に本報告を記すにあたり, 本生態園での調査を許可いただいた石川県ふれあい昆虫館, 本種の同定および平日頃ご指導をいただいている国立科学博物館の野村周平博士に感謝の意を表する。

引用文献

- Jeannel, R., 1958. Révision des Psélaphides du Japon. Mémoires du Museum National d'Histoire Naturelle, Paris. série A, Zoologie, 18: 1–138.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡部泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録. 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69–218.
- Sharp, D., 1874. The Pselaphidae and Scydmanidae of Japan. Transactions of the Entomological Society of London, 1874: 105–130.
- 野村周平・小池 寛, 1994. 新潟県産アリヅカムシ分布資料. 越佐昆虫同好会特別報告, (2): 123–137.
- 野村周平・水野弘造, 2002. 京都府で採集されたアリヅカムシ. ねじればね, (101): 1–15.
- 野村周平・亀澤 洋, 2016. 岐阜県のアリヅカムシ相に関する記録と考察. さやばねニューシリーズ, (21): 18–24.
- 野村周平, 2018. 東北地方の宮城県ならびに近隣諸県のアリヅカムシ相 (ハネカクシ科, アリヅカムシ亜科) に関する資料. さやばねニューシリーズ, (29): 35–42.

(中田勝之 921-8112 金沢市長坂 3-4-1)

◇学会の発行物・バックナンバーの販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒 102-0075 東京都千代田区三番町 24-3

三番町 MY ビル 3 階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>

【短報】与那国島におけるミナミツブゲンゴロウの初記録

ミナミツブゲンゴロウ *Laccophilus pulicarius* Sharp, 1882 (ゲンゴロウ科) は、ツブゲンゴロウ属に属する小型かつ美しい水生甲虫で、国内からは沖縄島、久米島、池間島、石垣島、西表島において確認されている(松井, 1990; 森・北山, 2002; 佐藤, 2003; 井上・渡部, 2018). 筆者らは、与那国島初記録となる本種を採集しているためここに報告する.

報告に先立ち、本種の分布記録についてご教示いただいた東海大学の北野忠教授、沖縄県 RDB 昆虫類分科会委員の青柳克氏に深謝申し上げる.

2exs., 沖縄県与那国町樽舞 樽舞湿原, 21. III. 2004, 中島採集・保管; 6exs., 同地, 17. VI. 2018, 渡部採集・石川県ふれあい昆虫館保管(図1); 1ex., 与那国町満田原, 23. VII. 2017, 加藤採集・保管; 6exs., 同地, 18. VI. 2018, 渡部採集・石川県ふれあい昆虫館保管.

本種が確認されたのは水量が豊富で水質が良好なため池と湿原であった. 筆者の一人渡部が調査した際には水生植物が浮き島状に繁茂した部分か



図1. 与那国島産ミナミツブゲンゴロウ.



図2. 生息環境(樽舞湿原).

ら集中的に確認され、加藤の調査では岸付近の堆積物中から採集された.

与那国島の水生甲虫においては、2010年以降にもキイロコガシラミズムシ *Haliphus eximius*, タイワンコガシラミズムシ *Haliphus regimbarti*, サザナミツブゲンゴロウ *Laccophilus flexuosus*, ナガチビゲンゴロウ *Limbodessus compactus* など複数種が新たに発見されており(Nakajima *et al.*, 2013; Noishiki, 2014; 稲畑, 2016; Iwata, 2016), 調査の余地が残されていることがうかがえる. 一方, 2014年の大干ばつ, 遷移の進行, 水田の圃場整備や農地転換などにより水辺環境は危機的状況にある. 渡部が2018年6月16~19日にかけて訪れた際には, 少なくとも島内2ヶ所の水田地帯において工事がなされており, 元水田であったところが赤土の陸地と化していた. 多くの水生甲虫の生息適地が縮小していることは明白であり, 早急な調査および保全対策が求められる.

引用文献

- 稲畑憲昭, 2016. 与那国島からのナガチビゲンゴロウの記録. 月刊むし, (548): 55-56.
- Iwata, Y., 2016. A new record of *Haliphus regimbarti* (Coleoptera: Haliphiidae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 22 (1): 99-100.
- 井上大輔・渡部晃平, 2018. 池間島におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (29): 55-56.
- 松井英司, 1990. 琉球列島で採集した水生甲虫類(1). 北九州の昆虫, 37 (2): 69-76, pl. 9-10.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.
- Nakajima, J., T. Yoshida, S. Sano, A. Noishiki & J. Indo, 2013. New records of *Haliphus (Liaphus) eximius* (Coleoptera, Haliphiidae) from Yonaguni-jima Is., Ryukyu Isls., Japan. Elytra, Tokyo, New Series, 3 (1): 23-24.
- Noishiki, A., 2014. New records of *Laccophilus flexuosus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Tanega-shima and Yonaguni-jima, Japan. Elytra, Tokyo, New Series, 4 (2): 248.
- 佐藤正孝, 2003. コウチュウ類(鞘翅目) Coleoptera. pp. 449-466, 西田 睦・鹿谷法一・諸喜田茂充編, 琉球列島の陸水生物. 東海大学出版会.

- (渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3番地
石川県ふれあい昆虫館)
(中島 淳 818-0135 太宰府市向佐野39
福岡県保健環境研究所)
(加藤雅也 901-2132 浦添市伊祖1丁目22-3
(株) 沖縄環境地域コンサルタント)

【短報】ツヤハダヒメゾウムシ（コウシュンラン科）に関する生態覚書

ゾウムシ科ヒメゾウムシ亜科に属するツヤハダヒメゾウムシ *Phrissoderes rufitarsis* (Roelofs, 1875) は、体長 3.3 ~ 3.9 mm で、日本（本州、四国、九州）と韓国に分布するとされる（吉原, 2016）。一方、Hong (2000) は調査標本と原記載の記述からは本種の韓国における分布を確認できなかったとしている。なお、旧北区産の本属には、本州および九州、沖縄島に分布するチビツヤハダヒメゾウムシ *Phrissoderes minor* Yoshihara, 2016 と中国福建省に分布する *Phrissoderes exsculptus* Voss, 1958 が知られているほか（Prena, 2011; 城戸, 2016; 吉原, 2016）、台湾に 1 未記載種が存在する（Morimoto, 1994）。

本種はこれまでにラン科のキンラン、コウシュンラン、サイハイラン、ミズチドリ、ショウキラン、キバナノショウキランから成虫が採集されている（Morimoto, 1994; 高野・大桃, 2005; 吉原, 2016）。なお、このうち“コウシュンラン”の記録は“Host plants: an orchid (Kohshunran in Japanese)”と記した

Morimoto (1994) によるものだが、これは“コウシュンラン”の誤記である。ツヤハダヒメゾウムシ成虫の加害植物として様々なラン科植物が報告されていることから、本種はこの植物群を広く寄主利用している可能性が高いが、未だ生態的知見に乏しい。今回、筆者らの現地調査により、ツヤハダヒメゾウムシの加害植物に関する新知見が得られたので、ここに報告する。

今回新たに確認されたツヤハダヒメゾウムシの加害植物は、ギンランおよびシロバナキンラン、ツチアケビ、エゾスズラン、オニノヤガラ、ノビネチドリである。さらに、筆者らは既報のキンラン、サイハイラン、キバナノショウキランからもツヤハダヒメゾウムシによる加害を観察している。なお、それぞれの観察データは下記の通りである。

ギンラン：茨城県つくば市松の里，高野勉目撃。

キンラン：2 exs., 22. V. 1999, 1 ex., 14. V. 2002, 茨城県つくば市松の里，高野勉採集（高野・大桃 2005, 図 1A（2018 年 5 月 16 日撮影））。2 exs., 2. V. 2015, 神奈川県横浜市都筑区，末次健司採集。

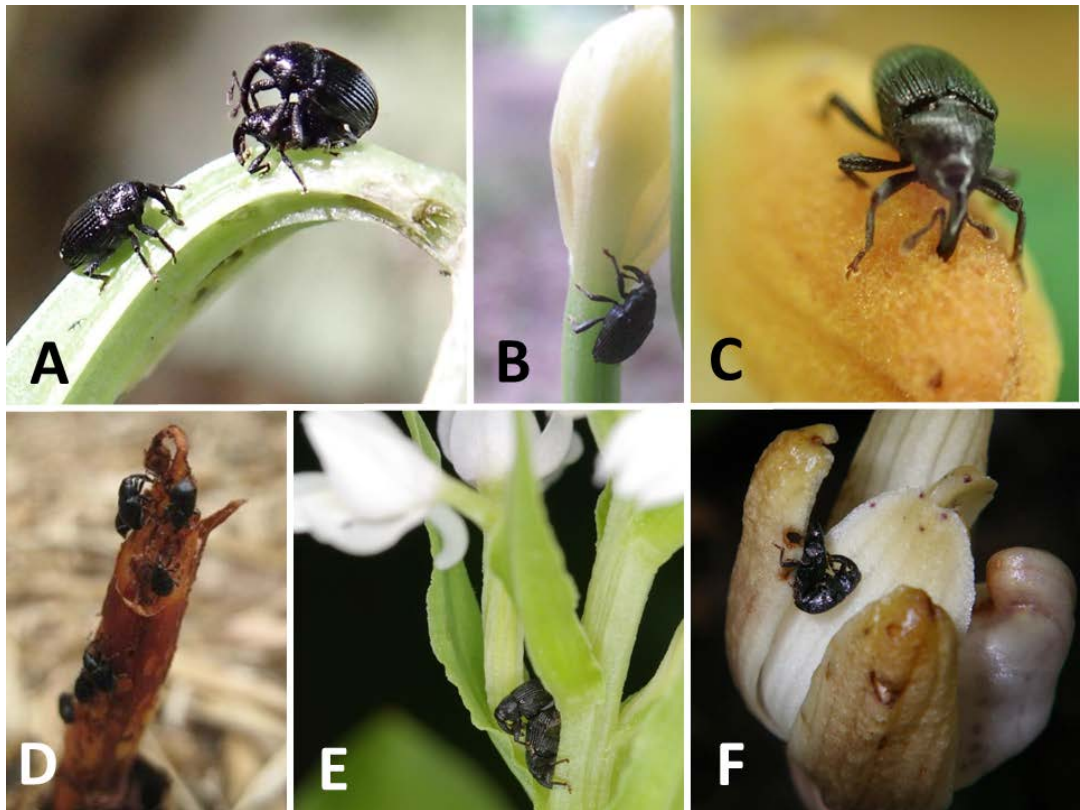


図1. ラン科植物を加害するツヤハダヒメゾウムシ。A：キンラン（茨城県つくば市松の里，高野 勉撮影）；B：シロバナキンラン（茨城県石岡市築谷，早川宗志撮影）；C：ツチアケビ（静岡県富士宮市粟倉，末次健司撮影）；D：オニノヤガラ（滋賀県東近江市建部北町，末次健司撮影）；E：ノビネチドリ（群馬県嬬恋村干保，中原直子撮影）；F：キバナノショウキラン（静岡県富士宮市粟倉，末次健司撮影）。

シロバナキンラン：2 exs., 4. V. 2015, 茨城県石岡市染谷, 早川宗志採集 (図 1B).

ツヤハダヒメゾウムシの成虫が, キンラン属植物に対して花や蒴果を加害することを観察している. つくば市松の里の森林総合研究所樹木園内では, ツヤハダヒメゾウムシによるギンランとキンランの両種への加害を 1999 年以來ほぼ毎年観察している.

サイハイラン：3 exs., 7. VII. 2018, 秋田県にかほ市象潟町, 末次健司採集.

サイハイランの蒴果や花序柄への産卵を確認している. また, 幼虫は蒴果や花序柄に穿孔することを確認している.

ツチアケビ：2 exs., 26. VII. 2014, 静岡県富士宮市粟倉, 末次健司採集.

ツチアケビの蕾や若い花序柄での交尾, 産卵を確認している (図 1C).

エゾスズラン：2 exs., 3. IX. 2012, 長野県茅野市豊平, 末次健司採集.

ツヤハダヒメゾウムシの成虫が, エゾスズランの蒴果や花序柄を加害することを観察している.

オニノヤガラ：10 exs., 4. VI. 2015, 滋賀県東近江市建部北町, 末次健司採集.

ツヤハダヒメゾウムシは, オニノヤガラの花序柄の下部で, 成虫が交尾, 産卵していること (図 1D), 幼虫は花序柄と塊茎に穿孔することを確認している.

ノビネチドリ：2 exs., 15. VI. 2010, 群馬県吾妻郡嬭恋村干保, 吉武啓・中原直子採集.

白花のノビネチドリの花序からツヤハダヒメゾウムシを見出している (図 1E).

キバナノショウキラン：6 exs., 27. VIII. 2013, 静岡県富士宮市粟倉, 末次健司採集 (図 1F).

さらに, サルメンエビネに対する加害が報告されている (永幡, 2016).

以上, ツヤハダヒメゾウムシは成虫期にラン科植物のうち, エビネ属およびキンラン属, サイハ

イラン属, ツチアケビ属, カキラン属, オニノヤガラ属, ノビネチドリ属, ツレサギソウ属, ショウキラン属を加害することが明らかになった. 今後, ラン科の他属からもツヤハダヒメゾウムシの加害植物が発見される可能性があるため, さらなる調査が必要である.

末筆ながら, 現地調査にご同行いただいた中原直子氏 (つくば市) および佐藤政幸氏 (富士市), 新井和也氏 (八王子市) に感謝する.

引用文献

- Hong, K.-J., 2000. Weevils on orchid in Korea (Coleoptera: Curculionoidea). *Korean Journal of Applied Entomology*, 39: 131-134.
- 城戸克弥, 2016. 福岡県産ヒメゾウムシ 3 種の記録. *月刊むし* (546): 55.
- Morimoto, K., 1994. Notes on orchid weevils in Japan, with description of a new species (Coleoptera: Curculionidae). *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, 20 (3-4): 233-241.
- 永幡嘉之, 2016. 個人ホームページ「世界のブナの森」. URL <https://ameblo.jp/rosalia-coelestes/entry-12117447871.html> (2018 年 8 月 24 日閲覧)
- Prena, J., 2011. Baridinae [pp. 251-261]. In: Löbl, I. & A. Smetana (eds.), *Catalogue of Palaearctic Coleoptera*, 7. 373 pp. Apollo Books, Stenstrup.
- 高野 勉・大桃定洋, 2005. 茨城県産甲虫リスト補遺 (1). *るりぼし*, 32: 35-61.
- 吉原一美, 2016. ゾウムシ科ヒメゾウムシ亜科. *日本の昆虫*, Vol. 6. 171 pp. 権歌書房, 福岡.
- (早川宗志 422-8017 静岡市駿河区大谷 5762 ぶじのくに地球環境史ミュージアム)
- (末次健司 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学大学院理学研究科)
- (高野 勉 301-0001 龍ヶ崎市久保台 2-10-5)
- (吉武 啓 901-0336 糸満市真壁 820 (国研) 農研機構 九州沖縄農業研究センター)

お知らせ・会務報告

日本甲虫学会第9回大会ご案内

日本甲虫学会第9回大会を以下の要領で開催いたします。詳細についてのご案内、最新情報は随時、大会ホームページ (<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/taikai/taikai2018.html>) に掲載しますのでお確かめください。

大会概要

会期：2018年12月1日（土）～2日（日）

会場：栃木県立博物館 〒320-0865 栃木県宇都宮市睦町
2-2 TEL: 028-634-1311（代表） FAX: 028-634-1310

会場へのアクセス：会場となる栃木県立博物館は、宇都宮市中心部のやや西方、中央公園内にあります。JR宇都宮駅、東武宇都宮駅からバスの便があります。最寄りのバス停は、「中央公園博物館前」または「文芸芸大附属中高」または「睦町」となります。タクシーで向かわれる場合には、JR駅から15分、1,000円ほどになります。くわしくは、栃木県立博物館ホームページ (<http://www.muse.pref.tochigi.lg.jp/access/index.html>) に記載されていますので、こちらを参考にしてください。

なるべく公共交通機関でご来館ください。博物館北側駐車場は、新収蔵庫建築工事のため11月中旬ごろから使用できなくなる見込みです。自家用車をご利用の際は、近隣の有料駐車場等をご利用ください。なお、駐車場の案内は致しかねますので、ご了承ください。

大会実行委員長：栗原隆（栃木県立博物館）

大会日程（案）

時間や会場は変更になることがありますのでご注意ください。変更内容は当日、受付付近に掲示します。



博物館までのアクセス



大会HP



・1日目：12月1日（土）

- 9:30～ 受付開始
 10:00～12:00 評議員会（講堂）
 13:00～14:00 研究発表（口頭）1（講堂）
 14:15～16:00 公開シンポジウム「特定外来生物クビアカツヤカミキリの日本への侵入と現状」（講堂）
 16:00～17:00 総会・学会賞授与式・受賞講演（講堂）
 18:00～20:00 懇親会（ホテルニューイタヤ：宇都宮市大通り2丁目4番6号）

・2日目：12月2日（日）

- 9:30～11:00 同定会（研修室），ポスター発表コアタイム
 11:00～12:00 研究発表（口頭）2（講堂）
 13:00～15:00 研究発表（口頭）3（講堂）
 15:10～16:10 分科会1（講堂，研修室）
 16:20～17:20 分科会2（講堂，研修室）

大会・懇親会参加申込

以下の内容をご記入の上，甲虫学会大会ホームページ（URLは上記）よりお申し込みください。はがきまたはファックスでお申し込みの場合には，下記の項目をご記入の上，栃木県立博物館栗原宛お申し込みください。11月1日（木）以降に申し込まれた方については，要旨集の名簿へのお名前の記載はできない場合がございます。

- 1) お名前（漢字と読み・ローマ字）
- 2) 一般・学生の別
- 3) 所属またはご在住の都道府県名か市町村名
- 4) 対象分野（同定会担当可能分野とします），同定会講師可否
- 5) 連絡先住所
- 6) 連絡先電話番号
- 7) メールアドレス
- 8) 懇親会参加の有無（同伴者がいる場合には担当者へご相談ください）

懇親会場の位置・大会会場からの経路：懇親会場のホテルニューイタヤは，JR宇都宮駅西口から大通り沿いに，徒歩5分ほどの位置にあります。最寄りのバス停は上河原となります。1日目のプログラムが17:00頃終了後，博物館の近くからホテルのマイクロバスなどで送迎の予定です。

参加費

大会参加費（11月1日以降のお申し込みの方）：一般3,000円，学生2,000円，高校生以下は無料（ただし要旨集・入館料などは実費を申し受けます）。

懇親会費：7,000円程度予定

※参加費・懇親会費は会場受付にて申し受けます。10月31日以前の早期申込をされた方は，参加費のみを1,000円ずつ割引いたします。

公開シンポジウム「特定外来生物クビアカツヤカミキリの日本への侵入と現状」

大会1日目：12月1日（土）14:15～16:00，講堂 標記のテーマで，公開シンポジウムを開催致します。甲虫学会会員で大会参加の方は申し込み不要です。会員でない一般の方も無料で参加できます。一般参加枠は定員50名で，事前申込制にて受け付けます。ご希望の方は，「公開シンポジウム参加希望」と明記の上，参加される方の氏名，住所，連絡先（メールアドレス、電話またはファックス番号を栃木県立博物館栗原宛お知らせください。ただし，一般参加枠が埋まり次第，締め切りとさせていただきますので，確実な参加をご希望の方はお早めにお申し込みください。

同定会

大会2日目:12月2日(日)9:30～11:00, 研修室 各甲虫群の専門家がその場で甲虫標本の同定を行います。同定対象の標本は、データラベルの付いた甲虫類に限らせていただきます(タトウなどマウントされていない標本は不可)。なお、標本はご自身で整理し、できるだけ図鑑などで名前を調べた上で、分からなかったものだけをお持ちいただき、会場が混雑する恐れがありますので、多量のお持ち込みはご遠慮ください。

大会に参加される甲虫学会会員のみなさまには、講師として広くご協力をお願いいたします。参加お申込の際に、講師担当可否と対応可能分類群を記してください。

※講師各位は、同定ラベルと筆記用具を持参ください。

研究発表申込

大会中の研究発表(口頭・ポスター)をご希望の会員の方は、以下の項目を明記の上、下記の専用アドレスへ電子メールで申し込んでください。期日が迫っており、大変申し訳ありませんが、講演要旨作成の都合上、研究発表はすべて10月31日(水)までにお申し込みください。

- 1) 演者名(所属)(連名の場合にはすべて書く)
- 2) 連絡先(メールアドレス, 1件でよい)
- 3) 口頭/ポスターの別
- 4) 演題(50字以内)
- 5) 講演要旨(500字前後)

※口頭発表の注意事項:口頭発表は質疑を含めて15分です。原則としてご持参のPCを会場のプロジェクターに接続する方法でご使用ください。プロジェクターへの接続はVGA端子(15ピン)のみです。MacやHDMI使用の場合には対応アダプタを必ず持参ください。会場にもPC(Windows, Office 2013か2010)を準備しますので、そちらを使用する場合には、使用できるパワーポイントなどのファイルをUSBメモリなどでお持ちください。各セッションの最初の発表以外、口頭発表を終えられた方は次の発表の座長をご担当ください。

※ポスター発表の注意事項:ポスターは幅90cm,高さ180cmの枠内に収まるようご準備ください。1日目から掲示可能ですが、2日目午前のコアタイム中(9:30～11:00)には、必ず掲示の上、来場者への説明、質疑応答ができるようにご準備ください。ポスターの郵送をご希望の際は、11月27日(火)までにお送りください。掲示は原則、発表者が当日に行ってください。

分科会

今回の大会では、会場の都合上、分科会を変則で開催せざるを得ないため、ご不便をおかけすることになり誠に申し訳ありませんが、どうかあしからずご了承ください。今回、例年の開催実績から、6分科会(雑甲虫、ゴミムシ、水生甲虫、ハネカクシ、カミキリ、ゾウムシ)のみを実施し、新規の募集は致しません。開催プログラムにつきましては、実行委員会にて調整の上、ホームページに掲載および当日会場での掲示にて参加者にお知らせします。各分科会の世話人の方々には、実行委員会とご相談の上、実施いただけるよう、お願いいたします。各会場にプロジェクターは準備しますが、PCは原則演者か世話人の方でご準備いただき、接続するようにしてください。

昼食

会場の近隣には博物館レストラン(定員約30名)や五右衛門、ジョイフル等の飲食店、セブンイレブン、ヤオハン(スーパー)がございりますが、当日はかなり混雑することが予想されます。会場では、研修室と博物館レストランの脇のスペース(飲食可の掲示あり)のみ、飲食が可能です。講堂は飲食禁止となっております。

宿泊

実行委員会では宿泊の斡旋は致しません。博物館の周辺には、ホテル等の宿泊施設があまりありませんので、JR宇都宮駅および東武宇都宮駅の周辺で探していただけるのが、博物館へのアクセスが便利です。

各種申込・お問い合わせ先

大会・懇親会参加，研究発表については，上に示す要領で，原則として大会 HP および電子メールでお申し込みください。それぞれの申込先アドレスと担当者は以下のようになります。

大会参加・懇親会申込 E-mail: participation@kochugakkai.sakura.ne.jp (長谷川道明・奥田好秀・栗原隆)

研究発表申込 E-mail: presentation@kochugakkai.sakura.ne.jp (金子直樹・瑤寺裕)

その他ご質問等については下記の担当者へご連絡ください。

会場・公開シンポジウム関係：栗原隆 E-mail: kuriharat03@pref.tochigi.lg.jp

分科会・懇親会関係：岸本年郎 E-mail: tetrabothrus@gmail.com

会費（大会参加費・年会費）関係：長谷川道明 E-mail: hasegawa-michi@msi.biglobe.ne.jp

大阪年末例会開催のお知らせ

2018年度第3回大阪例会を下記の通り開催いたします。皆様，多数ご参加ください。

日時：2018年12月8日（土）10時～16時40分

場所：大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区長居公園1-23）Tel. 06-6697-6221

HP: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/> 通用門よりお入り下さい。

プログラム：	10:00～12:00	自由懇談・同定会，大阪例会運営幹事会
	12:00～13:00	昼食，休憩
	13:00～13:30	会務報告会・例会事務連絡
	13:30～15:30	講演
	15:40～16:40	「一人一話」会
	17:30～19:30	懇親会（場所：アサヒビアケラー・アベノを予定） 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-36 Tel. 06-6641-6282

定期購読のご案内

昆虫用品は

むし社

検索

月刊むし

B5判，56～80頁 毎月20日発売
定価1260円（送料100円）

「月刊むし」は，1971年3月に創刊された昆虫専門の月刊雑誌で，30年以上続いて発行されています。過去のバックナンバーの内容はむし社HPをご覧ください。
<http://homepage2.nifty.com/mushi-sha/>

569号（2018年8月号）
ゼフィルス特集号

- 沖縄島で得られた日本未記録のムネアカナガミドリサルハムシ

568号（2018年7月号）

- 中国産セダカオサムシ類の新種，新亜種
- カタゾウムシ類をめぐる色と斑紋パターンの収斂に関する覚書 補遺（1）
- インド北東部で得られたミヤマクワガタ属の1新種

「月刊むし」定期予約購読

本誌は一般書店での販売のほか，定期予約購読も行っております。定期予約の場合，送料は無料で，次のように誌代も割引となりますので，ぜひご利用下さい。

6ヶ月予約	定価 7560円	→	7300円
12ヶ月予約	定価 15120円	→	14600円
24ヶ月予約	定価 30240円	→	29200円

お申し込み方法

郵便振替用紙に「月刊むし予約」と明記のうえ，下記の口座あてにご送金ください。
郵便振替口座 00160-5-159262 むし社
新規お申し込みは，当月発売分よりとさせていただきます。

月刊むし・昆虫図説シリーズ9
日本のセンチコガネ
とその仲間

謎の多いセンチコガネとその仲間
9種の魅力を満載した1冊！
美麗な標本の他に，センチコガネの糞の運搬シーンなどの貴重な生態シーンを多数の写真で紹介。

著者：塚本圭一・稲垣政志・河原正和・森 正人
A4判118頁（48カラー頁）

定価 6,912円 [税込・送料サービス]

むし社

〒164-0001 東京都中野区中野 2-23-1-209 Tel. 03-3383-1461~1462 Fax. 03-3383-1467

懇親会会費：5,000 円（飲み放題）

講演：「日本産ツツキノコムシの寄主利用」

演者：小林卓也氏（京都大学大学院 理学研究科 動物生態学研究室）

要旨：ツツキノコムシ科は体長1~6 mmの微小な甲虫であり、全世界から約700種が記載されている。ほとんどの種がカワラタケやサルノコシカケのような多孔菌類を寄主としており、グループごとに利用する寄主がある程度決まっている。本講演では日本産ツツキノコムシ類の紹介に加え、最近明らかになった近縁種間での利用寄主の違いや系統関係から推定される寄主利用の進化パターンについて紹介する。

例会・懇親会の事前の参加申し込みは不要です。当日、例会参加者はお茶代・資料代として200円を徴収いたします。懇親会は当日受け付けます。

また、秋季例会の運営幹事会で協議いたしますが、山本勝也氏によるヤマトオサムシダマシについてのご講演が入るかもしれません。詳細が決まり次第、HP上でお知らせいたしますので、聴講をご希望の方はHPをご確認ください。

（大阪例会運営幹事 澤田義弘 E-mail: sawada-f@gol.com）

東京例会開催のお知らせ

2018年第3回例会を下記の通り開催致します。奮ってご参加ください。

日時 12月22日（土曜日） 10:00～16:30
場所 国立科学博物館附属自然教育園講義室
 （正門を右へ行って右手の建物）

〔交通〕 JR山手線「目黒」駅東口より目黒通り徒歩7分。

または、東京メトロ南北線/都営三田線「白金台」駅
 出口1より目黒通り徒歩4分。



当日の企画

1 談話会：10:00～13:00

自由な歓談の時間として会場を開放いたします。ミニ同定会や蘇虫会（自分にはさほど必要ない虫を必要とされる方に譲る会）など、内容には特に制約がありませんので、お気軽にご参加ください。

2 話題提供：13:00～15:00

梶村 恒：「キクイムシー菌類との関係を深めてきた甲虫ー」

キクイムシは、ゾウムシ科として取り扱われ、キクイムシ亜科 (Scolytinae) とナガキクイムシ亜科 (Platypodinae) に属しています。世界で7千、日本で3百をゆうに超える種数が記録されています。しかし、愛好家はかなり少ないものと思われます。ほとんどが体長数mmと微小で、体色も黒～茶と、まさにゴマ粒に等しいためです。必然的に、その生態もあまり知られていない、あるいは特定の種類の情報が一般化されているかもしれません。本講演では、キクイムシがいかに多様で興味深い甲虫であるかを、お話しいたします。具体的には、その食性、配偶様式、繁殖戦略を中心に紹介し、共生菌との相互作用についても実証例を提示していただきます。

3 一人一話：15:00～16:30

4 忘年会：当日の17時00分頃より、予定しております（会場未定）。事前にお申し込みください。申し込まれた方には、後日、会場案内等をお知らせします。

（東京例会運営幹事 高橋和弘 〒259-1217 平塚市長持 239-11 E-mail: kazu5@mg.scn-net.ne.jp）

目 次

■解説

保科英人：日本産ヒゲブトチビシデムシ類要説 (VIII)	1
池田 大・吉富博之：日本産オビジョウカイモドキ属の解説	7
渡辺修二・千葉武勝：甲虫コレクションガイド12 岩手県立博物館の甲虫コレクション	23

■論文

重藤裕彬・小島弘昭：奄美群島請島未記録のハムシ科4種	12
小堀 健：ソテツの植栽に伴うコゲチャサビカミキリの分布拡散	14
佐々木恵一・細川浩司・長谷川道明：北海道から発見された日本初記録のキタミトホシカミキリ	19
秋山秀雄：台湾緑島から採集されたカミキリモドキ科2種の記録	22
中野文尊：日本初記録のキクイムシ <i>Cyclorhipidion corrugatum</i>	28
渡部晃平：石川県のドロムシ科・ヒメドロムシ科	32

■短報

矢代敏久・矢代亜由美：大東諸島初記録となるヒゲブトテントウダマシの採集	6
佐野真吾・今澤大智：岩手県におけるキタコマルガムシの記録	18
齋藤孝明：ケシマルムシ属微小甲虫を神奈川県で採集	26
伊藤 淳：東京都稲城市でオオタツマアカヒメテントウを採集	29

内藤準哉・有本久之：沖永良部島におけるコメツキムシ科甲虫2種の記録	30
齋藤孝明：神奈川県でオオシモフリコメツキの縦縞紋様の変異個体を採集	31
渡辺黎也：茨城県におけるクナシリシジミガムシの記録	38
末長晴輝・山地 治：岡山県におけるアヤスジミゾドロムシの採集記録	39
伊藤建夫：ケブカヒメヒラタホソカタムシを長崎県(対馬)と奈良県から記録	41
松島良介・秋田勝己：大東諸島におけるゴミムシダマシ科4種の記録	42
中田勝之：石川県におけるダイコクアリヅカムシの記録	43
渡部晃平・中島 淳・加藤雅也：与那国島におけるミナミツブゲンゴロウの初記録	44
早川宗志・末次健司・高野 勉・吉武 啓：ツヤハダヒメゾウムシ(コウチュウ目ゾウムシ科)に関する生態覚書	45

■書評・論文紹介

論文紹介 Villastrigo <i>et al.</i> (2018)	13
---------------------------------------	----

■お知らせ・会務報告

日本甲虫学会第9回大会ご案内	47
大阪年末例会開催のお知らせ	50
東京例会開催のお知らせ	51

さやばね ニューシリーズ 第31号

発行日 2018年9月30日
 次号は2018年12月下旬発行予定
 発行者 野村周平
 編集者 吉富博之(委員長), 大林延夫, 谷角素彦, 小島弘昭, 奥島雄一, 保科英人, 震島悠介
 発行所 日本甲虫学会
 〒305-0005 つくば市天久保4-1-1
 国立科学博物館動物研究部
 電話 03-3364-2311

原稿送付先(さやばねニューシリーズ)
 〒790-8566 愛媛県松山市樽味3-5-7
 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室 吉富博之
 電子メール: hymushi@agr.ehime-u.ac.jp
 印刷所 原印刷株式会社
 年会費 一般会員 8,000円(前納制)
 学生会員 5,000円(前納制)
 郵便振替口座番号 00880-2-190472
 ホームページ <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/>